Ⅰ　5類定点把握感染症

（性感染症を除く）

5 類定点把握感染症（性感染症を除く）

1．2016（平成 28）年のまとめ

2016 (平成 28) 年の大阪府感染症発生動向調査事業における 5 類定点把握感染症 (性感染症を除く) の特徴について概説する（表)。全国では、定点あたりの年平均の週間報告数として、インフルエンザ、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性耳下腺炎、マイコプラズマ肺炎、ヘルパンギーナ、流行性角結膜炎の順であった。大阪府では、感染性胃腸炎、インフルエンザ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性耳下腺炎、マイコプラズマ肺炎、ヘルパンギーナ、RS ウイルス感染症の順であり、全国の発生動向や傾向と若干の相違が認められている。

大阪府の発生動向について、2015（平成 27）年と比較すると、インフルエンザの年平均の週間報告数が 3.29 から 6.06 へ、昨年より、84.2％の増加が見られた。また、流行性耳下腺炎が 0.35 から 1.39 へ著しく増加していた。マイコプラズマ肺炎が、0.71 から 1.24 へ増加していた。ヘルパンギーナの週間報告数は、0.48 から 0.82 へ増加していた。一方、昨年、平均週間報告数が 2.60 であった手足口病が 2016 年は 0.26 へと、90％激減していた。

表. 定点あたり年平均の週間報告数

全　国			大　阪　府		
順位	感染症	定点当たり報告数	順位	感染症	定点当たり報告数
1	インフルエンザ	6.82	1	感染性胃腸炎	7.15
2	感染性胃腸炎	6.81	2	インフルエンザ	6.06
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.24	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.08
4	流行性耳下腺炎	0.97	4	流行性耳下腺炎	1.39
5	マイコプラズマ肺炎	0.80	5	マイコプラズマ肺炎	1.24
6	ヘルパンギーナ	0.79	6	ヘルパンギーナ	0.82
7	流行性角結膜炎	0.73	7	RSウイルス感染症	0.82

（文責：本村）

1）2016（平成２8）年に注目された感染症

［麻しん］

◯　2016（平成 28）年、日本で 159 例、大阪府内で 51 例の麻しんの報告例があり、（詳細については五類全数把握感染症の項に記してあるので、ご参照ください）日本全体の 32.1%を占めた。

麻しんの発生動向・報告数（日本、大阪府）

	日　本	大阪府	府の発生割合
2016 年	159　人	51　人	32.1%
2015 年	35　人	2　人	5.7%
2014 年	462　人	45　人	9.7%

その中で、関西国際空港内事業所での麻しん集団感染事例は、報道等でも大きく取り上げられ世間の関心を集めたことは記憶に新しい。ここでは、集団感染事例（33 名）の概要について述べてみたい。なお、事例の詳細については IASR Vol. 38 p.48-49: 2017 年 3 月号「関西国際空港内事業所での麻疹集団感染事例について」をご参照いただきたい。

2016 年 8 月から 9 月に発生した関西国際空港内事業所での麻しん集団感染事例は、2015 年 3 月 27 日、日本が世界保健機関（WHO）西太平洋地域事務局により麻しん排除状態にあると認定後、初めて同一施設内における成人での集団発生となった。図 1 に初発例の発症日を X 日とする流行曲線と感染症発生動向調査（NESID）上の病型を示す。また発症時の年齢分布と病型は図２のとおりである。

図１）流行曲線と NESID による病型

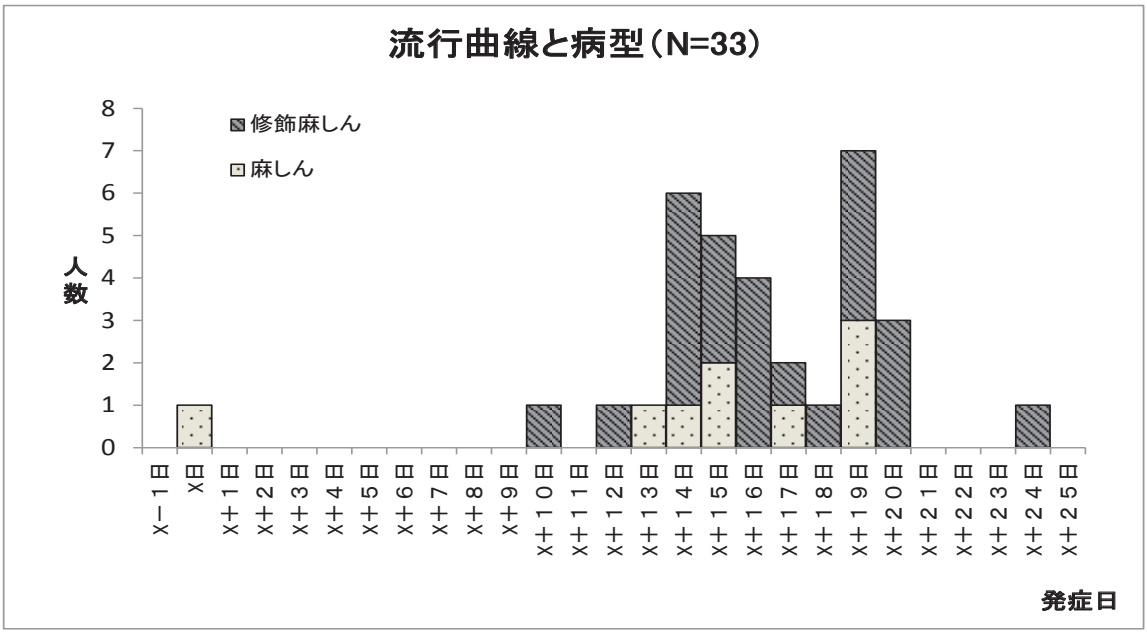
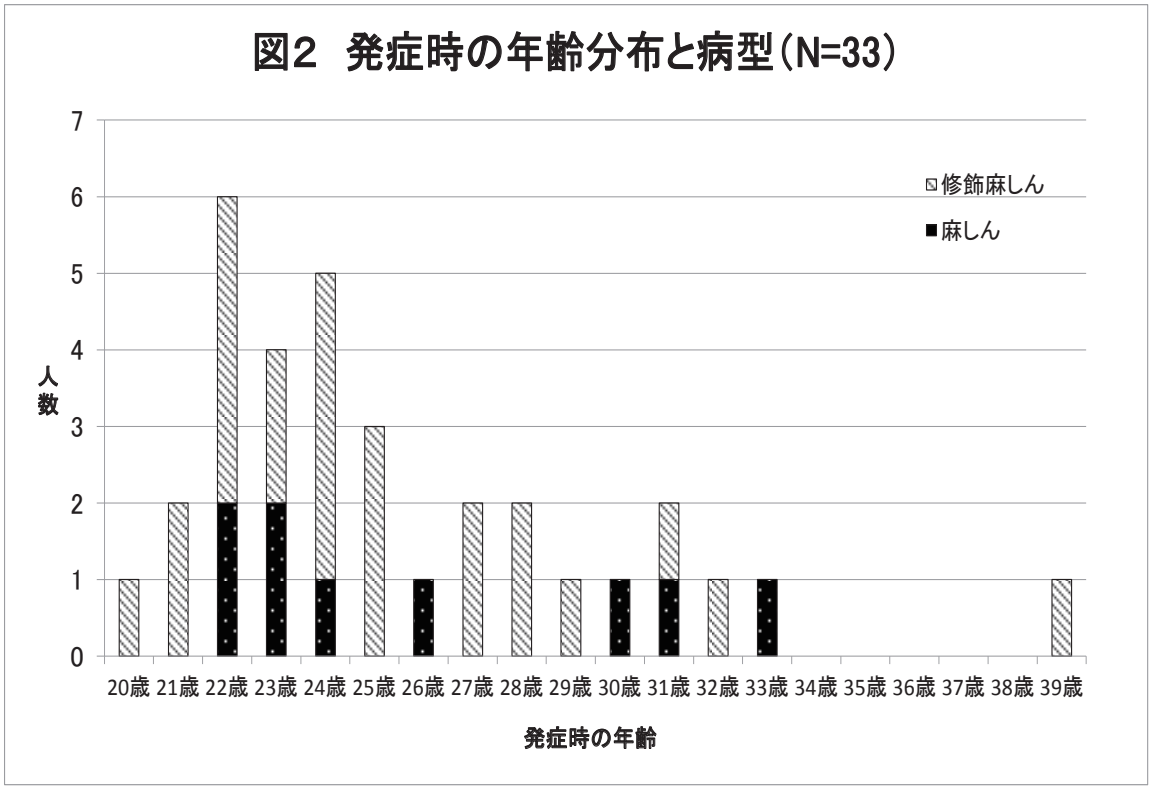


図２）発症時の年齢分布と NESID による病型



これらのことから、初発例と最終の発病者を除くと発症者は X+10 日から X+20 日の 11 日間に集中したことや 20 代から 30 代前半を中心に若い世代に発生したこと、病型として修飾麻しんが 72.7% を占めたことがわかる。

遺伝子型について述べると、33 名中 29 名に同じ麻しんウイルスの遺伝子型 H1 がみられ、29 名の N 遺伝子中の遺伝子型決定部位 450 塩基の配列は一致していた。また、予防接種歴は 33 名中の 31 名（93.9%）について国立感染症研究所の実地疫学専門家養成コース研修員（FETP）による聞き取り調査に協力が得られた。その調査記録によると 14 名（45.2%）の方が麻しん含有ワクチンを２回接種していることが判明している。その内、13 名が修飾麻しんを呈したことがわかった。

この事例から考える対策は、第一には、２回の麻しん・風しん（MR）ワクチン接種を受けること、第二に、２回のワクチン接種率をそれぞれ 95%以上にして集団免疫を高めておくこと、それ以外には、患者をできるだけ早期に確実に診断すること、その接触者の健康観察を確実に行うこと、有症状者は休業すること、また海外渡航者が多数往来する施設の従事者や流行地へ海外渡航する人たちは２回のワクチン接種を確実に受けておくことなどがあげられる。

（文責：木下）

[梅毒]

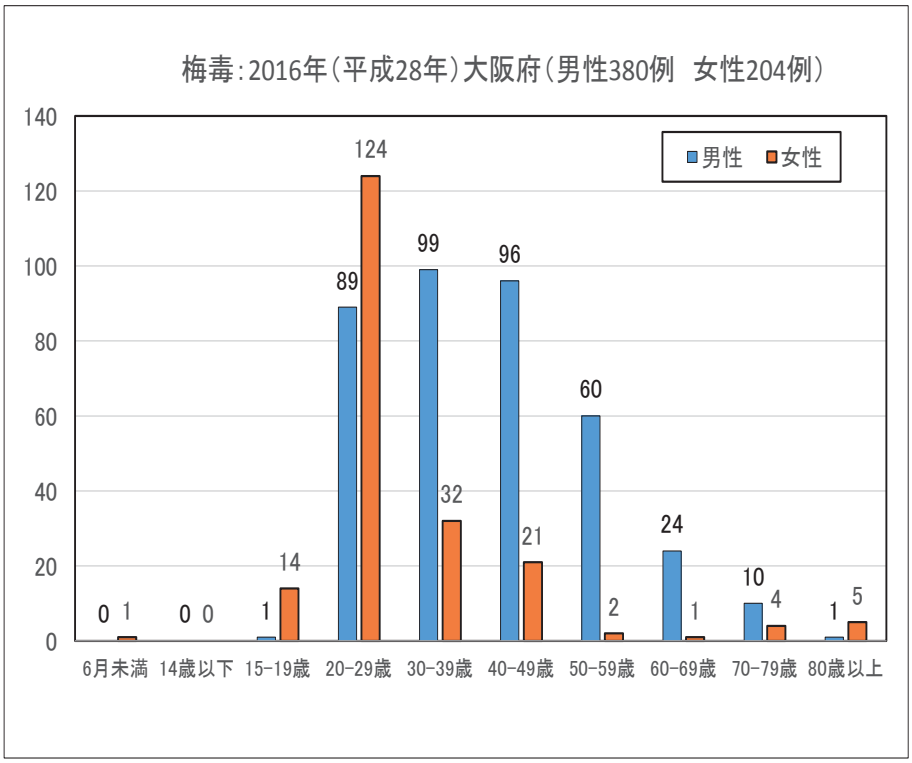
ペニシリン導入後、罹患率は著明に低下していたが、米国では 21 世紀初頭より増加傾向に転じ [1)]、本邦でも 2010 (平成 22) 年以後急激な増加を示している。当初男性同性愛者において顕著であったが、最近では男女の異性間接触例でも増加しており、新生児梅毒の増加も社会的脅威となっている [2)]。

本稿では大阪府の現況報告をする。2014（平成 26）年男性 215 例 (前年比 +52.5%)、女性 25 例 (前年比 +56.3%)、2015（平成 27）年男性 239 例 (前年比 +11.2%)、女性 83 例 (前年比 +232.0%)、2016（平成 28）年男性 380 例 (前年比 +59.0%)、女性 204 例 (前年比 +145.8%) と、特に女性に著明な増加を認めた。季節的変動に関しては① 1-3 月期：男 81 例、女 35 例　② 4-6 月期：男 96 例、52 例　③ 7-9 月期：男 115 例、女 65 例　④ 10-12 月期：男 88 例、女 52 例と夏季に多かった。

地域別では⑩大阪市東部 215 例 (36.8%)、⑧大阪市北部 188 例 (32.2%) と 2 地域で全体の 69.0% を占めた。他域での報告数は 1 地域あたり 11-36 例にとどまっていた。性別でも前記 2 地域で男性 250 例 (65.8%)、同女性 153 例 (75.0%) と大半を占めた。

年齢別 (図) は全体で、6 ヶ月未満 1 例 (0.2%)、6 ヶ月以上 -14 歳 0 例、15-19 歳 15 例 (2.7%)、20-29 歳 213 例 (36.5%)、30-39 歳 131 例 (22.4%)、40-49 歳 117 例 (20.0%)、50-59 歳 62 例 (10.6%)、60-69 歳 25 例 (4.3%)、70-79 歳 14 例 (2.4%)、80 歳以上 6 例 (1.0%) であった。

女性では 20 歳台が 124 例（60.7%）と多数を占め、男性では 20 歳台 89 例、30 歳台 99 例、40 歳台 96 例となだらかな peak を形成しており、20 -49 歳で 74.7%を占めた。新生児 1 例を含む未成年例が全体の 2.7 %、特に 10 歳代では男 1 例、女 14 例と男女差が際立っていた。60 歳以上の高齢者においても 7.7%認めた。



治療奏功の判定には血清抗体価低下の確認が必須であるが 3)、過去の自験 56 例中 16 例 (28.6％) において治療開始後の抗体価測定未施行であり、治療後抗体価測定意義に対する十分な説明が重要であると考える。

1）Kent ME, Romanelli F. Reexamining Syphillis：An Update on Epidemiology, Clinical Manifestation, and Management. The annals of Pharmacotherapy 42 : 226-236, 2008.

2) IDWR, 18(12):7-8, 注目すべき感染症「梅毒」
http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/IDWR2016/idwr2016-12.pdf

3）性感染症　診断・治療　ガイドライン 2016。日本性感染症学会　27（1 Supplement）:46-50, http://jssti.umin.jp/pdf/guideline-2016.pdf

(文責　亀岡)

2）感染症別・週別患者報告状況

夏型感染症（咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ等）や冬型感染症（インフルエンザ、感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症等）に分類される。「2016（平成 28）年の総括」で記した疾患について、定点当たり報告数の最高値が報告された週や最高値を示した（表 1）。インフルエンザは、2015（平成 27）年と比較して 4 週遅く、2 月第 2 週に最高値を示した。一方、マイコプラズマ肺炎は、2015（平成 27）年と比較して 9 週早く、10 月第 3 週に、RS ウイルス感染症は、2015（平成 27）年と比較して 7 週早く、10 月第 3 週に最高値を示した。

感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、2015（平成 27）年とほぼ同時期に、最高値が報告された。

表1. 定点あたり報告数の最高値が報告された週や最高値（2016年）

大　阪　府

	疾患	定点当たり報告数の最高値が報告された週	定点当たり報告数の最高値	警報レベル開始基準値
1	インフルエンザ	6週（2月第2週）	41.28	30
2	感染性胃腸炎	50週（12月第2週）	21.25	20
3	ヘルパンギーナ	28週（7月第2週）	5.96	6
4	マイコプラズマ肺炎	42週（10月第3週）	3.29	未設定
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	21週（5月第4週）	3.19	8
6	RSウイルス感染症	42週（10月第3週）	2.90	未設定
7	流行性耳下腺炎	42週（10月第3週）	2.57	6

2016（平成 28）年と 2015（平成 27）年における感染症発生動向の増減を比較すると、2016（平成 28）年は、インフルエンザ、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、マイコプラズマ肺炎、感染性胃腸炎（ロタウイルス）が増加傾向を示していた。特に、増減率をみると、流行性耳下腺炎は 2015（平成 27）年に比べ 3.86 倍に増え、インフルエンザは 1.81 倍、マイコプラズマ肺炎は 1.71 倍、ヘルパンギーナが 1.71 倍であった。流行性耳下腺炎、マイコプラズマ肺炎は、流行した 2015（平成 27）年を超えて、大流行した。

（文責：本村）

疾患	2016年	2015年
インフルエンザ　↑	96,701	53,678
RSウイルス感染症　↓	8,542	10,596
咽頭結膜熱　↑	5,231	4,640
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎　↓	21,607	23,081
感染性胃腸炎　↑	74,465	63,584
水痘　↓	4,254	5,534
手足口病　↓	2,689	27,500
伝染性紅斑　↓	1,998	5,409
突発性発しん　↓	4,857	5,491
百日咳　↓	166	219
ヘルパンギーナ　↑	8,563	5,096
流行性耳下腺炎　↑	14,504	3,761
小児科定点疾患　合計	243,577	208,589
急性出血性結膜炎　↓	31	42
流行性角結膜炎　↑	1,454	1,053
眼科定点疾患　合計	1485	1095
細菌性髄膜炎　↑	29	16
無菌性髄膜炎　↑	59	35
マイコプラズマ肺炎　↑	1,101	640
クラミジア肺炎（オウム病を除く）　↓	4	9
感染性胃腸炎（ロタウイルス）　↑	405	293
基幹定点疾患　合計	1598	993

3）感染症別・ブロック別患者報告状況

大阪府内を 11 ブロック（1. 豊能、2. 三島、3. 北河内、4. 中河内、5. 南河内、6. 堺市、7. 泉州、8. 大阪市北部、9. 大阪市西部、10. 大阪市東部、11.　大阪市南部）に分け、各ブロックの構成市町村、定点数、人口、出生数を解析評価した。

感染症別に、1 年間でより流行が認められた地域を定点当たりの年平均報告数を表に要約した。年平均の定点当たり報告数から地域ブロックを評価した場合、上位 8 疾患のうち、南河内は 3 疾患（感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性耳下腺炎）で首位を占めていた（表）。一方、三島ブロックは 4 疾患（インフルエンザ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱）で、最下位であった。

表. 感染症別・ブロック別患者報告状況 （網掛け部分は最高ブロックと報告数）

インフルエンザ	
豊　能	5.04
三　島	4.42
北河内	6.18
中河内	6.11
南河内	8.55
堺　市	5.95
泉　州	6.20
大阪市北部	6.67
大阪市西部	8.88
大阪市東部	5.39
大阪市南部	4.91
府内　平均	6.06

感染性胃腸炎	
豊　能	5.86
三　島	5.66
北河内	8.60
中河内	11.35
南河内	11.39
堺　市	3.56
泉　州	8.14
大阪市北部	7.11
大阪市西部	6.68
大阪市東部	3.98
大阪市南部	5.09
合　計	7.15

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	
豊　能	2.13
三　島	0.96
北河内	2.26
中河内	2.83
南河内	3.33
堺　市	1.22
泉　州	2.19
大阪市北部	2.05
大阪市西部	2.08
大阪市東部	1.09
大阪市南部	2.40
合　計	2.08

流行性耳下腺炎	
豊　能	0.59
三　島	1.19
北河内	1.37
中河内	1.72
南河内	2.47
堺　市	0.89
泉　州	2.23
大阪市北部	2.21
大阪市西部	0.90
大阪市東部	0.85
大阪市南部	0.89
合　計	1.39

ヘルパンギーナ	
豊　能	0.68
三　島	0.64
北河内	1.12
中河内	0.95
南河内	0.97
堺　市	0.71
泉　州	0.89
大阪市北部	1.10
大阪市西部	0.74
大阪市東部	0.42
大阪市南部	0.64
合　計	0.82

RSウイルス感染症	
豊　能	0.65
三　島	0.35
北河内	1.03
中河内	0.93
南河内	1.36
堺　市	0.54
泉　州	0.69
大阪市北部	1.40
大阪市西部	1.25
大阪市東部	0.54
大阪市南部	0.56
合　計	0.82

咽頭結膜熱	
豊　能	0.34
三　島	0.26
北河内	0.73
中河内	1.10
南河内	0.49
堺　市	0.26
泉　州	0.40
大阪市北部	0.41
大阪市西部	0.49
大阪市東部	0.53
大阪市南部	0.39
合　計	0.50

突発性発しん	
豊　能	0.41
三　島	0.31
北河内	0.60
中河内	0.67
南河内	0.54
堺　市	0.24
泉　州	0.59
大阪市北部	0.55
大阪市西部	0.39
大阪市東部	0.34
大阪市南部	0.35
合　計	0.47

（文責：本村）

4）感染症別・年齢別患者報告状況

インフルエンザ定点、基幹定点を除いた小児科定点における年齢報告数で最も多かった年齢は 1 歳台、次いで 2 歳台、4 歳台、3 歳台、5 歳台の順であった。1 歳台の報告数の多い疾患は、感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症、突発性発しん、ヘルパンギーナ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。2 歳台の報告数の多い疾患は、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、流行性耳下腺炎であった。3 歳台の報告数の多い疾患は、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性耳下腺炎、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱であった。

2016（平成 28）年は、2015（平成 27）年と比べ、手足口病の報告数が少なくなったため、今回の年齢別患者報告状況で、検出されていない。インフルエンザは、小児科定点に加え、内科定点医療機関からも報告されるため、20 歳以上の報告数が最多で、次が 10 歳から 14 歳台であった。小学校、中学校、職場など、集団生活を送る世代に多い疾患である。眼科定点疾患の流行性角結膜炎は 2 歳台が多く、基幹定点疾患のマイコプラズマ肺炎は、10 歳から 14 歳台が好発年齢であった。インフルエンザを除くと、どの年代でも感染性胃腸炎が多く報告されていた。

（文責：本村）

表. 定点あたり報告数の最高値が報告された年齢区分

大 阪 府	
疾患名	最高値が報告された年齢区分
インフルエンザ	20歳以上
RSウイルス感染症	1歳台
咽頭結膜熱	1歳台
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5歳台
感染性胃腸炎	1歳台
水痘	4-5歳台
手足口病	1歳台
伝染性紅斑	5歳台
突発性発しん	1歳台
百日咳	6か月未満
ヘルパンギーナ	1歳台
流行性耳下腺炎	5歳台
急性出血性結膜炎	20歳以上
流行性角結膜炎	20歳以上
マイコプラズマ肺炎	5歳台
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	1歳台

2016 年（平成 28 年）感染症発生動向調査　カレンダー

調査期間は月曜日から日曜日までの1週間を単位としています。

	週	調査期間
1月	1週	1/4 ～ 1/10
	2週	1/11 ～ 1/17
	3週	1/18 ～ 1/24
	4週	1/25 ～ 1/31
2月	5週	2/1 ～ 2/7
	6週	2/8 ～ 2/14
	7週	2/15 ～ 2/21
	8週	2/22 ～ 2/28
	9週	2/29 ～ 3/6
3月	10週	3/7 ～ 3/13
	11週	3/14 ～ 3/20
	12週	3/21 ～ 3/27
	13週	3/28 ～ 4/3
4月	14週	4/4 ～ 4/10
	15週	4/11 ～ 4/17
	16週	4/18 ～ 4/24
	17週	4/25 ～ 5/1

	週	調査期間
5月	18週	5/2 ～ 5/8
	19週	5/9 ～ 5/15
	20週	5/16 ～ 5/22
	21週	5/23 ～ 5/29
	22週	5/30 ～ 6/5
6月	23週	6/6 ～ 6/12
	24週	6/13 ～ 6/19
	25週	6/20 ～ 6/26
	26週	6/27 ～ 7/3
7月	27週	7/4 ～ 7/10
	28週	7/11 ～ 7/17
	29週	7/18 ～ 7/24
	30週	7/25 ～ 7/31
8月	31週	8/1 ～ 8/7
	32週	8/8 ～ 8/14
	33週	8/15 ～ 8/21
	34週	8/22 ～ 8/28
	35週	8/29 ～ 9/4

	週	調査期間
9月	36週	9/5 ～ 9/11
	37週	9/12 ～ 9/18
	38週	9/19 ～ 9/25
	39週	9/26 ～ 10/2
10月	40週	10/3 ～ 10/9
	41週	10/10 ～ 10/16
	42週	10/17 ～ 10/23
	43週	10/24 ～ 10/30
	44週	10/31 ～ 11/6
11月	45週	11/7 ～ 11/13
	46週	11/14 ～ 11/20
	47週	11/21 ～ 11/27
	48週	11/28 ～ 12/4
12月	49週	12/5 ～ 12/11
	50週	12/12 ～ 12/18
	51週	12/19 ～ 12/25
	52週	12/26 ～ 1/1

2016 年（平成 28 年）年平均の定点あたり報告数上位 5 疾患（大阪府内）

	1位		2位		3位		4位		5位		TOPICS
1週	感染性胃腸炎	1234	A群溶連菌咽頭炎	353	RSウイルス感染症	349	水痘	190	流行性耳下腺炎	183	インフルエンザ　流行期に入る
2	感染性胃腸炎	1132	A群溶連菌咽頭炎	334	RSウイルス感染症	179	流行性耳下腺炎	145	伝染性紅斑	122	インフルエンザ　流行続く
3	感染性胃腸炎	1358	A群溶連菌咽頭炎	470	RSウイルス感染症	173	伝染性紅斑	129	流行性耳下腺炎	96	インフルエンザ　さらに増加
4	感染性胃腸炎	1256	A群溶連菌咽頭炎	564	流行性耳下腺炎	129	伝染性紅斑	128	RSウイルス感染症	121	インフルエンザ　注意報レベル超える
5	感染性胃腸炎	1263	A群溶連菌咽頭炎	563	流行性耳下腺炎	150	RSウイルス感染症	112	伝染性紅斑	85	インフルエンザ　警報レベル超える
6	感染性胃腸炎	1138	A群溶連菌咽頭炎	557	流行性耳下腺炎	129	水痘	89	伝染性紅斑	79	インフルエンザ　流行拡大
7	感染性胃腸炎	1208	A群溶連菌咽頭炎	481	流行性耳下腺炎	158	水痘	85	伝染性紅斑	79	インフルエンザ　警報レベル続く
8	感染性胃腸炎	1275	A群溶連菌咽頭炎	456	流行性耳下腺炎	161	伝染性紅斑	85	突発性発疹	82	インフルエンザ　流行続くも減少傾向
9	感染性胃腸炎	1409	A群溶連菌咽頭炎	452	流行性耳下腺炎	145	水痘	82	伝染性紅斑	72	インフルエンザ　ピーク越え
10	感染性胃腸炎	1553	A群溶連菌咽頭炎	457	流行性耳下腺炎	191	突発性発しん	78	水痘	61	インフルエンザ　減少
11	感染性胃腸炎	1516	A群溶連菌咽頭炎	409	流行性耳下腺炎	149	突発性発しん	66	伝染性紅斑	63	インフルエンザ　さらに減少
12	感染性胃腸炎	1229	A群溶連菌咽頭炎	358	流行性耳下腺炎	169	突発性発しん	73	水痘	71	インフルエンザ　減少続く
13	感染性胃腸炎	1618	A群溶連菌咽頭炎	301	流行性耳下腺炎	173	突発性発しん	80	水痘	64	感染性胃腸炎　増加
14	感染性胃腸炎	1427	A群溶連菌咽頭炎	313	流行性耳下腺炎	160	突発性発しん	82	水痘	54	インフルエンザ　終息へ
15	感染性胃腸炎	1589	A群溶連菌咽頭炎	367	流行性耳下腺炎	184	突発性発しん	96	水痘	66	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎　増加
16	感染性胃腸炎	1745	A群溶連菌咽頭炎	463	流行性耳下腺炎	167	突発性発しん	100	水痘	78	感染性胃腸炎　増加
17	感染性胃腸炎	1624	A群溶連菌咽頭炎	425	流行性耳下腺炎	175	突発性発しん	104	咽頭結膜熱	92	インフルエンザ　終息か
18	感染性胃腸炎	1075	A群溶連菌咽頭炎	361	流行性耳下腺炎	204	咽頭結膜熱	99	水痘	93	
19	感染性胃腸炎	1426	A群溶連菌咽頭炎	524	流行性耳下腺炎	223	咽頭結膜熱	142	水痘	137	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎　増加
20	感染性胃腸炎	1559	A群溶連菌咽頭炎	631	流行性耳下腺炎	245	咽頭結膜熱	143	突発性発しん	113	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎　増加続く
21	感染性胃腸炎	1611	A群溶連菌咽頭炎	635	流行性耳下腺炎	255	咽頭結膜熱	174	突発性発しん	149	流行性耳下腺炎　増加
22	感染性胃腸炎	1334	A群溶連菌咽頭炎	594	流行性耳下腺炎	310	咽頭結膜熱	185	ヘルパンギーナ	180	流行性耳下腺炎　さらに増加
23	感染性胃腸炎	1496	A群溶連菌咽頭炎	616	ヘルパンギーナ	278	流行性耳下腺炎	240	咽頭結膜熱	189	ヘルパンギーナ　増加
24	感染性胃腸炎	1414	A群溶連菌咽頭炎	609	ヘルパンギーナ	461	流行性耳下腺炎	309	咽頭結膜熱	167	ヘルパンギーナ　さらに増加
25	感染性胃腸炎	1249	ヘルパンギーナ	695	A群溶連菌咽頭炎	538	流行性耳下腺炎	345	咽頭結膜熱	173	ヘルパンギーナ　増加続く
26	感染性胃腸炎	1139	ヘルパンギーナ	948	A群溶連菌咽頭炎	548	流行性耳下腺炎	329	咽頭結膜熱	127	ヘルパンギーナ　さらに増加
27	ヘルパンギーナ	1161	感染性胃腸炎	994	A群溶連菌咽頭炎	530	流行性耳下腺炎	355	突発性発しん	107	ヘルパンギーナ　第1位に
28	ヘルパンギーナ	1187	感染性胃腸炎	901	A群溶連菌咽頭炎	480	流行性耳下腺炎	436	突発性発しん	108	流行性耳下腺炎　増加
29	ヘルパンギーナ	831	感染性胃腸炎	747	流行性耳下腺炎	401	A群溶連菌咽頭炎	344	突発性発しん	98	ヘルパンギーナ　減少
30	感染性胃腸炎	854	ヘルパンギーナ	630	流行性耳下腺炎	445	A群溶連菌咽頭炎	344	突発性発しん	120	流行性耳下腺炎　増加
31	感染性胃腸炎	752	ヘルパンギーナ	418	流行性耳下腺炎	394	A群溶連菌咽頭炎	317	突発性発しん	116	流行性耳下腺炎　流行続く
32	感染性胃腸炎	555	流行性耳下腺炎	356	ヘルパンギーナ	244	A群溶連菌咽頭炎	209	咽頭結膜熱	99	ヘルパンギーナ　減少続く
33	感染性胃腸炎	612	流行性耳下腺炎	382	A群溶連菌咽頭炎	184	ヘルパンギーナ	156	RSウイルス感染症	132	RSウイルス感染症　増加の兆し
34	感染性胃腸炎	780	流行性耳下腺炎	360	A群溶連菌咽頭炎	239	ヘルパンギーナ	148	RSウイルス感染症	112	麻しん　集団発生
35	感染性胃腸炎	806	流行性耳下腺炎	319	A群溶連菌咽頭炎	260	RSウイルス感染症	190	ヘルパンギーナ	142	麻しん　流行拡大
36	感染性胃腸炎	776	流行性耳下腺炎	330	A群溶連菌咽頭炎	311	RSウイルス感染症	237	突発性発しん	130	麻しん　さらに感染拡大
37	感染性胃腸炎	678	A群溶連菌咽頭炎	384	流行性耳下腺炎	303	RSウイルス感染症	248	咽頭結膜熱	106	RSウイルス感染症　増加
38	感染性胃腸炎	589	流行性耳下腺炎	337	A群溶連菌咽頭炎	319	RSウイルス感染症	253	手足口病	87	流行性耳下腺炎　増加
39	感染性胃腸炎	726	流行性耳下腺炎	418	RSウイルス感染症	349	A群溶連菌咽頭炎	317	手足口病	122	流行性耳下腺炎　さらに増加
40	感染性胃腸炎	708	RSウイルス感染症	559	流行性耳下腺炎	387	A群溶連菌咽頭炎	287	手足口病	233	RSウイルス感染症　増加
41	感染性胃腸炎	707	RSウイルス感染症	553	流行性耳下腺炎	357	A群溶連菌咽頭炎	232	手足口病	152	RSウイルス感染症 流行続く
42	感染性胃腸炎	856	RSウイルス感染症	579	流行性耳下腺炎	513	A群溶連菌咽頭炎	317	手足口病	131	流行性耳下腺炎　再び増加
43	感染性胃腸炎	1011	RSウイルス感染症	434	流行性耳下腺炎	365	A群溶連菌咽頭炎	318	手足口病	109	感染性胃腸炎　増加
44	感染性胃腸炎	1325	RSウイルス感染症	386	流行性耳下腺炎	346	A群溶連菌咽頭炎	333	手足口病	118	感染性胃腸炎　増加続く
45	感染性胃腸炎	1912	A群溶連菌咽頭炎	448	流行性耳下腺炎	395	RSウイルス感染症	384	突発性発しん	94	感染性胃腸炎　さらに増加
46	感染性胃腸炎	2671	A群溶連菌咽頭炎	401	流行性耳下腺炎	332	RSウイルス感染症	331	手足口病	108	インフルエンザ　流行迫る
47	感染性胃腸炎	2587	A群溶連菌咽頭炎	393	RSウイルス感染症	383	流行性耳下腺炎	350	水痘	129	インフルエンザ　流行期に入る
48	感染性胃腸炎	3552	A群溶連菌咽頭炎	432	流行性耳下腺炎	366	RSウイルス感染症	334	咽頭結膜熱	131	感染性胃腸炎　増加
49	感染性胃腸炎	3927	A群溶連菌咽頭炎	490	RSウイルス感染症	303	流行性耳下腺炎	284	咽頭結膜熱	135	感染性胃腸炎　警報レベルに迫る
50	感染性胃腸炎	4271	A群溶連菌咽頭炎	497	流行性耳下腺炎	316	RSウイルス感染症	270	咽頭結膜熱	167	感染性胃腸炎　警報レベル超える
51	感染性胃腸炎	3256	A群溶連菌咽頭炎	414	RSウイルス感染症	251	流行性耳下腺炎	239	咽頭結膜熱	147	感染性胃腸炎　ピーク越えか
52	感染性胃腸炎	1527	A群溶連菌咽頭炎	257	RSウイルス感染症	193	流行性耳下腺炎	189	水痘	103	インフルエンザ　増加

注1：疾患名は小児科定点の対象疾患です。　　注2：週遅れデータは含まれていません。
注3：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はA群溶連菌咽頭炎と表示しています。

2016 年（平成 28 年）感染症別・週別報告状況 (全国集計)

月	1月				2月					3月			
疾病名　週	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ	10,058	20,436	52,351	111,885	172,326	198,674	184,458	179,140	175,467	139,842	105,077	68,504	55,419
RSウイルス感染症	3,665	2,303	2,230	1,953	1,583	1,323	1,176	1,039	986	874	806	637	578
咽頭結膜熱	1,707	1,124	1,291	1,287	1,210	1,151	1,145	970	939	886	936	678	718
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	6,832	7,440	9,599	10,607	11,490	10,473	10,348	10,188	9,464	8,938	8,581	6,336	6,223
感染性胃腸炎	24,478	24,367	25,600	24,585	23,924	21,259	21,075	19,992	20,540	19,860	18,843	15,419	17,551
水痘	2,768	1,494	1,503	1,226	1,253	1,169	1,255	1,063	1,094	1,020	1,043	1,016	1,164
手足口病	160	129	123	168	108	95	76	77	93	53	68	78	61
伝染性紅斑	2,632	2,545	2,435	2,398	1,854	1,647	1,388	1,452	1,557	1,351	1,337	908	1,041
突発性発しん	1,243	1,432	1,295	1,208	1,212	1,118	1,172	1,072	1,094	1,155	1,145	1,082	1,258
百日咳	44	37	52	41	38	41	38	37	32	42	36	23	44
ヘルパンギーナ	46	65	55	43	54	34	24	39	45	37	59	45	36
流行性耳下腺炎	3,812	2,796	2,084	2,705	2,371	2,313	2,684	2,528	2,483	2,727	2,509	2,534	2,839
急性出血性結膜炎	10	11	9	3	8	6	4	8	6	11	10	6	9
流行性角結膜炎	699	505	473	464	493	423	417	391	376	389	317	319	356
合計（RSウイルス感染症 −流行性角結膜炎）	48,096	44,248	46,749	46,688	45,598	41,052	40,802	38,856	38,709	37,343	35,690	29,081	31,878
細菌性髄膜炎	9	11	9	7	5	7	11	4	11	7	3	6	9
無菌性髄膜炎	15	16	23	20	15	16	10	15	18	21	18	16	14
マイコプラズマ肺炎	432	357	278	255	267	237	266	237	213	243	221	170	194
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）	9	13	10	10	6	12	6	12	13	11	10	4	6
感染性胃腸炎（ﾛﾀｳｲﾙｽ）	59	88	96	132	172	220	208	218	275	277	275	261	326
合計（細菌性髄膜炎 −ロタウイルス）	524	485	416	424	465	492	501	486	530	559	527	457	549

月	7月				8月					9月			
疾病名　週	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ	134	136	87	96	85	124	97	141	163	263	474	573	801
RSウイルス感染症	433	644	636	837	1,095	1,075	1,176	1,638	2,728	3,359	4,636	4,234	5,479
咽頭結膜熱	1,927	1,816	1,507	1,479	1,312	1,120	1,183	1,135	1,351	1,221	1,188	778	872
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	8,034	7,669	5,492	5,588	4,850	3,348	2,984	3,510	3,986	4,545	5,091	3,785	4,768
感染性胃腸炎	14,432	14,112	11,135	11,826	11,340	9,034	9,238	11,024	12,321	11,894	11,826	9,293	11,508
水痘	1,215	1,219	1,006	985	876	824	799	782	690	808	853	809	900
手足口病	2,014	2,305	2,251	2,247	2,385	1,806	1,546	1,935	2,204	2,303	2,536	2,481	3,420
伝染性紅斑	1,251	1,026	871	889	769	504	444	521	523	527	417	312	471
突発性発しん	1,759	1,760	1,496	1,680	1,560	1,315	1,428	1,689	1,711	1,728	1,735	1,378	1,569
百日咳	96	73	78	90	77	47	55	60	82	94	71	44	81
ヘルパンギーナ	9,944	12,767	11,178	12,169	11,463	8,056	4,552	5,842	6,157	5,278	4,587	2,786	3,092
流行性耳下腺炎	3,848	4,008	3,857	4,141	3,687	3,273	3,369	3,344	2,961	3,113	3,408	2,927	3,805
急性出血性結膜炎	12	8	4	6	6	5	4	6	10	5	15	8	18
流行性角結膜炎	586	578	533	584	559	440	543	656	627	692	671	574	702
合計（RSウイルス感染症 −流行性角結膜炎）	45,551	47,985	40,044	42,521	39,979	30,847	27,321	32,142	35,351	35,567	37,034	29,409	36,685
細菌性髄膜炎	10	13	10	7	12	8	9	8	10	21	8	14	10
無菌性髄膜炎	35	51	43	38	36	42	43	32	53	30	41	35	35
マイコプラズマ肺炎	374	438	380	490	446	444	433	418	429	410	456	411	579
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）	8	7	3	4	5	4	7	9	2	4	8	7	8
感染性胃腸炎（ﾛﾀｳｲﾙｽ）	33	14	6	6	7	7	6	2	7	11	6	5	6
合計（細菌性髄膜炎 −ロタウイルス）	460	523	442	545	506	505	498	469	501	476	519	472	638

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
34,709	25,117	20,922	12,392	6,121	3,355	2,370	1,427	865	646	365	184	162
457	643	590	493	351	327	315	344	269	280	262	367	369
718	847	1,102	1,270	1,284	1,707	1,754	2,316	2,369	2,508	2,293	2,206	2,186
5,829	7,266	8,311	7,602	5,226	8,083	8,909	9,371	9,229	9,980	8,928	8,687	8,529
16,908	18,391	20,660	18,910	13,825	18,591	19,634	19,914	18,821	19,865	18,459	17,168	15,836
1,090	965	1,114	1,123	1,210	1,617	1,155	1,771	1,349	1,410	1,520	1,385	1,413
74	109	156	176	185	282	439	568	595	811	1,093	1,289	1,509
1,068	1,156	1,195	1,070	900	1,122	1,325	1,341	1,111	1,417	1,281	1,389	1,314
1,414	1,516	1,772	1,743	1,399	1,813	1,850	2,040	1,986	1,815	1,811	1,966	1,920
47	49	57	55	33	68	70	79	78	107	95	106	76
69	117	126	170	175	335	668	775	1,326	1,679	2,883	4,673	7,160
2,568	2,598	2,333	2,536	2,421	3,011	2,998	2,680	3,500	2,985	3,358	3,564	3,360
13	6	5	13	14	10	8	12	7	6	5	3	14
395	383	443	475	406	520	454	451	456	467	514	558	520
30,650	34,046	37,864	35,636	27,429	37,486	39,579	41,662	41,096	43,330	42,502	43,361	44,206
12	8	11	8	11	9	9	12	12	8	12	12	9
20	21	37	17	18	28	29	29	20	31	33	26	29
161	150	178	230	211	218	261	275	266	286	315	345	310
6	6	1	5	4	7	9	6	4	8	2	5	7
325	347	301	297	234	186	175	143	99	80	78	41	34
524	532	528	557	478	448	483	465	401	413	440	429	389

10月					11月				12月				合計
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
1,123	1,166	1,862	2,345	2,923	4,157	6,858	8,871	12,378	16,431	24,956	41,595	41,857	1,751,968
7,341	6,397	6,020	5,304	4,226	3,797	3,519	3,234	3,062	2,979	2,524	2,238	1,872	104,703
809	670	700	774	768	878	987	1,181	1,359	1,476	1,613	1,527	1,254	67,487
5,129	4,042	5,444	5,356	5,384	6,222	7,013	6,609	7,640	8,127	8,432	7,481	4,817	367,815
11,759	10,881	13,795	16,675	20,288	29,838	41,547	40,746	55,049	61,612	66,318	54,613	30,221	1,116,800
905	826	928	1,171	1,055	1,476	1,598	1,891	1,974	2,045	2,049	1,914	1,595	65,383
4,396	3,453	3,280	3,359	2,893	2,323	2,304	2,216	1,922	1,639	1,373	1,223	750	69,139
378	292	410	289	321	304	378	403	401	411	420	402	251	51,419
1,510	1,307	1,348	1,434	1,298	1,369	1,373	1,351	1,422	1,199	1,251	1,210	860	76,271
62	59	77	58	55	63	34	39	38	56	35	37	25	3,011
3,237	1,738	1,281	1,012	783	527	454	416	389	291	271	213	150	129,371
3,513	2,984	4,009	3,082	3,324	3,370	3,053	3,114	3,340	3,130	3,057	2,781	2,236	159,031
12	9	3	2	5	3	0	5	4	9	10	9	6	401
669	536	621	608	472	498	490	490	498	468	495	478	367	26,099
39,720	33,194	37,916	39,124	40,872	50,668	62,750	61,695	77,098	83,442	87,848	74,126	44,404	2,236,930
18	9	11	17	7	14	7	9	7	7	3	5	7	493
31	25	39	28	22	24	20	30	25	16	24	14	12	1,379
645	595	785	707	544	642	631	478	546	584	496	404	380	19,721
9	6	1	5	3	8	9	15	4	5	9	10	2	354
6	7	8	11	11	12	20	8	8	25	26	26	35	5,266
709	642	844	768	587	700	687	540	590	637	558	459	436	27,213

2016 年（平成 28 年）感染症別・週別定点あたり報告状況 (全国集計)

月	1月				2月					3月			
疾病名　週	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ	2.03	4.12	10.58	22.58	34.77	40.08	37.20	36.18	35.40	28.22	21.24	13.82	11.20
RSウイルス感染症	1.16	0.73	0.71	0.62	0.50	0.42	0.37	0.33	0.31	0.28	0.26	0.20	0.18
咽頭結膜熱	0.54	0.36	0.41	0.41	0.38	0.36	0.36	0.31	0.30	0.28	0.30	0.21	0.23
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	2.17	2.35	3.04	3.36	3.64	3.31	3.27	3.23	3.00	2.82	2.72	2.00	1.97
感染性胃腸炎	7.77	7.71	8.11	7.78	7.57	6.72	6.66	6.33	6.50	6.28	5.97	4.88	5.56
水痘	0.88	0.47	0.48	0.39	0.40	0.37	0.40	0.34	0.35	0.32	0.33	0.32	0.37
手足口病	0.05	0.04	0.04	0.05	0.03	0.03	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02
伝染性紅斑	0.84	0.81	0.77	0.76	0.59	0.52	0.44	0.46	0.49	0.43	0.42	0.29	0.33
突発性発しん	0.39	0.45	0.41	0.38	0.38	0.35	0.37	0.34	0.35	0.37	0.36	0.34	0.40
百日咳	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
ヘルパンギーナ	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01
流行性耳下腺炎	1.21	0.88	0.66	0.86	0.75	0.73	0.85	0.80	0.79	0.86	0.79	0.80	0.90
急性出血性結膜炎	0.01	0.02	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01
流行性角結膜炎	1.01	0.73	0.69	0.67	0.71	0.61	0.60	0.57	0.55	0.56	0.46	0.46	0.52
細菌性髄膜炎	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02
無菌性髄膜炎	0.03	0.03	0.05	0.04	0.03	0.03	0.02	0.03	0.04	0.04	0.04	0.03	0.03
マイコプラズマ肺炎	0.91	0.75	0.58	0.53	0.56	0.50	0.56	0.50	0.45	0.51	0.46	0.36	0.41
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）	0.02	0.03	0.02	0.02	0.01	0.03	0.01	0.03	0.03	0.02	0.02	0.01	0.01
感染性胃腸炎（ﾛﾀｳｲﾙｽ）	0.12	0.18	0.20	0.28	0.36	0.46	0.44	0.46	0.58	0.58	0.58	0.55	0.68

月	7月				8月					9月			
疾病名　週	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.03	0.03	0.05	0.10	0.12	0.16
RSウイルス感染症	0.14	0.20	0.20	0.26	0.35	0.35	0.38	0.52	0.86	1.06	1.47	1.34	1.73
咽頭結膜熱	0.61	0.58	0.48	0.47	0.42	0.36	0.38	0.36	0.43	0.39	0.38	0.25	0.28
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	2.54	2.43	1.73	1.77	1.54	1.08	0.96	1.12	1.26	1.44	1.61	1.20	1.51
感染性胃腸炎	4.55	4.47	3.52	3.74	3.59	2.92	2.99	3.51	3.90	3.77	3.75	2.95	3.64
水痘	0.38	0.39	0.32	0.31	0.28	0.27	0.26	0.25	0.22	0.26	0.27	0.26	0.28
手足口病	0.64	0.73	0.71	0.71	0.75	0.58	0.50	0.62	0.70	0.73	0.80	0.79	1.08
伝染性紅斑	0.39	0.33	0.28	0.28	0.24	0.16	0.14	0.17	0.17	0.17	0.13	0.10	0.15
突発性発しん	0.56	0.56	0.47	0.53	0.49	0.43	0.46	0.54	0.54	0.55	0.55	0.44	0.50
百日咳	0.03	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.02	0.01	0.03
ヘルパンギーナ	3.14	4.05	3.53	3.85	3.63	2.60	1.47	1.86	1.95	1.67	1.45	0.88	0.98
流行性耳下腺炎	1.21	1.27	1.22	1.31	1.17	1.06	1.09	1.06	0.94	0.99	1.08	0.93	1.20
急性出血性結膜炎	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.03
流行性角結膜炎	0.84	0.83	0.76	0.84	0.80	0.65	0.79	0.94	0.90	1.00	0.97	0.83	1.01
細菌性髄膜炎	0.02	0.03	0.02	0.01	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.04	0.02	0.03	0.02
無菌性髄膜炎	0.07	0.11	0.09	0.08	0.08	0.09	0.09	0.07	0.11	0.06	0.09	0.07	0.07
マイコプラズマ肺炎	0.78	0.92	0.79	1.03	0.94	0.93	0.91	0.87	0.90	0.86	0.96	0.86	1.21
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.00	0.01	0.02	0.01	0.02
感染性胃腸炎（ﾛﾀｳｲﾙｽ）	0.07	0.03	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
7.01	5.08	4.22	2.51	1.24	0.68	0.48	0.29	0.17	0.13	0.07	0.04	0.03
0.14	0.20	0.19	0.16	0.11	0.10	0.10	0.11	0.09	0.09	0.08	0.12	0.12
0.23	0.27	0.35	0.40	0.41	0.54	0.55	0.73	0.75	0.79	0.73	0.70	0.69
1.85	2.30	2.63	2.41	1.66	2.56	2.82	2.97	2.92	3.16	2.82	2.75	2.69
5.36	5.83	6.54	6.01	4.39	5.88	6.21	6.30	5.95	6.28	5.84	5.43	5.00
0.35	0.31	0.35	0.36	0.38	0.51	0.37	0.56	0.43	0.45	0.48	0.44	0.45
0.02	0.03	0.05	0.06	0.06	0.09	0.14	0.18	0.19	0.26	0.35	0.41	0.48
0.34	0.37	0.38	0.34	0.29	0.36	0.42	0.42	0.35	0.45	0.41	0.44	0.42
0.45	0.48	0.56	0.55	0.44	0.57	0.58	0.65	0.63	0.57	0.57	0.62	0.61
0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.03	0.02	0.03	0.03	0.03	0.02
0.02	0.04	0.04	0.05	0.06	0.11	0.21	0.25	0.42	0.53	0.91	1.48	2.26
0.81	0.82	0.74	0.81	0.77	0.95	0.95	0.85	1.11	0.94	1.06	1.13	1.06
0.02	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.00	0.02
0.57	0.55	0.64	0.68	0.58	0.75	0.65	0.65	0.66	0.67	0.74	0.80	0.75
0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.02	0.03	0.03	0.02
0.04	0.04	0.08	0.04	0.04	0.06	0.06	0.06	0.04	0.06	0.07	0.05	0.06
0.34	0.31	0.37	0.48	0.44	0.46	0.55	0.58	0.56	0.60	0.66	0.72	0.65
0.01	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.02	0.00	0.01	0.01
0.68	0.73	0.63	0.62	0.49	0.39	0.37	0.30	0.21	0.17	0.16	0.09	0.07

10月					11月				12月				平均
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
0.23	0.24	0.38	0.47	0.59	0.84	1.38	1.79	2.50	3.31	5.03	8.40	8.55	6.82
2.33	2.02	1.91	1.68	1.34	1.20	1.11	1.02	0.97	0.94	0.80	0.71	0.60	0.64
0.26	0.21	0.22	0.24	0.24	0.28	0.31	0.37	0.43	0.47	0.51	0.48	0.40	0.41
1.63	1.28	1.72	1.69	1.70	1.97	2.22	2.09	2.41	2.56	2.66	2.37	1.54	2.24
3.73	3.44	4.37	5.27	6.41	9.43	13.13	12.86	17.39	19.44	20.96	17.29	9.69	6.81
0.29	0.26	0.29	0.37	0.33	0.47	0.51	0.60	0.62	0.65	0.65	0.61	0.51	0.40
1.40	1.09	1.04	1.06	0.91	0.73	0.73	0.70	0.61	0.52	0.43	0.39	0.24	0.42
0.12	0.09	0.13	0.09	0.10	0.10	0.12	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13	0.08	0.31
0.48	0.41	0.43	0.45	0.41	0.43	0.43	0.43	0.45	0.38	0.40	0.38	0.28	0.46
0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02
1.03	0.55	0.41	0.32	0.25	0.17	0.14	0.13	0.12	0.09	0.09	0.07	0.05	0.79
1.12	0.94	1.27	0.97	1.05	1.06	0.96	0.98	1.06	0.99	0.97	0.88	0.72	0.97
0.02	0.01	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
0.97	0.77	0.89	0.87	0.68	0.72	0.71	0.71	0.72	0.67	0.71	0.69	0.54	0.73
0.04	0.02	0.02	0.04	0.01	0.03	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02
0.06	0.05	0.08	0.06	0.05	0.05	0.04	0.06	0.05	0.03	0.05	0.03	0.03	0.06
1.35	1.24	1.64	1.48	1.14	1.35	1.32	1.00	1.14	1.22	1.04	0.85	0.80	0.80
0.02	0.01	0.00	0.01	0.01	0.02	0.02	0.03	0.01	0.01	0.02	0.02	0.00	0.01
0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.03	0.04	0.02	0.02	0.05	0.05	0.05	0.07	0.21

2016 年（平成 28 年）感染症別・週別報告状況 (大阪府内集計)

		1月				2月					3月			
		1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
定点数	インフルエンザ	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	306	306
	小児科	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	199	199
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	50
	基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
インフルエンザ		490	960	2,822	6,223	9,714	12,672	12,194	12,067	11,373	8,048	5,301	3,076	2,226
RSウイルス感染症		353	179	173	121	112	77	71	50	47	55	44	30	32
咽頭結膜熱		158	108	85	82	63	60	58	54	63	51	59	43	39
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎		360	336	470	565	563	557	481	460	458	464	423	360	301
感染性胃腸炎		1,251	1,136	1,358	1,256	1,264	1,143	1,213	1,283	1,422	1,561	1,549	1,231	1,622
水痘		192	98	86	73	82	89	86	59	83	61	50	71	64
手足口病		9	1	5	9	2	7	3	0	5	0	7	2	4
伝染性紅斑		120	123	129	128	85	79	80	85	72	52	64	45	52
突発性発しん		82	96	92	86	62	61	70	82	54	78	67	73	80
百日咳		2	1	3	1	4	0	1	0	0	7	4	4	2
ヘルパンギーナ		4	5	7	7	3	8	6	2	2	5	8	5	3
流行性耳下腺炎		191	145	96	129	150	129	158	161	145	191	150	169	173
急性出血性結膜炎		0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0
流行性角結膜炎		29	21	21	21	14	21	9	14	13	11	7	7	7
合計（RSｳｲ　～流行性角結）		2,751	2,250	2,525	2,478	2,405	2,231	2,236	2,250	2,365	2,536	2,433	2,040	2,379
細菌性髄膜炎		0	0	1	0	0	0	1	1	2	0	1	1	1
無菌性髄膜炎		0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0
マイコプラズマ肺炎		28	32	23	14	11	11	16	15	19	15	8	17	10
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		4	4	3	4	10	15	18	20	26	29	22	36	34
合計（細菌性髄－ﾛﾀｳｲﾙｽ）		32	36	28	18	21	27	35	37	48	44	31	55	45

		7月				8月					9月			
		27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
定点数	インフルエンザ	309	309	309	309	309	309	309	309	309	309	309	309	309
	小児科	201	201	201	201	201	201	201	201	201	201	201	201	201
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
インフルエンザ		4	7	7	7	7	12	5	2	7	4	4	12	13
RSウイルス感染症		24	64	74	80	87	72	132	112	190	237	265	253	353
咽頭結膜熱		105	118	88	80	111	110	87	107	103	116	114	71	99
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎		530	504	344	344	317	233	184	239	260	312	396	319	331
感染性胃腸炎		994	955	747	855	752	584	612	780	806	776	750	589	728
水痘		55	81	71	60	66	59	49	49	42	60	40	64	71
手足口病		82	83	57	47	55	59	48	52	49	60	66	87	124
伝染性紅斑		24	32	25	28	23	12	5	7	14	16	11	11	16
突発性発しん		107	108	100	120	116	79	96	103	110	130	106	82	120
百日咳		6	7	3	15	3	7	2	2	6	4	4	2	9
ヘルパンギーナ		1,161	1,198	831	630	418	279	156	148	142	112	92	73	67
流行性耳下腺炎		355	445	401	445	394	377	382	360	319	330	328	337	423
急性出血性結膜炎		0	1	0	1	0	0	1	2	1	0	1	0	2
流行性角結膜炎		18	19	17	39	49	28	36	36	53	61	66	57	57
合計（RSｳｲ－流行性角結）		3,461	3,615	2,758	2,744	2,391	1,899	1,790	1,997	2,095	2,214	2,239	1,945	2,400
細菌性髄膜炎		1	3	1	0	1	0	0	1	1	0	1	2	0
無菌性髄膜炎		0	2	1	1	1	2	3	3	2	0	3	0	0
マイコプラズマ肺炎		25	29	22	31	30	29	35	23	26	24	26	21	32
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0
合計（細菌性髄－ﾛﾀｳｲﾙｽ）		27	35	24	33	32	31	38	27	30	24	31	25	32

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
306	306	307	307	307	307	307	307	307	307	308	309	309
199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	200	201	201
50	51	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
1,340	612	497	268	104	51	41	16	11	7	7	4	3
29	35	30	27	22	22	20	12	9	15	15	17	22
46	66	64	96	100	142	144	174	185	189	167	173	127
315	368	464	435	362	527	631	635	594	616	609	540	556
1,438	1,597	1,748	1,662	1,080	1,427	1,561	1,611	1,334	1,496	1,414	1,251	1,153
57	66	79	68	95	136	73	142	114	93	113	76	83
1	6	4	10	16	17	42	53	27	46	65	86	63
42	55	49	36	40	34	46	35	38	30	44	30	28
82	96	100	104	87	118	113	149	131	110	119	102	103
4	4	1	2	3	4	3	1	1	3	1	3	1
11	2	6	18	14	27	73	77	180	278	461	699	960
160	185	167	176	204	225	245	255	310	240	309	346	330
3	1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0
13	7	19	19	20	33	28	25	18	28	17	31	30
2,201	2,488	2,731	2,653	2,049	2,712	2,979	3,169	2,941	3,144	3,334	3,354	3,456
0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	2	2
2	1	3	0	0	0	0	0	2	2	2	1	3
8	10	13	14	7	6	12	13	13	22	10	12	18
0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
22	26	26	28	19	16	15	4	12	0	3	1	1
32	37	43	42	26	22	30	17	28	24	16	16	24

10月					11月				12月				合計
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
308	308	308	308	308	309	309	309	309	309	309	309	308	16011
200	200	200	200	200	201	201	201	201	201	201	201	200	10410
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2699
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	884
34	45	45	50	85	158	268	402	512	633	869	1,558	1,824	96,701
572	554	579	434	386	386	331	383	334	303	270	252	196	8,542
85	65	54	76	68	85	98	109	131	135	167	148	105	5,231
300	232	317	318	333	448	401	393	432	490	497	414	269	21,607
746	707	856	1,012	1,325	1,925	2,671	2,587	3,567	3,927	4,272	3,256	1,625	74,465
51	54	56	49	81	71	88	129	121	124	127	138	109	4,254
233	152	131	109	118	75	108	94	72	53	56	74	55	2,689
13	15	24	7	15	13	13	12	10	9	9	10	3	1,998
98	73	90	82	92	95	78	100	88	65	84	79	59	4,857
4	3	5	2	2	4	2	3	0	2	3	3	3	166
103	55	43	40	37	19	18	11	10	16	11	12	10	8,563
405	357	513	367	346	395	332	350	366	284	317	239	198	14,504
2	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1	31
42	49	57	30	35	28	31	21	33	32	33	23	21	1,454
2,654	2,316	2,726	2,527	2,839	3,544	4,171	4,192	5,164	5,441	5,847	4,648	2,654	148,361
1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
3	5	3	1	0	0	1	3	0	1	1	2	0	59
35	20	56	45	28	22	30	19	17	42	18	21	18	1,101
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	406
39	26	59	46	28	22	32	23	17	43	19	23	19	1,599

2016 年（平成 28 年）年感染症別・週別定点あたり報告状況 (大阪府内集計)

月		1月				2月					3月			
週		1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
定点数	インフルエンザ	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	306	306
	小児科	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	199	199
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	50
	基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
インフルエンザ		1.60	3.13	9.19	20.27	31.64	41.28	39.72	39.31	37.05	26.21	17.27	10.05	7.27
RSウイルス感染症		1.77	0.90	0.87	0.61	0.56	0.39	0.36	0.25	0.24	0.28	0.22	0.15	0.16
咽頭結膜熱		0.79	0.54	0.43	0.41	0.32	0.30	0.29	0.27	0.32	0.26	0.30	0.22	0.20
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎		1.80	1.68	2.35	2.83	2.82	2.79	2.41	2.30	2.29	2.32	2.12	1.81	1.51
感染性胃腸炎		6.26	5.68	6.79	6.28	6.32	5.72	6.07	6.42	7.11	7.81	7.75	6.19	8.15
水痘		0.96	0.49	0.43	0.37	0.41	0.45	0.43	0.30	0.42	0.31	0.25	0.36	0.32
手足口病		0.05	0.01	0.03	0.05	0.01	0.04	0.02	0.00	0.03	0.00	0.04	0.01	0.02
伝染性紅斑		0.60	0.62	0.65	0.64	0.43	0.40	0.40	0.43	0.36	0.26	0.32	0.23	0.26
突発性発しん		0.41	0.48	0.46	0.43	0.31	0.31	0.35	0.41	0.27	0.39	0.34	0.37	0.40
百日咳		0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.00	0.01	0.00	0.00	0.04	0.02	0.02	0.01
ヘルパンギーナ		0.02	0.03	0.04	0.04	0.02	0.04	0.03	0.01	0.01	0.03	0.04	0.03	0.02
流行性耳下腺炎		0.96	0.73	0.48	0.65	0.75	0.65	0.79	0.81	0.73	0.96	0.75	0.85	0.87
急性出血性結膜炎		0.00	0.02	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.02	0.00	0.00
流行性角結膜炎		0.56	0.40	0.40	0.40	0.27	0.40	0.17	0.27	0.25	0.21	0.13	0.13	0.14
細菌性髄膜炎		0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.12	0.00	0.06	0.06	0.06
無菌性髄膜炎		0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00
マイコプラズマ肺炎		1.65	1.88	1.35	0.82	0.65	0.65	0.94	0.88	1.12	0.88	0.47	1.00	0.59
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0.24	0.24	0.18	0.24	0.59	0.88	1.06	1.18	1.53	1.71	1.29	2.12	2.00

月		7月				8月					9月			
週		27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
定点数	インフルエンザ	309	309	309	309	309	309	309	309	309	309	309	309	309
	小児科	201	201	201	201	201	201	201	201	201	201	201	201	201
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
インフルエンザ		0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.04	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.04	0.04
RSウイルス感染症		0.12	0.32	0.37	0.40	0.43	0.36	0.66	0.56	0.95	1.18	1.32	1.26	1.76
咽頭結膜熱		0.52	0.59	0.44	0.40	0.55	0.55	0.43	0.53	0.51	0.58	0.57	0.35	0.49
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎		2.64	2.51	1.71	1.71	1.58	1.16	0.92	1.19	1.29	1.55	1.97	1.59	1.65
感染性胃腸炎		4.95	4.75	3.72	4.25	3.74	2.91	3.04	3.88	4.01	3.86	3.73	2.93	3.62
水痘		0.27	0.40	0.35	0.30	0.33	0.29	0.24	0.24	0.21	0.30	0.20	0.32	0.35
手足口病		0.41	0.41	0.28	0.23	0.27	0.29	0.24	0.26	0.24	0.30	0.33	0.43	0.62
伝染性紅斑		0.12	0.16	0.12	0.14	0.11	0.06	0.02	0.03	0.07	0.08	0.05	0.05	0.08
突発性発しん		0.53	0.54	0.50	0.60	0.58	0.39	0.48	0.51	0.55	0.65	0.53	0.41	0.60
百日咳		0.03	0.03	0.01	0.07	0.01	0.03	0.01	0.01	0.03	0.02	0.02	0.01	0.04
ヘルパンギーナ		5.78	5.96	4.13	3.13	2.08	1.39	0.78	0.74	0.71	0.56	0.46	0.36	0.33
流行性耳下腺炎		1.77	2.21	2.00	2.21	1.96	1.88	1.90	1.79	1.59	1.64	1.63	1.68	2.10
急性出血性結膜炎		0.00	0.02	0.00	0.02	0.00	0.00	0.02	0.04	0.02	0.00	0.02	0.00	0.04
流行性角結膜炎		0.35	0.37	0.33	0.75	0.94	0.54	0.69	0.69	1.02	1.17	1.27	1.10	1.10
細菌性髄膜炎		0.06	0.18	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.06	0.12	0.00
無菌性髄膜炎		0.00	0.12	0.06	0.06	0.06	0.12	0.18	0.18	0.12	0.00	0.18	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎		1.47	1.71	1.29	1.82	1.76	1.71	2.06	1.35	1.53	1.41	1.53	1.24	1.88
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）		0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0.00	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.06	0.06	0.00

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
306	306	307	307	307	307	307	307	307	307	308	309	309
199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	200	201	201
50	51	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
4.38	2.00	1.62	0.87	0.34	0.17	0.13	0.05	0.04	0.02	0.02	0.01	0.01
0.15	0.18	0.15	0.14	0.11	0.11	0.10	0.06	0.05	0.08	0.08	0.08	0.11
0.23	0.33	0.32	0.48	0.50	0.71	0.72	0.87	0.93	0.95	0.84	0.86	0.63
1.58	1.85	2.33	2.19	1.82	2.65	3.17	3.19	2.98	3.10	3.05	2.69	2.77
7.23	8.03	8.78	8.35	5.43	7.17	7.84	8.10	6.70	7.52	7.07	6.22	5.74
0.29	0.33	0.40	0.34	0.48	0.68	0.37	0.71	0.57	0.47	0.57	0.38	0.41
0.01	0.03	0.02	0.05	0.08	0.09	0.21	0.27	0.14	0.23	0.33	0.43	0.31
0.21	0.28	0.25	0.18	0.20	0.17	0.23	0.18	0.19	0.15	0.22	0.15	0.14
0.41	0.48	0.50	0.52	0.44	0.59	0.57	0.75	0.66	0.55	0.60	0.51	0.51
0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.00
0.06	0.01	0.03	0.09	0.07	0.14	0.37	0.39	0.90	1.40	2.31	3.48	4.78
0.80	0.93	0.84	0.88	1.03	1.13	1.23	1.28	1.56	1.21	1.55	1.72	1.64
0.06	0.02	0.00	0.00	0.12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
0.26	0.14	0.37	0.37	0.38	0.63	0.54	0.48	0.35	0.54	0.33	0.60	0.58
0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.12	0.00	0.00	0.00	0.06	0.12	0.12
0.12	0.06	0.18	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.12	0.12	0.12	0.06	0.18
0.47	0.59	0.76	0.82	0.41	0.35	0.71	0.76	0.76	1.29	0.59	0.71	1.06
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00
1.29	1.53	1.53	1.65	1.12	0.94	0.88	0.24	0.71	0.00	0.18	0.06	0.06

10月					11月				12月				平均
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
308	308	308	308	308	309	309	309	309	309	309	309	308	308
200	200	200	200	200	201	201	201	201	201	201	201	200	200
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
0.11	0.15	0.15	0.16	0.28	0.51	0.87	1.30	1.66	2.05	2.81	5.04	5.92	6. 06
2.86	2.77	2.90	2.17	1.93	1.92	1.65	1.91	1.66	1.51	1.34	1.25	0.98	0. 82
0.43	0.33	0.27	0.38	0.34	0.42	0.49	0.54	0.65	0.67	0.83	0.74	0.53	0. 50
1.50	1.16	1.59	1.59	1.67	2.23	2.00	1.96	2.15	2.44	2.47	2.06	1.35	2. 08
3.73	3.54	4.28	5.06	6.63	9.58	13.29	12.87	17.75	19.54	21.25	16.20	8.13	7. 15
0.26	0.27	0.28	0.25	0.41	0.35	0.44	0.64	0.60	0.62	0.63	0.69	0.55	0. 41
1.17	0.76	0.66	0.55	0.59	0.37	0.54	0.47	0.36	0.26	0.28	0.37	0.28	0. 26
0.07	0.08	0.12	0.04	0.08	0.06	0.06	0.06	0.05	0.04	0.04	0.05	0.02	0. 19
0.49	0.37	0.45	0.41	0.46	0.47	0.39	0.50	0.44	0.32	0.42	0.39	0.30	0. 47
0.02	0.02	0.03	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.02	0. 02
0.52	0.28	0.22	0.20	0.19	0.09	0.09	0.05	0.05	0.08	0.05	0.06	0.05	0. 82
2.03	1.79	2.57	1.84	1.73	1.97	1.65	1.74	1.82	1.41	1.58	1.19	0.99	1. 39
0.04	0.00	0.02	0.02	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.02	0.00	0.02	0. 01
0.81	0.94	1.10	0.58	0.67	0.54	0.60	0.40	0.63	0.62	0.63	0.44	0.40	0. 54
0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0. 03
0.18	0.29	0.18	0.06	0.00	0.00	0.06	0.18	0.00	0.06	0.06	0.12	0.00	0. 07
2.06	1.18	3.29	2.65	1.65	1.29	1.76	1.12	1.00	2.47	1.06	1.24	1.06	1. 24
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0. 00
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0. 46

2016 年（平成 28 年）感染症別・ブロック別報告状況 (大阪府内集計)

ブロック名		01 豊能	02 三島	03 北河内	04 中河内	05 南河内	06 堺市	07 泉州	08 大阪市北部	09 大阪市西部	10 大阪市東部	11 大阪市南部	合　計
定点数	*1インフルエンザ	1,924	1,275	2,283	1,612	1,248	1,493	1,820	1,040	768	1,144	1,404	16,011
	*2小児科	1,196	859	1,399	1,040	832	988	1,144	728	508	780	936	10,410
	*3眼科	257	208	312	258	208	260	312	260	104	312	208	2,699
疾病名	*4基幹	104	104	104	104	52	104	104	52	52	52	52	884
*1	インフルエンザ	9,693	5,531	14,140	9,850	10,671	8,678	11,275	6,934	6,875	6,167	6,887	96,701
*2	RSウイルス感染症	773	303	1,428	969	1,134	535	786	1,017	645	425	527	8,542
	咽頭結膜熱	409	220	1,016	1,145	409	255	452	299	252	411	363	5,231
	A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	2,550	820	3,161	2,947	2,771	1,204	2,511	1,492	1,053	848	2,250	21,607
	感染性胃腸炎	7,014	4,859	12,041	11,799	9,478	3,520	9,308	5,174	3,408	3,102	4,762	74,465
	水痘	366	238	698	706	426	244	487	352	216	215	306	4,254
	手足口病	163	210	471	497	224	138	219	290	160	88	229	2,689
	伝染性紅斑	133	92	295	280	310	106	349	113	72	125	123	1,998
	突発性発しん	490	271	844	693	452	242	670	404	200	263	328	4,857
	百日咳	29	6	8	12	27	14	19	8	27	8	8	166
	ヘルパンギーナ	811	557	1,575	984	804	697	1,017	802	383	330	603	8,563
	流行性耳下腺炎	710	1,032	1,913	1,790	2,058	884	2,553	1,606	461	660	837	14,504
*3	急性出血性結膜炎	0	0	1	4	0	5	7	5	1	3	5	31
	流行性角結膜炎	97	104	67	296	45	148	159	124	225	137	52	1,454
合計（RSウイルス感染症～流行性角結膜炎）		13,545	8,712	23,518	22,122	18,138	7,992	18,537	11,686	7,103	6,615	10,393	148,361
*4	細菌性髄膜炎	1	5	1	2	3	4	11	0	0	2	0	29
	無菌性髄膜炎	15	6	1	0	15	19	0	0	0	3	0	59
	マイコプラズマ肺炎	41	222	100	73	40	225	169	0	13	143	75	1,101
	ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	4
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	36	57	20	22	74	86	34	26	0	51	0	406
合計［細菌性髄膜炎－感染性胃腸炎（ロタウイルス）］		94	290	122	96	132	337	213	26	13	196	75	1,594
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	74	50	27	37	279	69	70	43	13	0	53	715
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	20	5	1	4	17	28	0	0	11	0	0	86
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症－薬剤耐性ｱｼﾞﾈﾄﾊﾞｸﾀｰ感染症）		94	55	28	41	297	97	70	43	24	0	54	803

2016 年（平成 28 年）感染症別・年齢別報告状況 (大阪府内集計)

（年齢別）

年齢区分 / 疾病名	6ヶ月未満	12ヶ月未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳から14歳	15歳から19歳	20歳から29歳	30歳から39歳	40歳から49歳	50歳から59歳	60歳から	合計
インフルエンザ	337	1,258	3,922	4,521	5,260	7,179	7,706	8,051	7,200	6,259	5,559	16,090	3,562	19,797					96,701
RSウイルス感染症	1,550	1,865	2,982	1,225	508	248	85	40	8	14	5	7	1	4					8,542
咽頭結膜熱	33	395	1,197	849	766	701	465	276	162	110	64	122	12	79					5,231
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	120	301	1,209	1,607	2,310	2,969	2,972	2,350	1,894	1,495	1,092	2,223	239	826					21,607
感染性胃腸炎	719	4,375	10,571	8,359	7,797	7,755	6,637	5,169	3,987	3,223	2,482	6,092	1,345	5,954					74,465
水痘	37	150	371	356	491	639	639	498	332	240	183	257	23	38					4,254
手足口病	25	199	919	558	316	230	161	105	56	38	25	35	2	20					2,689
伝染性紅斑	2	20	96	131	192	329	344	282	205	149	89	131	3	25					1,998
突発性発しん	94	1,769	2,433	386	116	37	12	3	3	3	0	0	1	0					4,857
百日咳	33	10	12	6	8	4	6	10	9	7	6	22	4	29					166
ヘルパンギーナ	58	678	2,391	1,771	1,198	902	603	306	168	109	72	121	10	176					8,563
流行性耳下腺炎	3	31	374	800	1,513	2,204	2,381	2,124	1,539	1,165	819	1,284	78	189					14,504
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	28					31
流行性角結膜炎	10	20	74	75	67	68	62	49	23	24	14	51	36	881					1,454
合計（RSウイルス感染症　～流行性角結膜炎）	2,684	9,813	22,629	16,123	15,282	16,086	14,368	11,212	8,386	6,577	4,851	10,347	1,754	8,249					148,361
細菌性髄膜炎	1	2	0	4	0	0	2	1	2	1	0	2	0	0	0	0	1	13	29
無菌性髄膜炎	5	0	1	1	1	4	3	3	6	1	4	7	3	5	9	4	1	1	59
マイコプラズマ肺炎	5	5	42	77	79	103	107	99	84	72	72	198	44	41	35	17	10	11	1,101
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	4
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	22	25	85	80	49	34	38	18	20	8	7	17	1	0	1	0	0	1	406
合計｛細菌性髄膜炎 －感染性胃腸炎(ロタウイルス)｝	33	32	129	161	129	141	150	122	112	82	83	223	47	46	46	21	12	25	1,594
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	21	7	5	9	6	6	4	6	2	2	3	6	8	17	26	34	55	498	715
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4	4	22	2	8	2	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	3	37	86
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計（ﾒﾁｼﾘﾝ耐性黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌感染症 －薬剤耐性アシネトバクター感染症）	25	11	27	11	14	8	4	6	2	2	4	6	8	18	27	35	58	537	803

ブロック別人口動態・ブロック地図

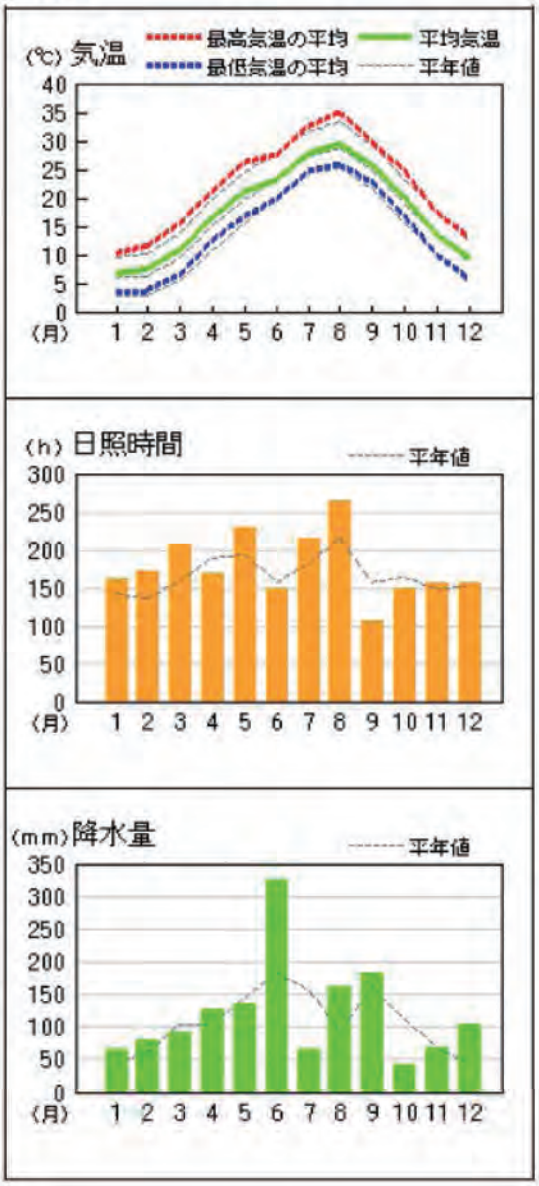
ブロック	市町村区分	定点数	人口	出生数
①豊能	豊中市、池田市、吹田市、箕面市、能勢町　豊能町	内科 14　小児科 23　眼科 5　STD 8　基幹 2　疑似 54	1,036,617	9,080
②三島	高槻市、茨木市、摂津市、島本町	内科 8　小児科 16　眼科 4　STD 5　基幹 2　疑似22	746,852	6,576
③北河内	守口市、寝屋川市、門真市、枚方市、大東市　四条畷市、交野市	内科 17　小児科 27　眼科 6　STD 9　基幹 2　疑似 59	1,164,015	8,622
④中河内	八尾市、柏原市、東大阪市	内科 11　小児科 20　眼科 5　STD 7　基幹 2　疑似 47	842,696	5,989
⑤南河内	藤井寺市、松原市、羽曳野市、富田林市、　大阪狭山市、河内長野市、河南町、太子町　千早赤阪村	内科 8　小児科 16　眼科4　STD5　基幹 2　疑似	612,886	3,983
⑥堺市	堺市	内科　10　小児科 19　眼科 5　STD 7　基幹 2　疑似49	839,310	6,969
⑦泉州	和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市阪南市、田尻町、熊取町、岬町	内科 13　小児科 22　眼科 6　STD 6　基幹2　疑似 48	905,908	7,026
⑧大阪市北部	北区、都島区、淀川区、東淀川区、旭区	内科 6　小児科 14　眼科 5　STD 8　基幹 1　疑似37	671,733	5,618
⑨大阪市西部	福島区、此花区、西区、港区、大正区、西淀川区	内科 5　小児科 10　眼科 2　STD 3　基幹1　疑似25	474,236	4,328
⑩大阪市東部	中央区、天王寺区、浪速区、東成区、生野区、城東区、鶴見区	内科 7　小児科 15　眼科 6　STD 4　基幹 1　疑似 38	725,548	6,366
⑪大阪市南部	阿倍野区、住吉区、住之江区、東住吉区、平野区、西成区	内科 9　小児科 18　眼科 4　STD 5　基幹 1　疑似47	819,668	6,039
合　計		内科 108　小児科 200　眼科 52　STD 67　基幹18　疑似463	8,839,469	70,596

〈参　考〉 大阪の気象

大阪府の気象 平成 28 年 (2016 年) 年報　　大阪管区気象台

大阪の気象経過図

大阪



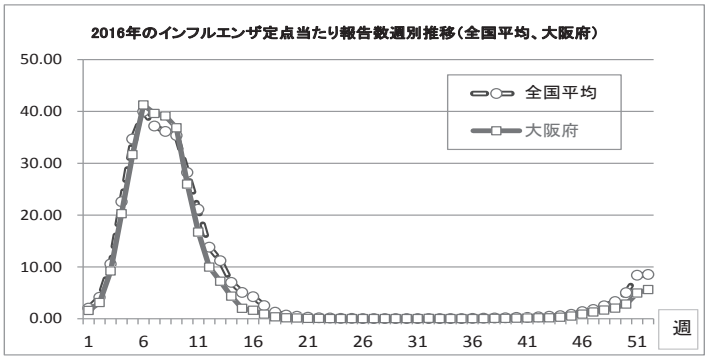
大阪管区気象台 2016 年（平成 28 年) 年報「大阪府の気象」より引用

2. 各感染症状況報告

1）インフルエンザ定点把握疾患

●インフルエンザ

2016（平成 28）年のインフルエンザの患者発生は、第 35 週までは 2015/2016 シーズンを、第 36 週以降は 2016/2017 シーズンを反映したものとなる。同年の大阪府内のインフルエンザ定点からの累積患者報告数は 96,701（定点当たり累積報告数：314.95）であり、定点当たり累積報告数は全国平均値（354.69）よりも低いものの、前年の累積患者報告数 53,616（定点当たり累積報告数：174.64）より大きく増加した。しかしこれは 2015/2016 シーズンの流行の立ち上がりが全国的に遅かったことに加えて、2016/2017 シーズンの立ち上がりは早かったことが反映されているに過ぎず、これだけで各シーズンの流行の規模について言及できるものではない。2016（平成 28）年中に大阪府のインフルエンザ定点当たり報告数が警報レベルである 30.00 を上回ったのは全国平均と同様に 2016 年第 5 週～第 9 週の 5 週間であり、流行のピークは 2016 年第 6 週（定点当たり報告数 41.26）であった。インフルエンザの流行期間中において、2016（平成 28）年の殆どの週では大阪府の定点当たり報告数は全国平均値を下回っているが、流行の最盛期であった第 6 週～第 9 週のみは全国平均値を上回っていた（図）。

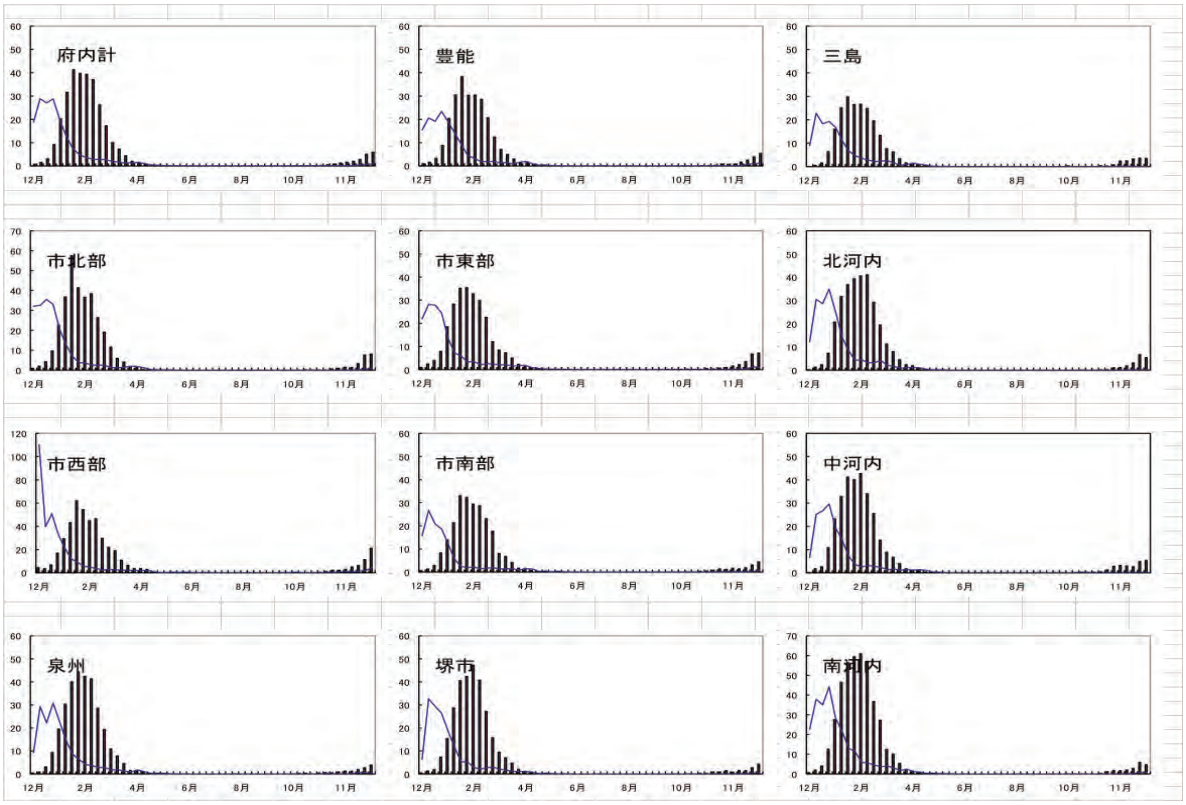


2015/2016 シーズンのインフルエンザウイルス株の検出状況をみると（http://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html）、大阪府では同シーズン期間中に検出された 246 株中 AH1pdm09 は 96 株（39.0%）、AH3 亜型 21 株（8.5%）、B 型 129 株（52.4%）と B 型が最多を占めていた（B 型の内訳は山形系統 70 株 28.5%、ビクトリア系統 33 株 13.4%、系統不明 26 株 10.6%）。同じシーズンの全国のインフルエンザウイルス株の検出状況（総検出株数 7541）をみると AH1pdm09 は 48.2%、AH3 亜型 8.4%、B 型 43.3%となっており、どちらも AH1pdm09 と B 型の混合流行であったことに変わりはなかったものの、全国的には AH1pdm09 の方がやや優勢であり、大阪府では B 型の検出割合が半数を超えて優位であった。一方、2016/2017 シーズンは 2017 年第 16 週まで（2017 年 4 月 24 日現在）の大阪府内の状況をみると、総検出数 303 株中 AH3 亜型 280 株（92.4%）、B 型 13 株（4.3%）、AH1pdm09 は 10 株（3.3%）と前シーズンとは全く異なって AH3 亜型が大半を占める結果となっている。またこれは同シーズンの全国での検出状況（総検出株数 7018、AH3 亜型 87.4%、B 型 9.6%、AH1pdm09　2.9%）を反映しているものと思われる。

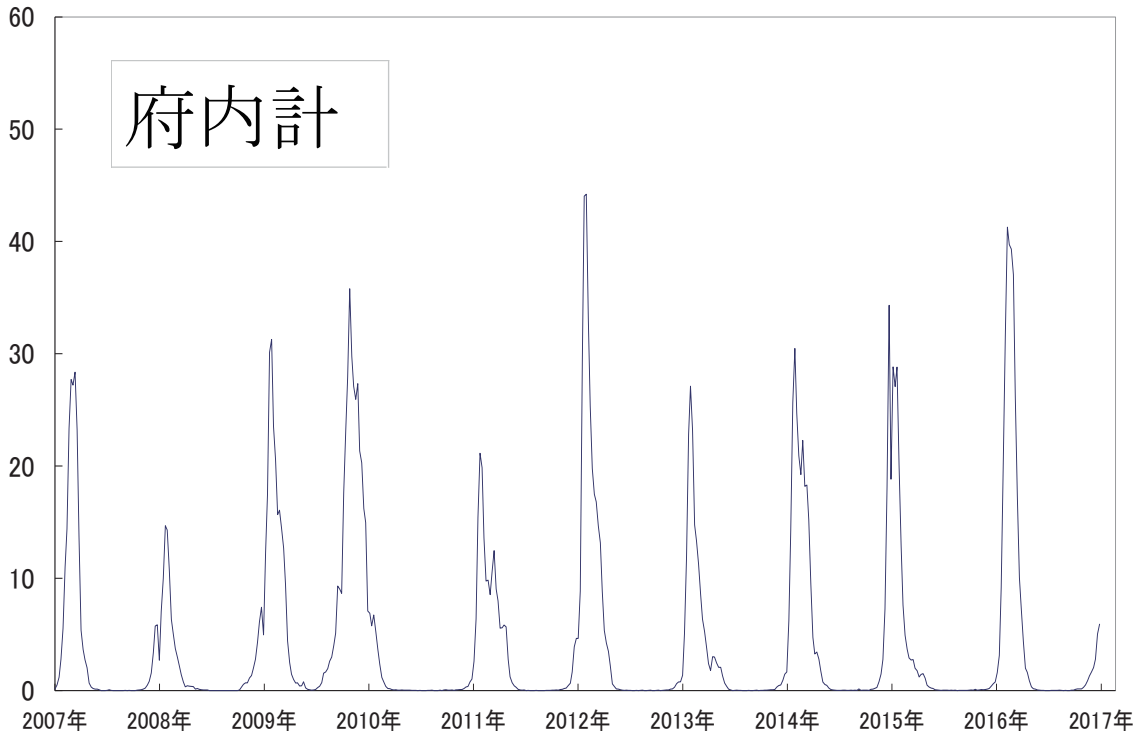
（文責：安井）

インフルエンザ

線［2015 年（平成 27 年）第 1 週～第 52 週］
棒［2016 年（平成 28 年）第 1 週～第 52 週］



線［2007（平成 19 年）第 1 週～ 2016 年（平成 28 年）第 52 週］



2）小児科定点把握疾患

● RS ウイルス感染症

2016（平成 28）年の RS ウイルス感染症の患者報告数は 8,542 例で、前年比 19.4％減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 5.8％を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.82 で、順位は第 5 位であった。

全国集計では 104,703 例の報告で、前年比 12.8％減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 4.7％を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.64 で、順位は第 5 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、第 1 週 (1 月) より 1 を超え、その後漸減し第 22 週 (5 月) に年間最低値の 0.05 となった。第 35 週 (8 月) より増加に転じ、第 36 週 (9 月) に再び 1 を超え、第 40 週（10 月）に 2 を超え、年間最高値は第 45 週（10 月）の 2.90 であった。

全国集計では、第 1 週 (1 月) より 1 を超え、その後漸減し第 24 週（6 月）に年間最低値の 0.08 となった。第 35 週 (8 月) より増加に転じ、第 36 週（9 月）に再び 1 を超え、年間最高値は第 40 週（10 月）の 2.33 であった。

年齢別患者発生数は、1 歳児の 2,982 例が最も多く、以下 12 ケ月未満児（1,865 例)、6 ケ月未満児（1,550 例)、2 歳児（1,225 例）と続く。0 歳児から 2 歳児で全体の 89.2％を占めた。この割合は例年とほぼ同様であった。

定点あたりの報告数年平均の上位 5 ブロックは、⑧大阪市北部 (1.40)、⑤南河内（1.36)、⑨大阪市西部（1.25)、③北河内 (1.03)、④中河内（0.93）の順であった。

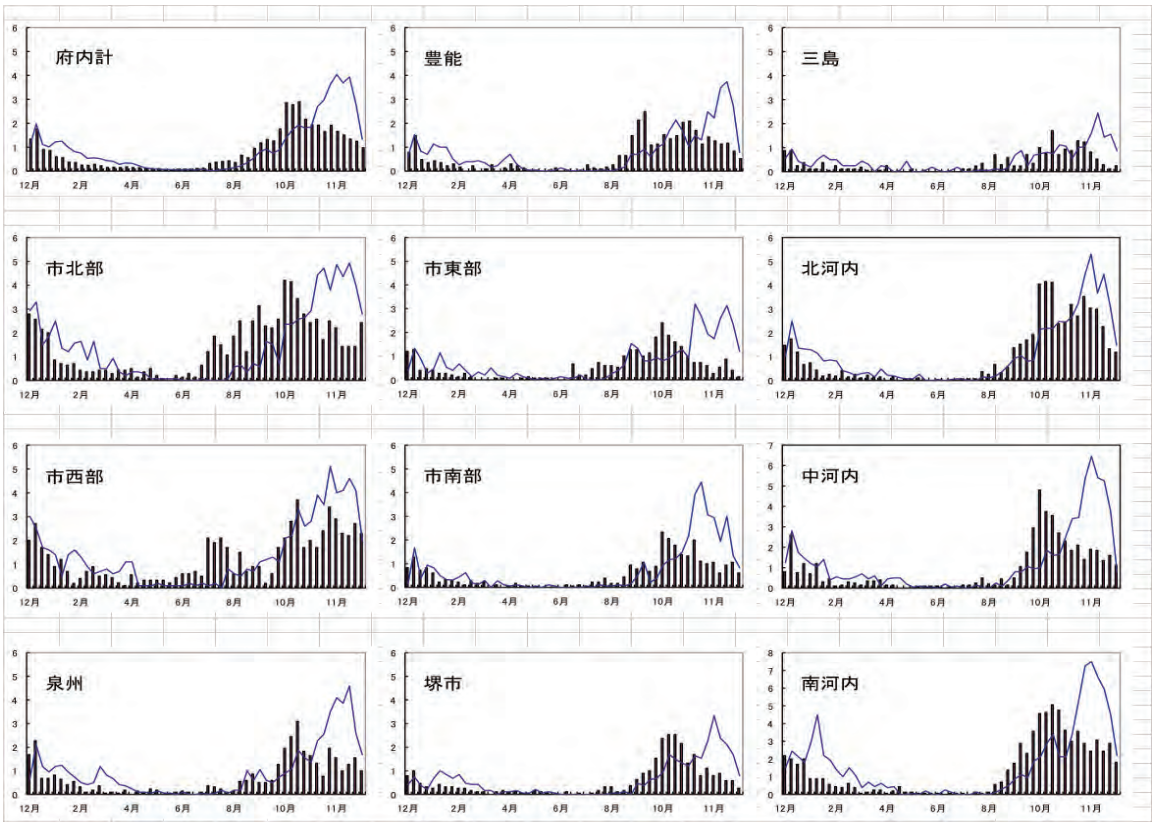
ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位 5 ブロックは、⑤南河内（第 42 週、5.06)、④中河内（第 40 週、4.80)、⑤南河内（第 43 週、4.75)、⑤南河内（第 41 週、4.63)、⑤南河内（第 40 週、4.56）の順であった。⑤南河内での報告数が目立っていた。

病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出は 62 検体あった。うち 40 検体が陽性であった（陽性率 64.5％)。内訳は、多い順に RS virus A が 19 件、RS virus B が 10 件、Rhino virus untype が 8 件であった。

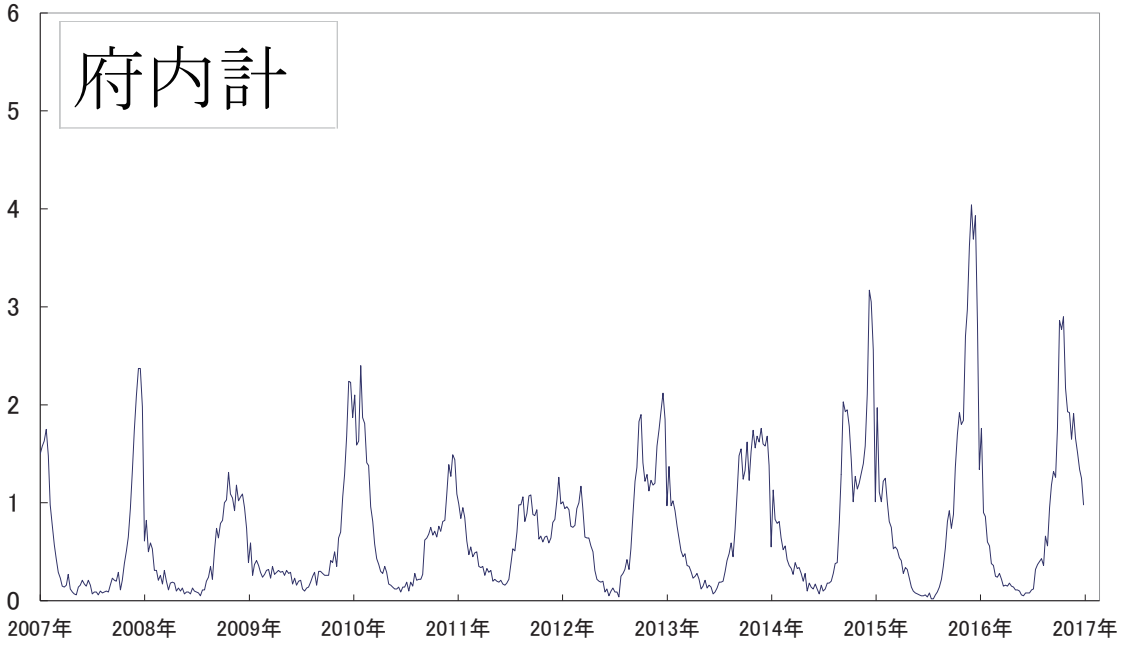
（文責：八木）

RS ウイルス感染症

線（2015 年（平成 27 年）第 1 週～第 52 週）
棒（2016 年（平成 28 年）第 1 週～第 52 週）



線［2007（平成 19 年）第 1 週～ 2016 年（平成 28 年）第 52 週］

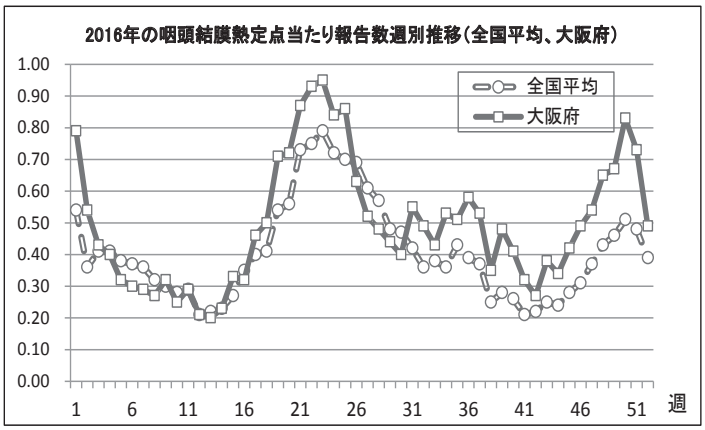


●咽頭結膜熱

咽頭結膜熱の定点当たり報告数の推移をみると、その流行は全国・大阪府ともに夏期（6 ～ 7 月）と冬期（12 月）の二峰性のピークとなっている。

2016（平成 28）年の大阪府の小児科定点医療機関からの咽頭結膜熱の累積報告数は 5231、定点当たりの累積報告数は 26.12（暫定値）であった。2016（平成 28）年の定点当たり累積報告数の全国平均値は 21.39 であり、2014（平成 26）年以降 3 年連続して大阪府が全国平均を上回っている。

咽頭結膜熱の夏期の報告数のピークは、大阪府は 2016（平成 28）年第 23 週（定点当たり報告数 0.95）であり、全国平均（第 23 週、0.75）よりも高かった。冬期のピークは第 50 週（定点当たり報告数 0.83）であり、やはり全国平均（第 50 週、0.48）を上回っていた（図）。



大阪府内ブロック別の報告数のピークは夏期は 20 週から 25 週までの間に分布しており、22 週が 4 ブロック（中河内、泉州、大阪市北部、大阪市西部）と最も多く、23 週が 3 ブロック（豊能、南河内、大阪市頭部）であった。冬期は 6 ブロック（北河内、中河内、堺市、泉州、大阪市東部、大阪市南部）が第 50 週にピークを迎えており、第 49 週が 2 ブロック（南河内、大阪市北部）、他は第 46 週、第 48 週、第 51 週にそれぞれ 1 ブロックずつピークがみられていた。定点当たり累積報告数が最も多かったのは中河内（52.20）で大阪府全体のほぼ 2 倍となっている一方で、最も少なかったのは三島と堺市で共に 13.52 と大阪全域のほぼ半数であった。

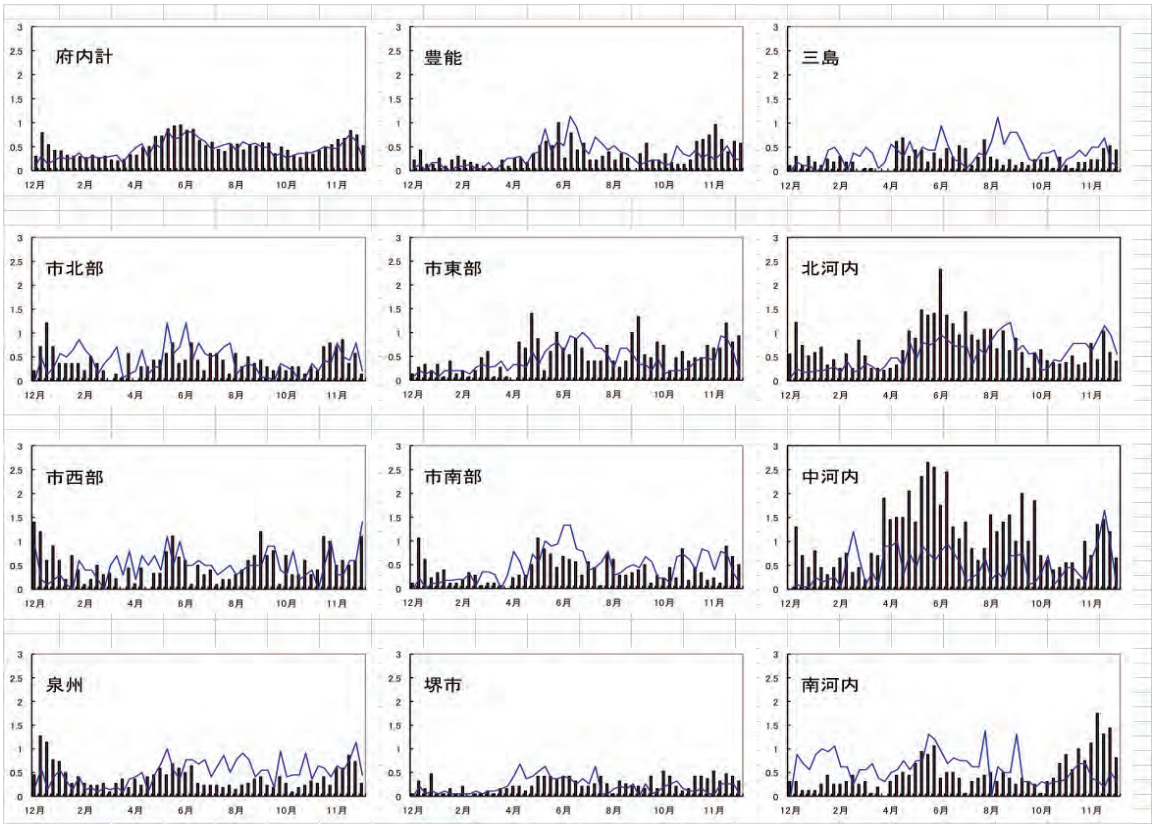
年齢別でみると、1 歳児（1197 例、22.9％）、2 歳児（849 例、16.2％）、3 歳児（766 例、14.6%）、4 歳児（701 例、13.4%）、5 歳児（465 例、8.9%）、0 歳児（428 例、8.2%）の順であり、5 歳までで全報告数の 84.2%を占めている。

2016（平成 28）年に咽頭結膜熱と診断された患者由来検体から検出されたアデノウイルス株数は、大阪府は 58 を数えた。58 株中アデノウイルス 2 型（Ad 2 型）が 31 株（42.5%）と最多を占め、次いで Ad 3 型 15 株（20.5%）、Ad 1 型 12 株（16.4%）、Ad 4 型 9 株（12.3%）の順であり、Ad 3 型が最多を占めた全国の検出状況とは異なっていた。

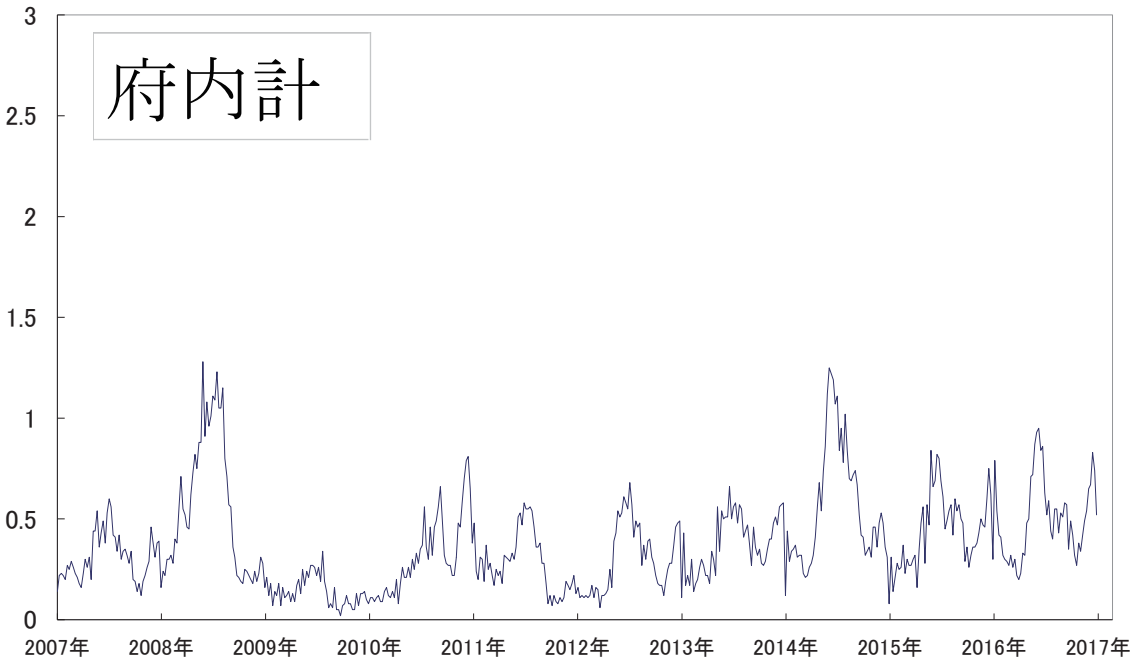
（文責：安井）

咽頭結膜熱

線（2015 年（平成 27 年）第 1 週～第 52 週）
棒（2016 年（平成 28 年）第 1 週～第 52 週）



線［2007（平成 19 年）第 1 週～ 2016 年（平成 28 年）第 52 週］



● A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2016（平成 28）年の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は 21,607 例で、前年比 6.4 %減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 14.6%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 2.08 で、順位は第 2 位であった。

全国集計では 367,815 例の報告で、前年比 8.3%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 16.4%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 2.24 で、順位は第 2 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、第 3 週から第 11 週（1 月～ 3 月）、第 16・17 週（4 月）、第 19 週から第 28 週（5 月～ 7 月）、第 45・46 週（11 月）、第 48 週から第 51 週（11 月～ 12 月）で 2.0 を超え、年間最高値は第 24 週 (6 月) の 3.73 であった。初夏と冬期に二峰性のピークを作る傾向は、例年と同様であった。

全国集計では、第 1 週から第 12 週（1 月～ 3 月）、第 15 週から第 17 週（4 月）、第 19 週から第 28 週（5 月～ 7 月）、第 46 週から第 51 週（11 月～ 12 月）で 2.0 を超え、年間最高値は第 5 週 (2 月) の 3.64 であった。

年齢別患者発生数は、5 歳児の 2,972 例が最も多く、以下 4 歳児（2,969 例）、6 歳児（2,350 例）、3 歳児（2,310 例）と続き、3 歳児から 6 歳児で全体の 49.1%を占めた。この割合は例年とほぼ同様であった。

定点あたりの報告数年平均の上位 5 ブロックは、⑤南河内（3.33）、④中河内（2.83）、⑪大阪市南部 (2.41) 、③北河内 (2.26) 、⑦泉州（2.19）の順であった。

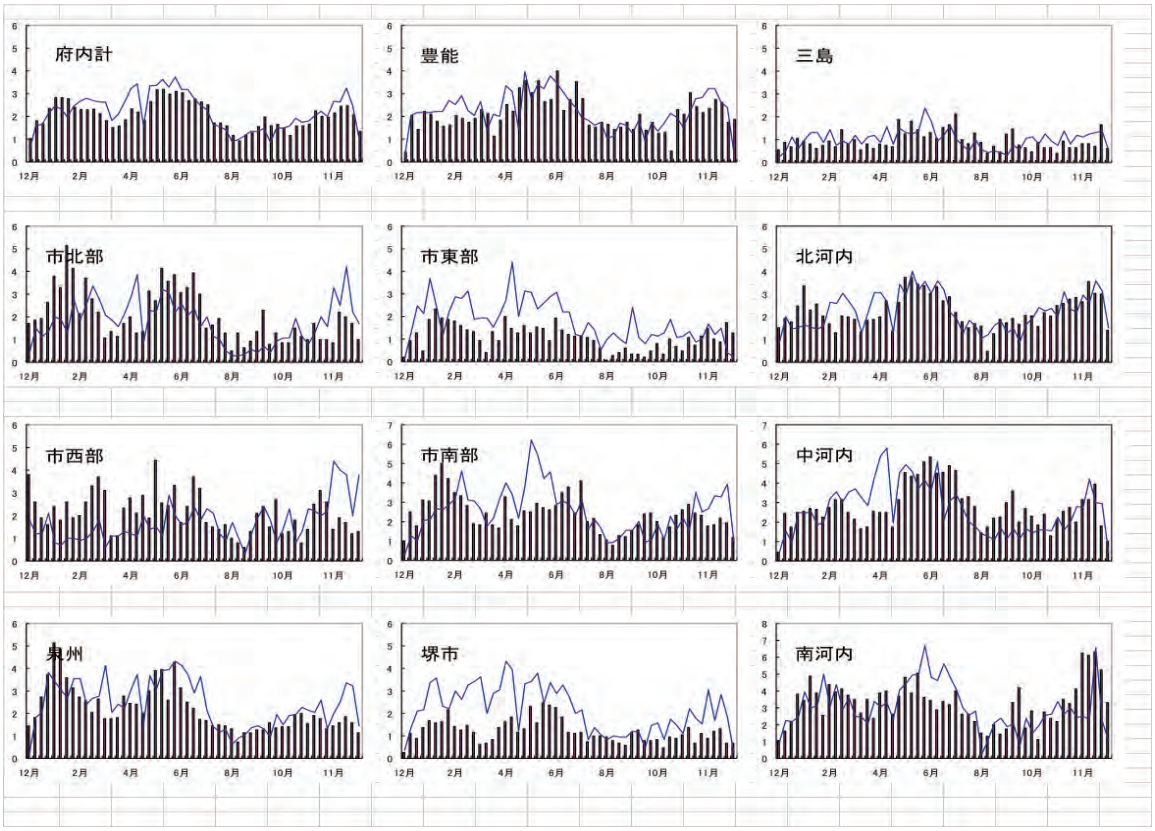
ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位 5 ブロックは、⑤南河内（第 50 週、6.31）、⑤南河内（第 48 週、6.25）、⑤南河内（第 49 週、6.13）④中河内（第 24 週、5.35）、⑤南河内（第 51 週、5.25）の順であった。

ブロック別年平均報告数、週別報告数ともに⑤南河内での報告数が目立っていた。

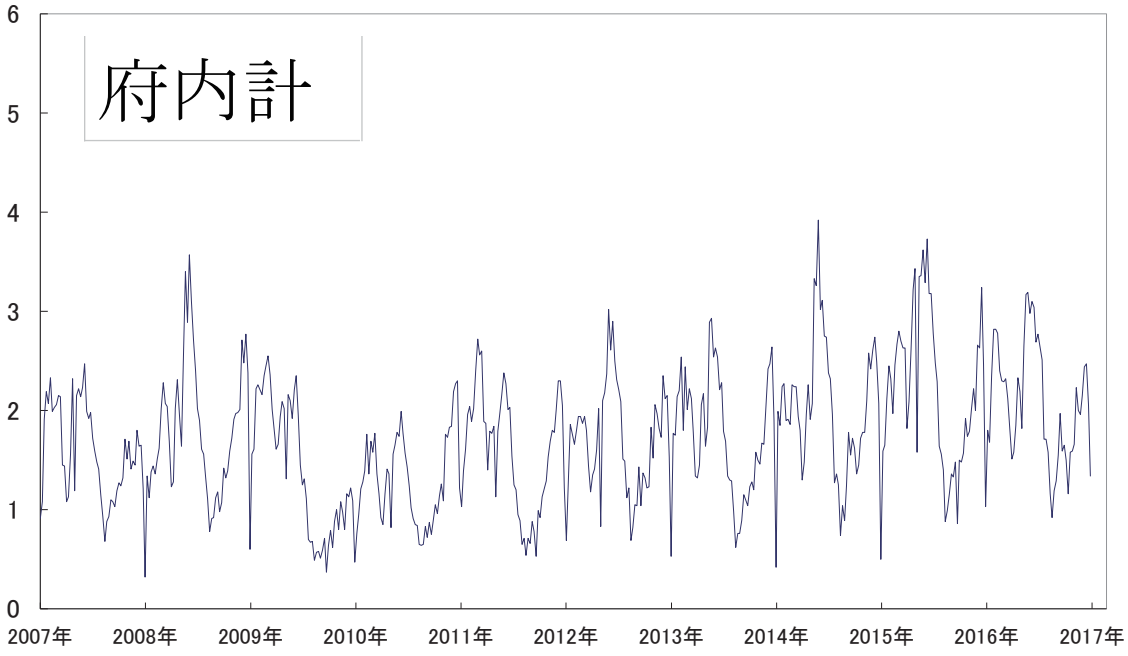
（文責：八木）

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

線（2015 年（平成 27 年）第 1 週～第 52 週）
棒（2016 年（平成 28 年）第 1 週～第 52 週）



線［2007（平成 19 年）第 1 週～ 2016 年（平成 28 年）第 52 週］



●感染性胃腸炎

2016 年（平成 28 年）の感染性胃腸炎の報告数は 74,465 例で、前年より 10,881 例、17.1 %増加した。小児科・眼科定点報告対象 13 疾患総報告数の 50.2%を占め、第 1 位であった。定点あたり報告数の年平均は 7.15 で、前年 6.00 より 19.2%増加し、2012 年（平成 24 年）以来 4 年ぶりに 7 を超えた。全国集計では報告数 1,116,800 例で前年より 11.5%増加し、総報告数の 49.9%を占めた。定点あたり報告数は年平均 6.80 と前年 5.92 より 14.9%増加した。

定点あたり報告数を週別にみると、第 1 週 6.26 から小刻みに増減を繰り返しながら第 16 週 8.78 まで増加した後、増減を繰り返しながら減少し、第 32 週に年間最低値 2.91 となった。第 35 週 4.01 まで一旦増加した後第 38 週 2.93 まで減少し、それ以降は増加傾向となり第 50 週に年間最高値 21.25 のピークに達した。2006 年（平成 18 年）以来 10 年ぶりにピーク値が 20 を超えた。全国集計では、第 3 週 8.11 から増減を繰り返しながら第 38 週に年間最低値 2.95 となり、その後増加に転じ第 50 週に年間最高値 20.96 に達した。

定点あたり報告数の月別平均値は、12 月、11 月、4 月、3 月、5 月、6 月の順に多かった。春から初夏に二峰性のピークを作り、夏から秋にかけて低値をとり、晩秋に再び増加し、冬にピークを持つ流行曲線は例年と同様であった。

ブロック別定点あたり報告数のピーク値が警報開始基準値 20.0 を超えたブロックは⑤南河内の第 50 週 36.81、④中河内の第 50 週 28.50、③北河内の第 50 週 27.37、⑦泉州第 50 週 25.86、⑧大阪市北部第 50 週 20.93 の 5 ブロックであった。ブロック別の定点あたり報告数の年平均は、⑤南河内 11.39、④中河内 11.35、③北河内 8.60、⑦泉州 8.14、⑧大阪市北部 7.11、⑨大阪市西部 6.68、①豊能 5.86、②三島 5.66、⑪大阪市南部 5.09、⑩大阪市東部 3.98、⑥堺市 3.56 の順であった。

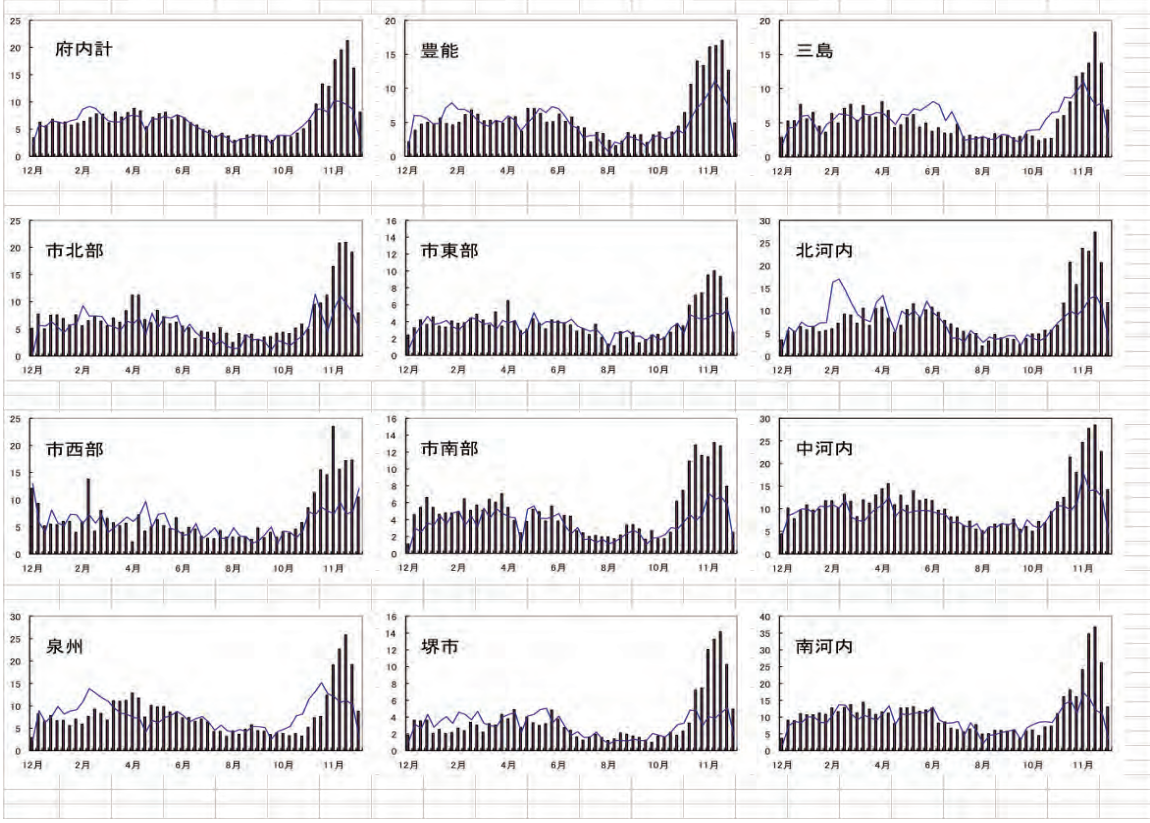
年齢別報告数（0 ～ 9 歳）は、1 歳、2 歳、3 歳、4 歳、5 歳、6 歳、0 歳、7 歳、8 歳、9 歳の順に多かった。0 ～ 4 歳の報告数は 39,576 例で全体の 53.1%を占めた。5 ～ 9 歳が 21,498 例（28.9%）、10 ～ 14 歳が 6,092 例（8.2%）、15 歳以上が 7,299 例（9.8%）で、各年齢群の全体に占める割合は例年とほぼ同じであった。

ウイルス検出は 241 検体のうち陽性だったのは 144 検体で、陽性率 59.8%であった。病原体別でみると、ノロウイルスが 75 件（陽性検体の 52.1%、うちノロウイルス G Ⅱ .2 が 24 件）、A 群ロタウイルスが 35 件（陽性検体の 24.3%）、アデノウイルスが 19 件（陽性検体の 13.2%）、アストロウイルス 10 件（陽性検体の 6.9%）、サポウイルスが 9 件（陽性検体の 6.3%）であった。

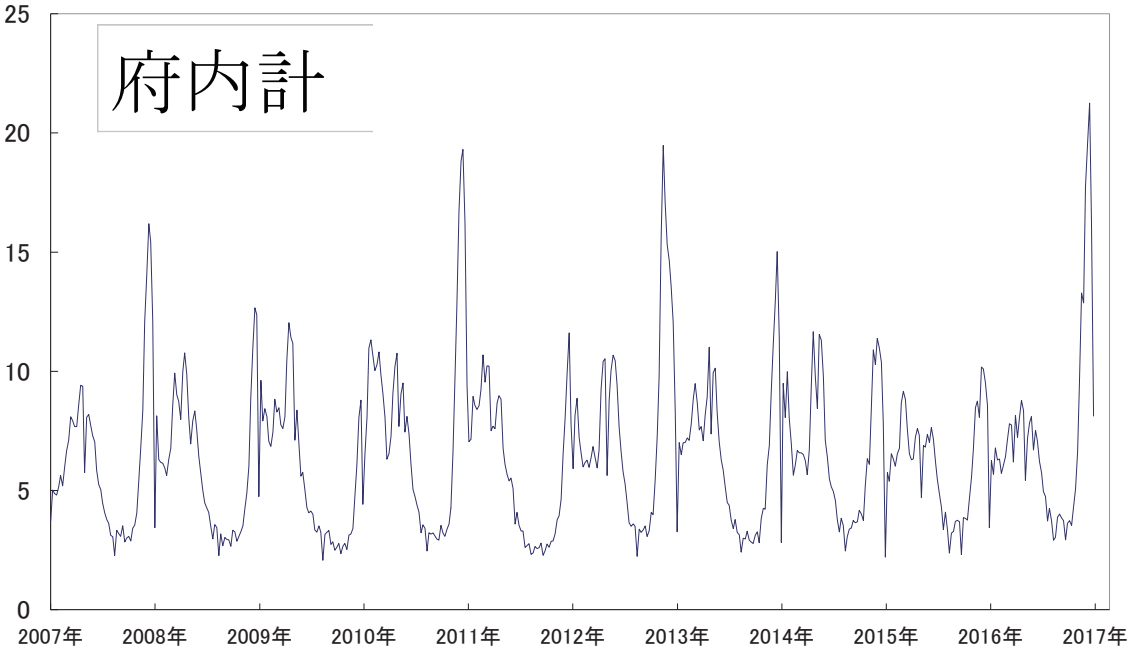
（文責：吉田）

感染性胃腸炎

線（2015 年（平成 27 年）第 1 週～第 52 週）
棒（2016 年（平成 28 年）第 1 週～第 52 週）



線［2007（平成 19 年）第 1 週～ 2016 年（平成 28 年）第 52 週］



●水痘

2016 年（平成 28 年）の水痘の報告数は、4,254 例で、前年より 1,280 例、23.1％減少した。小児科･眼科定点報告対象 13 疾患総報告数の 2.9％を占め､第 8 位であった。2015 年は第 5 位、2014 年は第 3 位であったので、近年減少傾向である。定点あたり報告数は年平均 0.41 で、前年 0.52 より 21.2％減少した。全国集計では 65,383 例の報告で、前年より 12,231 例、15.8％減少した。総報告数の 2.9％を占め、定点あたり報告数は年平均 0.40 と前年 0.46 より 13.0％減少した。

定点あたり報告数を週別にみると、第 1 週は本年最高値の 0.96 で、第 2 週 0.49 以降は増減を繰り返しながら第 11 週 0.25 まで減少した。その後増加し、第 19 週 0.68、第 21 週 0.71 でピークを作った後、本年最低値の第 37 週 0.20 まで徐々に減少した。0.25 から 0.35 の間で推移し、第 43 週 0.25 以降は増加に転じ第 51 週に 0.69 に達した。全国集計では、本年最高値の第 1 週 0.88 から第 15 週 0.31 まで減少した後増加し、第 19 週 0.51、第 21 週 0.56 でピークを作った。本年最低値第 35 週 0.22 まで漸減した後増加に転じ第 49 週・第 50 週に本年第 2 位の値となる 0.65 に達した。

定点あたり報告数の月別平均値は、12 月、1 月、5 月、11 月、6 月、2 月、4 月、7 月、3 月、10 月、9 月、8 月の順に高かった。冬と春に二峰性のピークを作り、夏から秋にかけて低値をとる流行曲線は例年通りだが、冬の最高値、夏の最低値、定点あたり報告数の年平均はいずれも過去 10 年間で最も低く、全体的に減少傾向である。

ブロック別の定点あたり報告数の年平均は、④中河内 0.68、⑤南河内 0.51、③北河内 0.50、⑧大阪市北部 0.48、⑦泉州 0.43、⑨大阪市西部 0.42、⑪大阪市南部 0.33、①豊能 0.31、②三島および⑩大阪市東部 0.28、⑥堺市 0.25 の順であった。

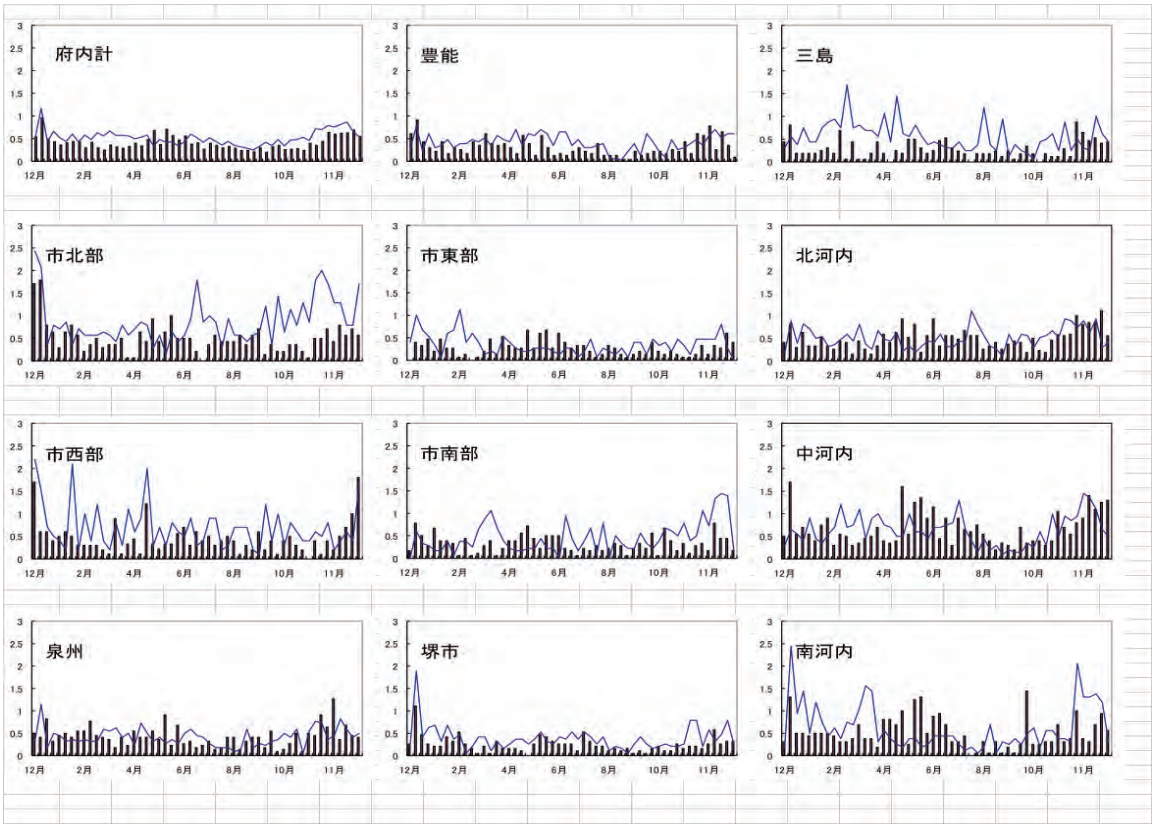
年齢別報告数（0 ～ 9 歳）は、4 歳児および 5 歳児、6 歳児、3 歳児、1 歳児、2 歳児、7 歳児、8 歳児、0 歳児、9 歳児の順に多かった。0 ～ 4 歳の報告数は 2,044 例で全体の 48.0％を占め、2014 年 68.4％、2015 年 57.4％より割合が減少した。逆に 5 ～ 9 歳の報告数は 1,892 例で 44.5％を占め 2014 年 28.2％、2015 年 37.4％より割合が増加した。10 ～ 14 歳及び 15 歳以上の報告数は各々 257 例（6.0％）及び 61 例（1.4％）で、いずれも前年（各々 4.0％及び 1.2％）より割合が増加した。

咽頭拭い液 3 検体中 2 件、皮膚拭い液・水疱 3 検体中 2 件の計 4 件から水痘帯状疱疹ウイルスが検出された。

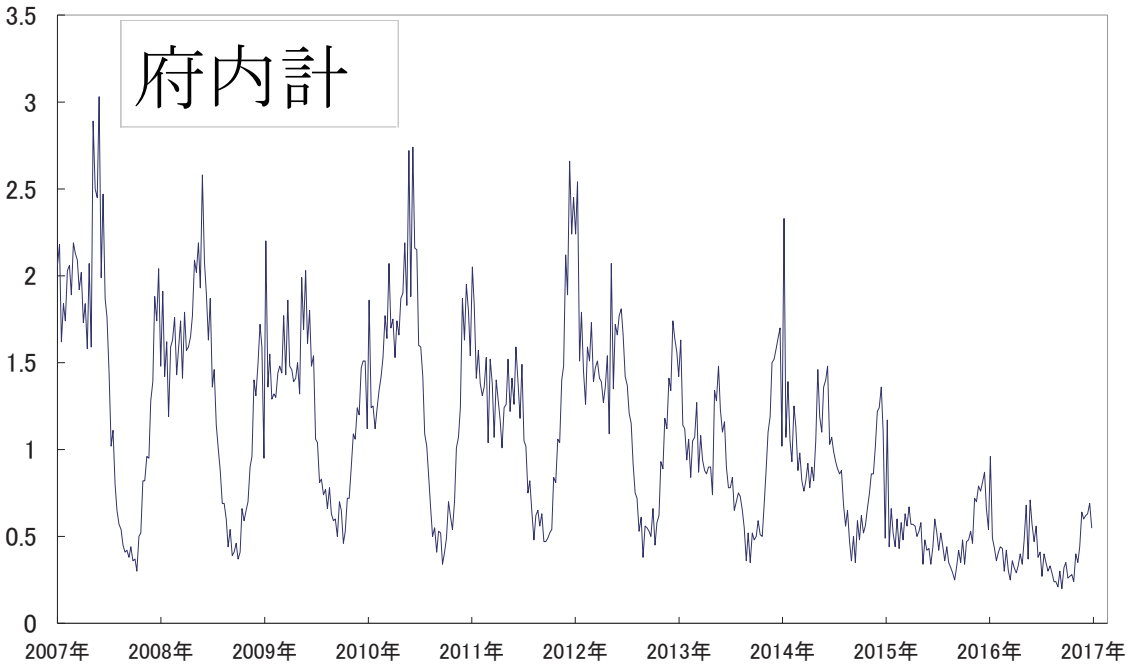
（文責：吉田）

水　痘

線（2015 年（平成 27 年）第 1 週～第 52 週）
棒（2016 年（平成 28 年）第 1 週～第 52 週）



線［2007（平成 19 年）第 1 週～ 2016 年（平成 28 年）第 52 週］



●手足口病

2016（平成 28）年の手足口病の報告数は 2,689 例で、平成 26 年の 27,500 例に比し、24,811 例、90.2％の減少を示した。年間の定点あたり週平均報告数は 0.26 で、平成 26 年の 2.6 の 90.0％減であった。手足口病は平成 23 年に変異したコクサッキーウイルス A6 による大流行が起こってから、1 年おきに大きな流行がみられている。本年は非流行年で、過去 10 年では 7 番目の低さであった。

2016（平成 28）年の大阪府 13 疾患総報告数 14,8361 例の 1.8％を占め、疾患別では第 6 位であった。全国の手足口病の報告数 69139 例は、13 疾患全報告数 2,236,930 の 3.1％で、疾患別では第 6 位であった。

週別の定点あたり報告数では　第 20 週（5 月）から 0.2 を超え、第 39 週（9 月）に 0.5 を、第 40 週（10 月）に 1.2 がピーク、第 47 週（11 月）以後は 0.5 を超えることはなく、12 月は 0.3 前後であった。

月別で概観すると、10 月 743 例が最も多く、次いで 11 月 349 例、9 月 337 例、7 月 269 例，8 月 263 例，6 月 260 例と続き、流行年とは異なり、夏型感染症とはいえず、秋に多かった。
年齢別では　1 歳児 919 例が最も多く、次いで 2 歳児 558 例、3 歳児 316 例、4 歳児 230 例、0 歳児 224 例、5 歳児 161 例であった。0 歳から 5 歳までの就学前児童の報告数 2408 例が全体の 89.6％を占めた。乳幼児期の感染症と言える。

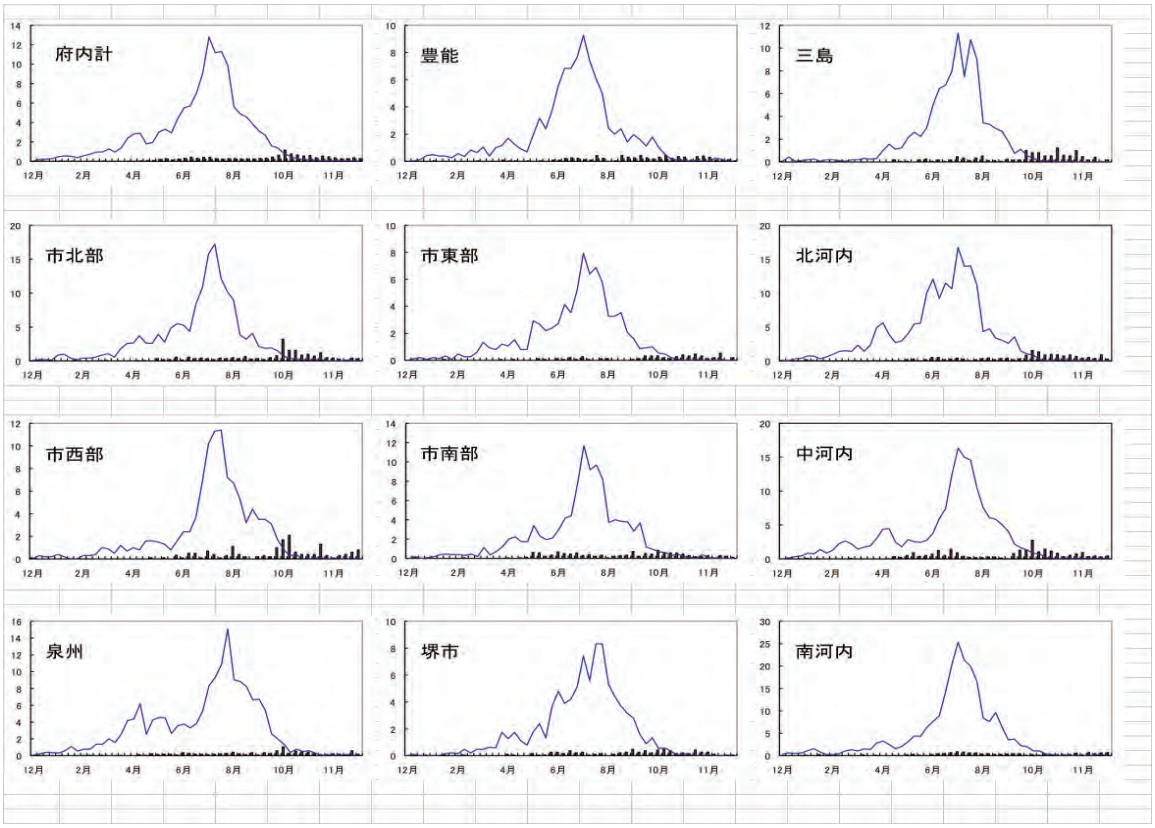
ブロック別の報告数では　④中河内 497 例 例が最も多く、次いで、③北河内 471 例、⑧大阪市北部 290 例、⑪大阪市南部 229 例、⑤南河内 224 例、⑦泉　州 219 例の順に報告数が多い。ブロック別の定点あたり報告数の年平均では　④中河内 0.48 が最も高く、次いで、⑧大阪市北部 0.4、③北河内 0.34、㊷大阪市西部 0.31、⑪大阪市南部 0.24 と続く。

本報告書の疾患別にみた検体の種類とウイルス陽性数では、手足口病では咽頭や鼻腔拭い液など 38 検体が提出され、27 検体で陽性、陽性率は 71.1％であった。検出ウイルスは手足口病の原因とされる 3 ウイルスでは、コクサッキーウイルスＡ（ＣＡ）16 型が 5 件、エンテロウイルス 71 型 4 件、CA 6 型が 3 件であった。ほかに、CA10 3 件、CA4 3 件、ヒトパレコウイルス 3 型 (HPeV3) 5 件などであった。

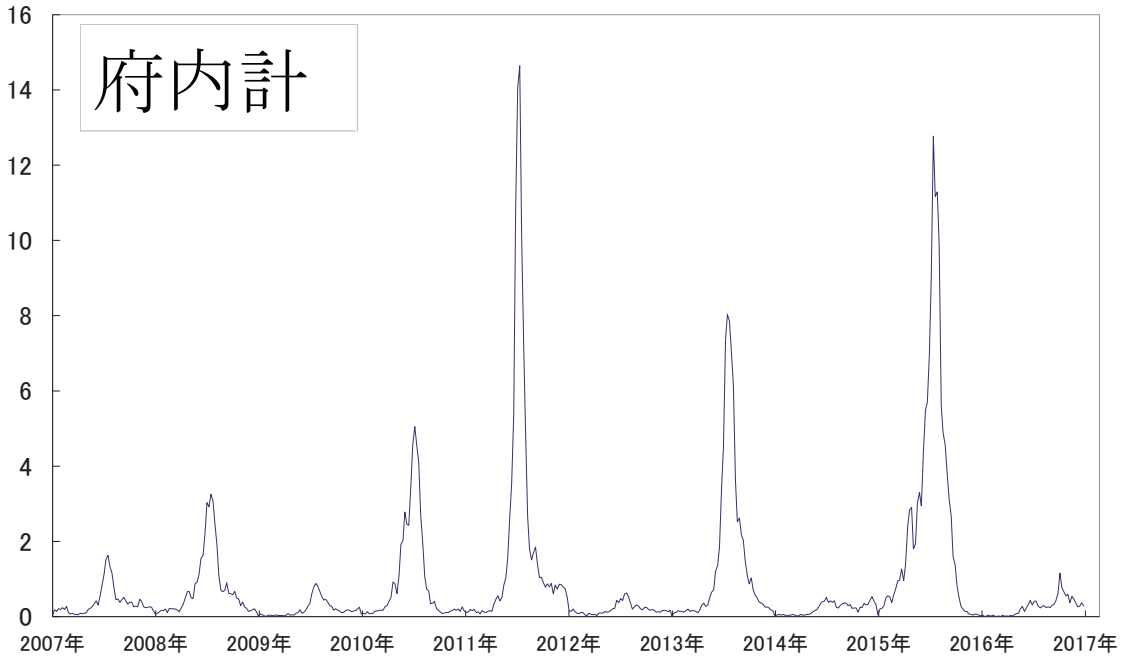
（文責：塩見）

手足口病

線（2015 年（平成 27 年）第 1 週～第 52 週）
棒（2016 年（平成 28 年）第 1 週～第 52 週）



線［2007（平成 19 年）第 1 週～ 2016 年（平成 28 年）第 52 週］



●伝染性紅斑

2016 年（平成 28 年）の伝染性紅斑の報告数は 1,998 例で、前年の 5,409 例から 3,411 例、63.1％減少した。小児科・眼科定点報告対象 13 疾患総報告数の 1.3％を占め第 10 位であった。定点あたり報告数は年平均 0.19 で、前年 0.51 より 62.7％減少した。全国集計では 51,419 例で、前年の 98,521 例から 47,102 例、47.8％減少した。総報告数の 2.3％を占め、定点あたり報告数は年平均 0.31 で前年 0.59 より 47.5％減少した。

定点あたり報告数を週別にみると、第 1 週 0.60 から本年最高値の第 3 週 0.65 に増加した後、増減を繰り返しながら本年最低値の第 33 週 0.02 まで減少した。その後第 42 週 0.12 まで増加した後、再度減少に転じ第 52 週 0.02 となった。全国集計では、本年最高値の第 1 週 0.84 から第 12 週 0.29 まで減少し、増減を繰り返しながら第 23 週 0.45 まで増加した後、再び減少傾向となり本年最低値の第 52 週 0.08 となった。

定点あたり報告数の月別平均値は、1 月、2 月 3 月、4 月、5 月、6 月、7 月、10 月、9 月、8 月、11 月、12 月の順に高かった。春から夏にかけて増加する例年の流行曲線とは異なり、本年は年初から夏まで減少し続けた。

過去 10 年間では、2007（平成 19）年、2011（平成 23）年、2015（平成 27）年と 4 年毎に比較的大規模な流行（ピーク値が 0.9 ～ 1.2）があったが、大流行と大流行の間の時期は比較的小さな流行（ピーク値が 0.5 以下）に留まった。

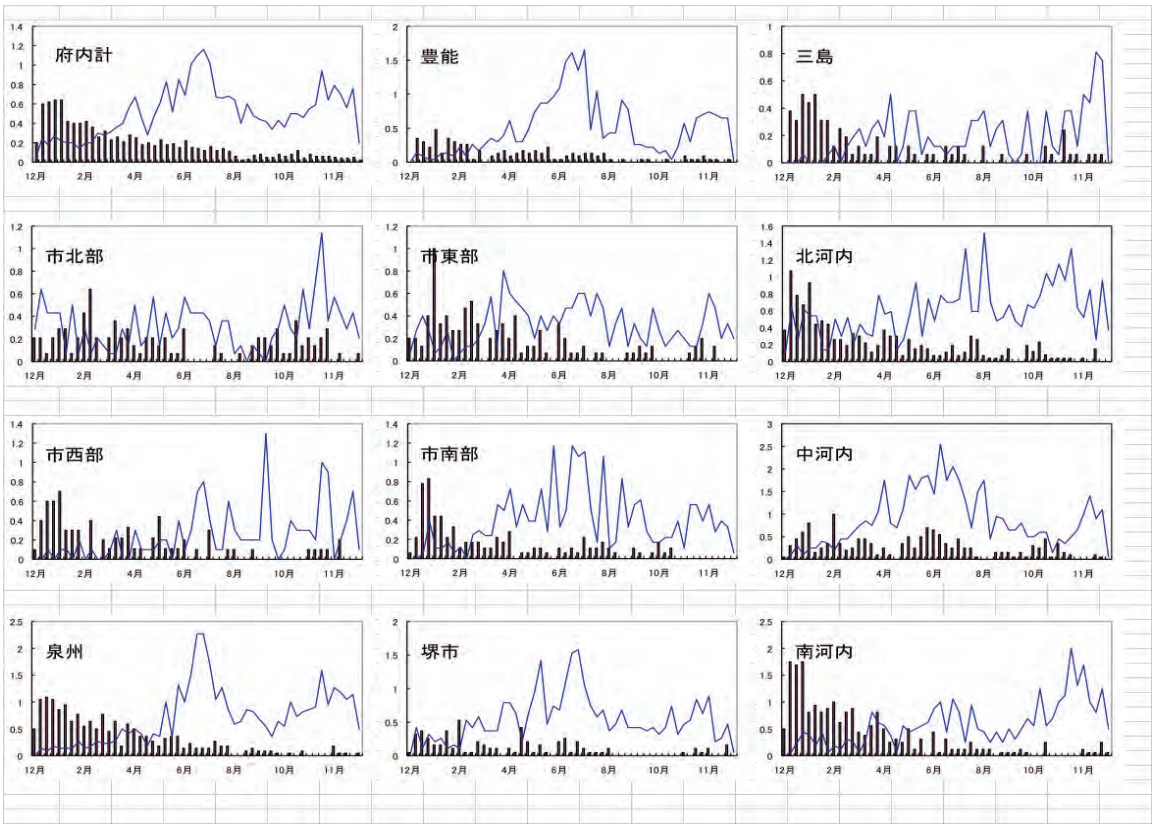
ブロック別の定点あたり報告数の年平均は、⑤南河内 0.37、⑦泉州 0.31、④中河内 0.27、③北河内 0.21、⑩大阪市北部および⑧大阪市東部 0.16、⑨大阪市西部 0.14、⑪大阪市南部 0.13、①豊能、②三島および⑥堺市 0.11 の順であった。

年齢別報告数（0 ～ 9 歳）は 5 歳児、4 歳児、6 歳児、7 歳児、3 歳児、8 歳児、2 歳児、1 歳児、9 歳児、0 歳児の順に多かった。5 ～ 9 歳の報告数は 1,069 例で全体の 53.5％を占めた。0 ～ 4 歳、10 ～ 14 歳、15 歳以上の報告数はそれぞれ 770 例（38.5％）、131 例（6.6％）、28 例（1.4％）であった。

（文責：吉田）

伝染性紅斑

線（2015 年（平成 27 年）第 1 週～第 52 週）
棒（2016 年（平成 28 年）第 1 週～第 52 週）



線［2007（平成 19 年）第 1 週～ 2016 年（平成 28 年）第 52 週］

●突発性発しん

2016（平成 28）年と 2015（平成 27）年の患者報告数の比較では、平成 28 年の報告数は前年比 11.5%減の 4,857 例で、総報告数の 3.4%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.47 で順位は第 6 位であった。

全国的には 6 位（0.46）であった。

月別（週別）の定点あたりの報告数の推移では、定点あたりの報告数は、毎月の平均と標準偏差でみると、5 月（第 18 週 ～ 第 22 週）が 0.60±0.11、9 月（第 36 週 ～第 39 週）が 0.55±0.10、6 月（第 23 週～第 26 週）と 7 月（第 27 週～第 30 週）とがそれぞれ 0.54±0.04 と高く、2 月（第 5 週 ～第 9 週）が 0.33±0.05、12 月（第 50 週～第 53 週）が 0.36±0.06 と低値であった。

全国的には 6 月（第 23 週 ～ 第 26 週）が 0.59±0.03、5 月（第 18 週～第 22 週）が 0.57 ±0.08、7 月 (第 27 週～第 30 週) が 0.53±0.04 と高く、2 月（第 5 週～ 第 9 週）が 0.36± 0.02、12 月（第 50 週 ～ 第 53 週）が 0.36±0.05 と低値であった。

年齢別患者発生数では 1 歳の 2,433 例（50.1%）が最も多く、0 歳が 1,863 例（38.4%）、2 歳 386 例（7.9%）であり、0 歳と 1 歳で全体の 88.4%、2 歳を含めると 96.4%を占めた。

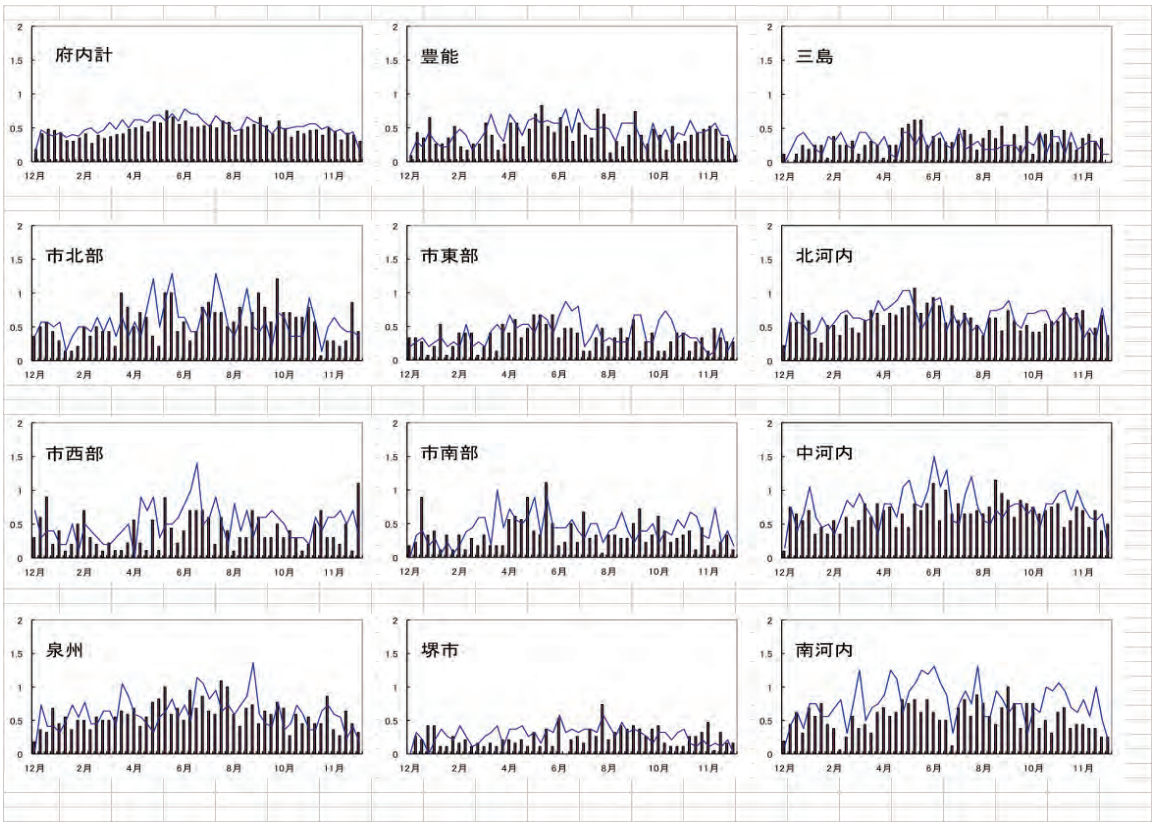
ブロック別患者発生数では、定点あたりのブロック別年平均報告数の上位 5 ブロックは④中河内（0.67）、③北河内（0.60）、⑦泉州（0.59）、⑧大阪市北部（0.55）、⑤南河内（0.54）の順であった。下位は⑥堺（0.24）、②三島（0.31）であり、上位のブロックとは約 2 倍の差がある。

本疾患の特性としてブロック間の差が比較的生じにくいと考えられているが、上位と下位では約 2 倍の差があり、この傾向は過去のデータと同じである。

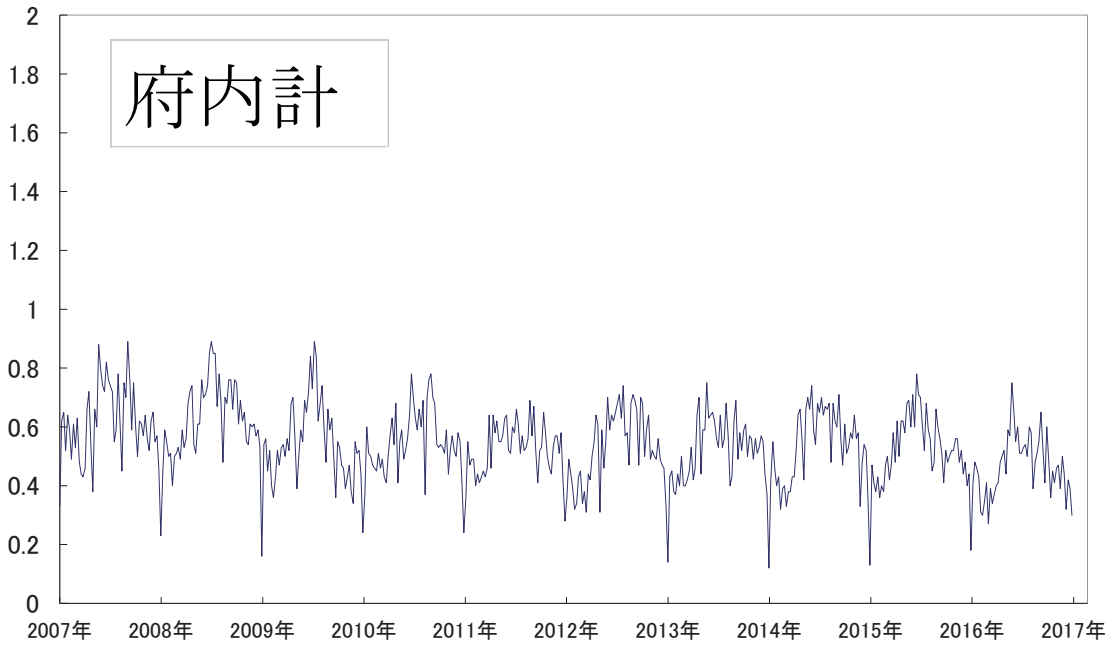
（文責：東野）

突発性発しん

線（2015 年（平成 27 年）第 1 週～第 52 週）
棒（2016 年（平成 28 年）第 1 週～第 52 週）



線［2007（平成 19 年）第 1 週～ 2016 年（平成 28 年）第 52 週］



●百日咳

2016（平成 28）年の百日咳の報告数は 166 例（定点あたり報告数 0.02）で、前年の 219 例（定点あたり報告数 0.02）に比して 24.2％減であった。全国集計の報告数は 3,011 例（定点あたり報告数 0.02）で、前年の 2,674 例（定点あたり報告数 0.02）から 12.6％増となった。

全国、大阪府ともに、小児科定点把握 11 疾患のうち最も報告数の少ない疾患であった。

全国の報告数は平成 10 年代半ばには 1,000 例台（定点あたり報告数 0.01）であったが、2007（平成 19 ）年より増加し、2008（平成 20）年には 6,686 例（定点あたり報告数 0.04）となり、2012（平成 24）年の 4,087 例（定点あたり報告数 0.03）まで高い報告数が続いた。2013（平成 25 ）年は 1,662 例（定点あたり報告数 0.01）と減少したが、2014（平成 26）年は 2,066 例（定点あたり報告数 0.01）、2015（平成 27）年は 2,675 例（定点あたり報告数 0.02）、2016（平成 28）年は 3,011 例（定点あたり報告数 0.02）と緩やかな増加を示す。

大阪府の報告数は 2006（平成 18）年は 141 例であったが、2007（平成 19）年から 2012（平成 24 ）年までは 247 例から 364 例のあいだを推移していた。2014（平成 26 ）年の報告数 171 例、2015（平成 27 ）年の報告数 219 例と増加したが、2016（平成 28）年は若干減少した。

週別の報告数でみると、7 月の報告数（週平均 7.8 例）が最も多く、9 月（同 4.8 例）、3 月（同 4.3 例）、8 月（同 4.0 例）と続く。少ないのは 2 月（同 1.0 例）、1 月（同 1.8 例）であった。

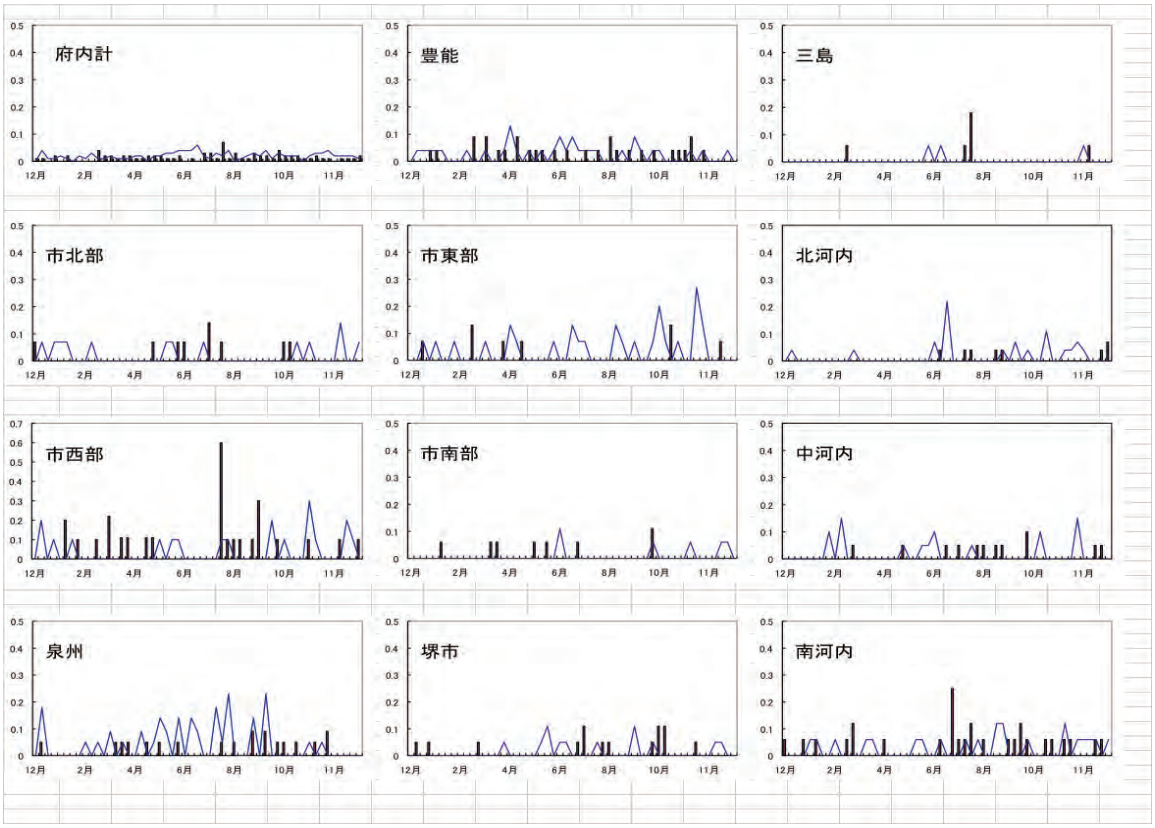
年齢別では、乳幼児に多く、6 か月未満 19.9%（33 例）、6 か月以上 12 か月未満 6.0%（10 例）、1 歳児 7.2%（12 例）の報告があった。2 歳未満の患者が報告数の 36.7%（61 例）を占めている。10 歳から 14 歳で 13.3%（２２例）、20 歳以上は 17.5%（29 例）であり、年長児や成人にも発症していることに注意を払う必要がある。

ブロック別で報告数の多かったのは①豊能 29 例、⑤南河内・⑨大阪市西部 27 例で、少なかったのは、②三島 6 例、③北河内・⑧大阪市北部・⑩大阪市東部・⑪大阪市南部 6 例であった。

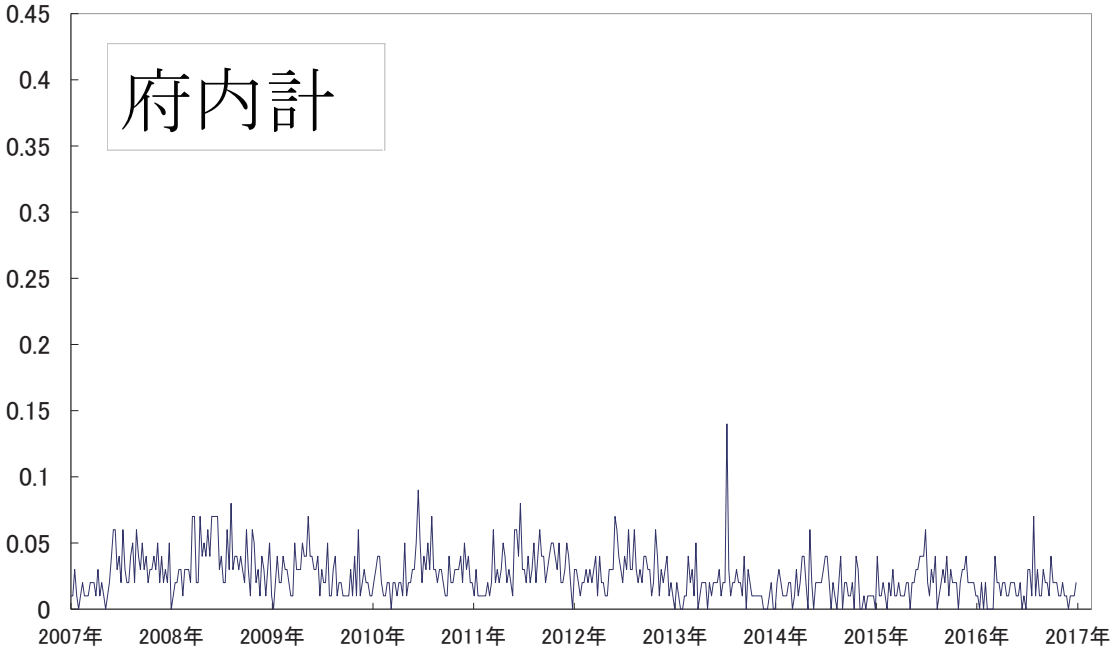
（文責：東野）

百日咳

線（2015 年（平成 27 年）第 1 週～第 52 週）
棒（2016 年（平成 28 年）第 1 週～第 52 週）



線［2007（平成 19 年）第 1 週～ 2016 年（平成 28 年）第 52 週］



●ヘルパンギーナ

2016（平成 28）年度と 2015（平成 27）年度の患者報告数の比較では、2016（平成 28）年の報告数は前年比 68.0%増の 8,563 例で、総報告数の 5.8%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.82 で順位は昨年の第 7 位から 3 位になった。

全国的には 3 位（0.97）であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、週別では第 1 週から第 19 週までは 0.01 ～ 0.14 で推移し、第 20 週（5 月）に 0.37 となり以後増加し、第 27 週（5.78)、第 28 週（.96)（7 月）にピークとなった。第 33 週（8 月）に 1.0 を切り 0.78 となり減少が続いた。第 22 週（5 月）に報告疾患の第 5 位になり、第 27 ～ 29 週（7 月）に第 1 位となった。第 35 週（8 月）の第 5 位を最後に上位 5 疾患から外れた。

全国的には 0.21 となった第 20 週（5 月）から増加が始まり、第 25 週には 1.0 を超え、第 28 週（4.05)、第 29 週（3.53)、第 30 週（3.85）（7 月）にピークに達した。その後減少し、第 38 週（0.88)、第 39 週（0.98)、第 40 週（1.05）（9 月）となり、以後 1.0 を切った。

年齢別患者発生数では、1 歳 2,391 例 (27.9 %)、2 歳 1,771 例 (20.7%)、3 歳 1,198 例 (14.0 %)、4 歳 902 例（0.5%)、0 歳 736 例（8.6%)、の順で、0 ～ 4 歳で全体の 81.7%を占めた。

ブロック別患者発生数では、定点あたりのブロック別年平均報告数の上位 5 ブロックは、③北河内（1.12)、⑧大阪市北部（1.10)、⑤南河内（0.97)、④中河内（0.95)、⑦泉州（0.89）の順であった。

ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位 5 ブロックは、③北河内（第 28 週、10.63)、③北河内（第 27 週、9.52)、⑧大阪市北部（第 28 週、8.50)、③北河内（第 29 週、7.52)、⑤南河内（第 26 週、7.19)）の順であった。

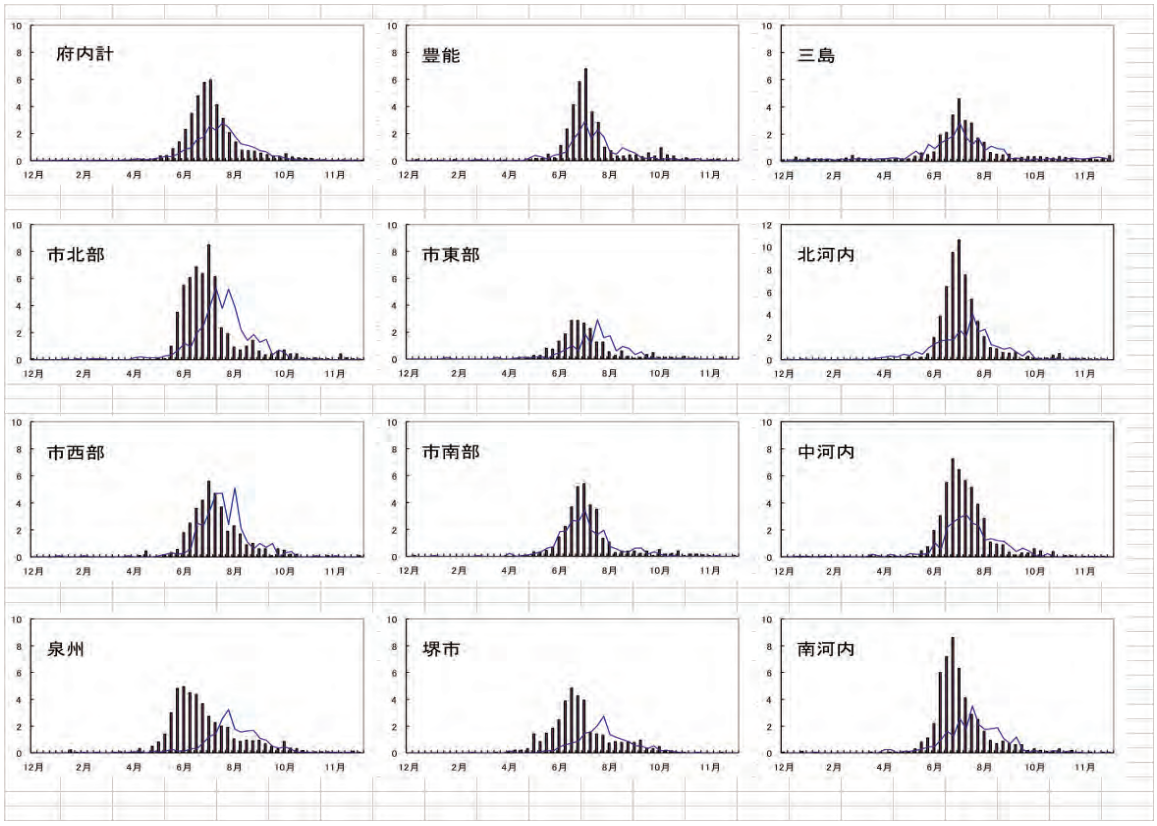
病原体検出の陽性率は 73.6%であった。コクサッキー A10 型 (7)、A2 型 (9) 、A4 型 (39) 、A5 型 (1) 、A6 型 (1)、コクサッキー B1 型 (3)、B3 型 (1)、B5 型 (6)、エコー 6 型 (1)、HHV6(1) 、ライノウイルス（9）が検出された。

本疾患は 6 月末から 8 月にかけて流行の急峻な単峰性ピークを示す夏型感染症である。本年の流行は昨年と同様の比較的典型的な流行パターンであった。

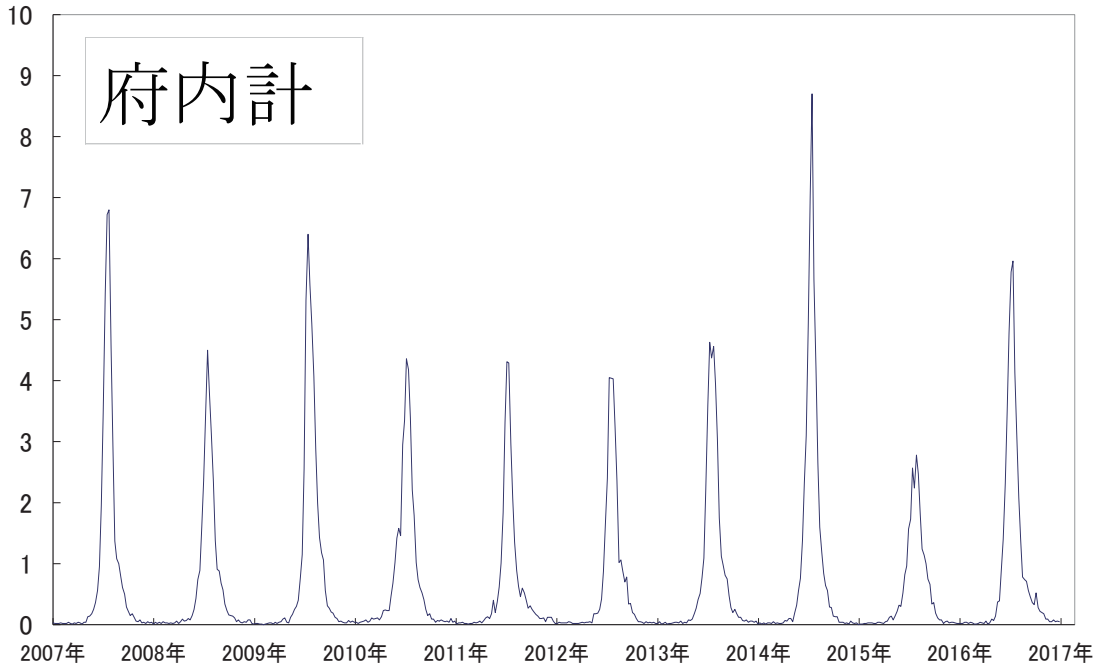
（文責：東野）

ヘルパンギーナ

線（2015 年（平成 27 年）第 1 週～第 52 週）
棒（2016 年（平成 28 年）第 1 週～第 52 週）



線［2007（平成 19 年）第 1 週～ 2016 年（平成 28 年）第 52 週］



●流行性耳下腺炎

2016（平成 28）年の流行性耳下腺炎の患者報告数は 14,504 例で、前年比 285.6％増、総報告数(小児科･眼科定点報告対象疾患)の 9.8％を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 1.39 で、順位は前年の第 10 位から第 3 位に上昇した。流行性耳下腺炎は 4 ～ 5 年ごとの周期的流行を繰り返すことが知られているが、本年は過去 10 年間で最も大きな流行となった。

全国集計では 159,031 例の報告で、前年比 96.2％増、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 7.1％を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.97 で、順位は前年の第 8 位から第 3 位に上昇した。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、第 18 週 (5 月) より 1 を超え、第 28 週から第 30 週 (7 月)、第 39 週・40 週（9 月～ 10 月)、第 42 週（10 月）で 2 を超えた。年間最高値は第 42 週（10 月）の 2.57 であった。

全国集計では、第 1 週（1 月)、第 22 週（5 月)、第 24 週から第 34 週（6 月～ 8 月)、第 37 週 (9 月)、第 39 週･40 週（9 月～ 10 月)、第 42 週（10 月)、第 44 週･45 週（10 月～ 11 月)、第 48 週で 1 を超えた。年間最高値は第 30 週 (7 月) の 1.31 であった。

年齢別患者発生数は､5 歳児の 2,381 例が最も多く､以下 4 歳児(2,204 例)､6 歳児(2,124 例)、7 歳児（1,539 例)、3 歳児（1,513 例）と続く。3 歳児から 6 歳児で全体の 56.7％と、例年 60％前後で推移していたが本年は割合が減少していた。

定点あたりの報告数年平均の上位 5 ブロックは、⑤南河内（2.47)、⑦泉州（2.23)、⑧大阪市北部 (2.21)、④中河内（1.72)、③北河内 (1.37) の順であった。

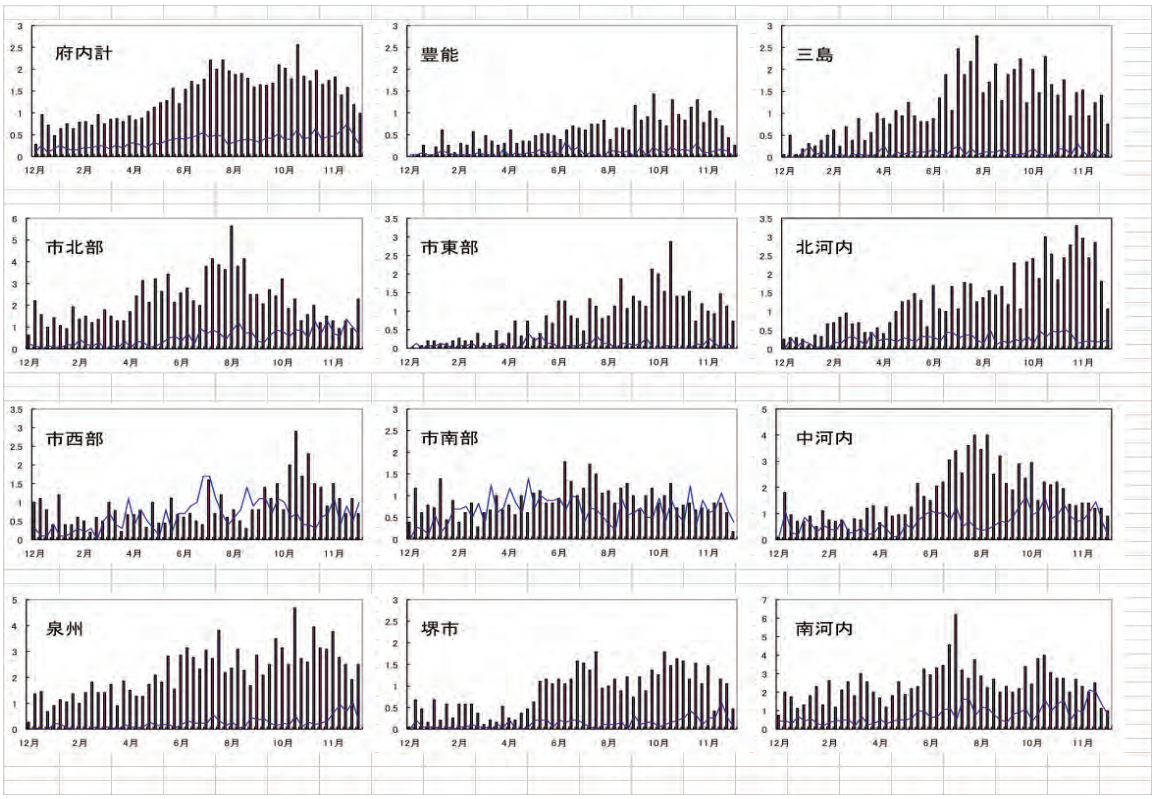
ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位 5 ブロックは、⑤南河内（第 28 週、6.19)、⑧大阪市北部 (第 32 週、5.64)、⑦泉州（第 42 週、4.68)、⑤南河内（第 27 週、4.56)、⑧大阪市北部 (第 29 週・34 週、4.14) の順であった。

病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出は 82 検体あった。うち 57 検体が陽性であった（陽性率 69.5％)。内訳は Mumps virus genotype G が 52 件（91.2％）とほとんどを占めていた。

（文責：八木）

流行性耳下腺炎

線（2015 年（平成 27 年）第 1 週～第 52 週）
棒（2016 年（平成 28 年）第 1 週～第 52 週）



線［2007（平成 19 年）第 1 週～ 2016 年（平成 28 年）第 52 週］

3）眼科定点把握疾患

●急性出血性結膜炎

2016（平成 28）年の急性出血性結膜炎の報告数は、31 例で前年より 11 例減少し、一定点眼科医療機関あたり 0.01 であった。

週別発生状況では、府内合計で定点あたり最高が、第 18 週の 0.12（6 例）で、第 14 週が 0.06(3 例) が続いた。報告の無い週が 31 週あった。

年間平均ブロック別で定点当たり高いのは、④中河内、⑥堺市、⑦泉州、⑧大阪市北部、⑪大阪市南部の 0.02 であった。①豊能、②三島、⑤南河内からの報告はなかった。

年齢別では、本疾患も流行性角結膜炎と同様に例年成人の発生が多く、20 歳以上の報告数が 28 例と、全体の 90.3％を占めた。

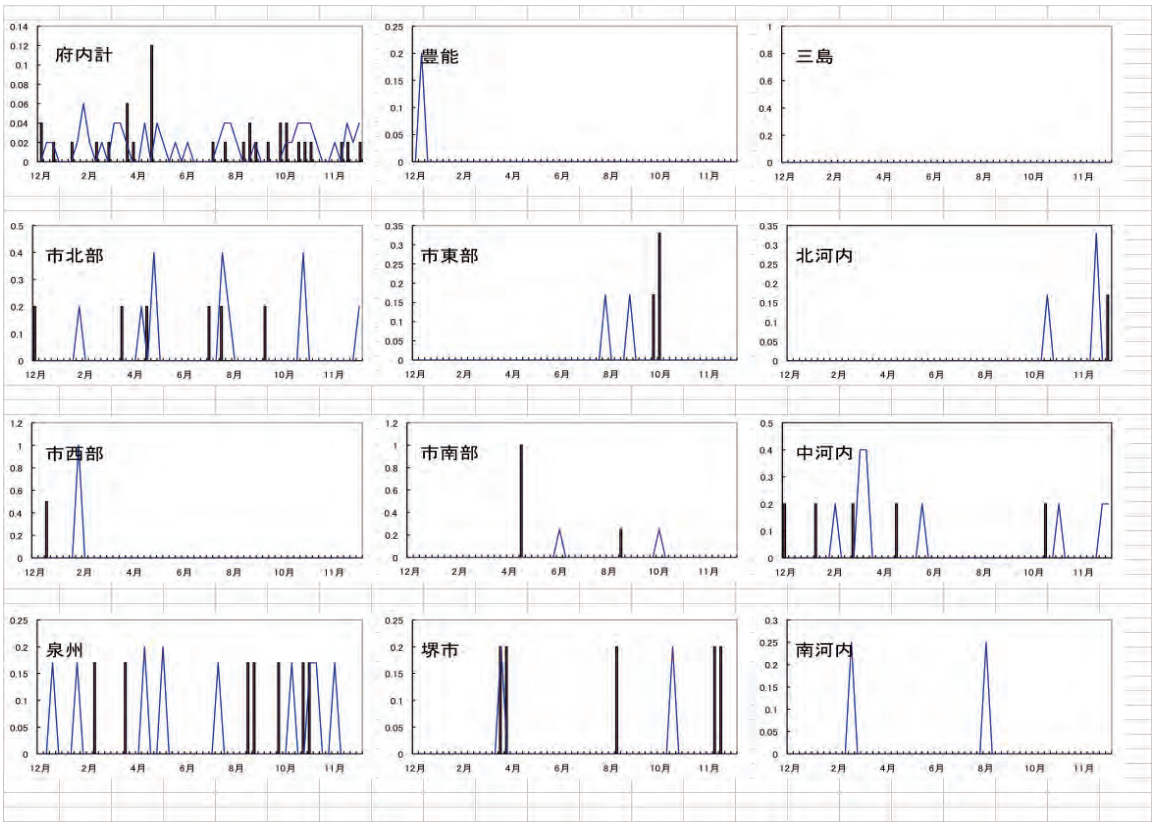
最近 5 年間の一眼科定点あたりの急性出血性結膜炎発生例件数

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
大　阪	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01
全　国	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01

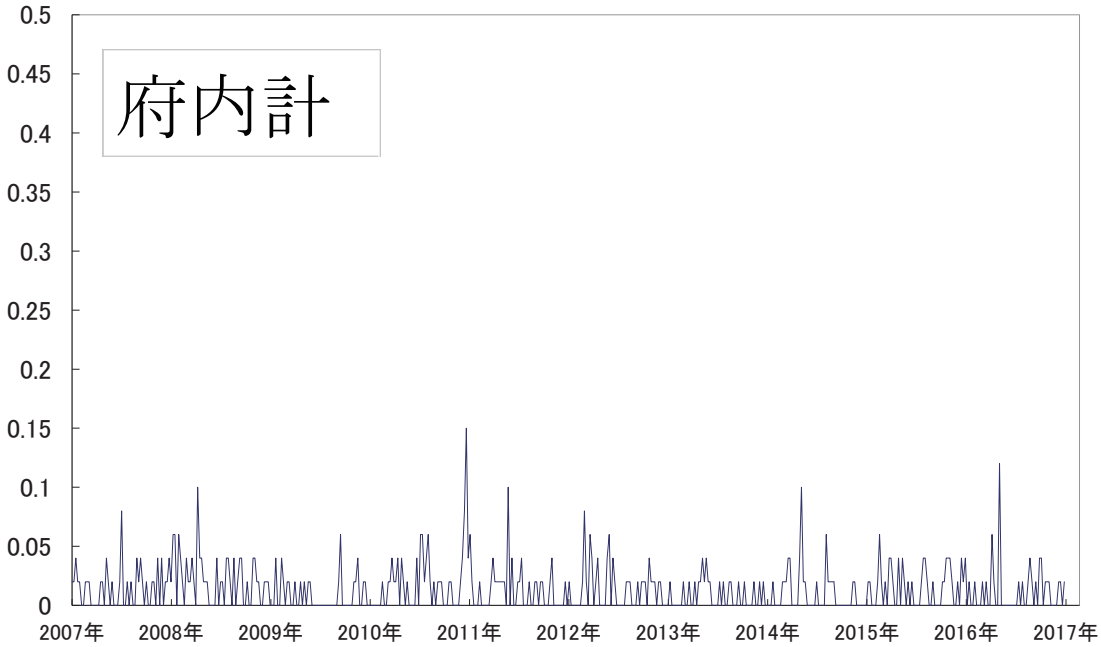
（文責　笹部）

急性出血性結膜炎

線（2015 年（平成 27 年）第 1 週～第 52 週）
棒（2016 年（平成 28 年）第 1 週～第 52 週）



線［2007（平成 19 年）第 1 週～ 2016 年（平成 28 年）第 52 週］



●流行性角結膜炎

2016（平成 28）年の流行性角結膜炎の報告数は前年の 38.1%増の 1454 例で、一定点眼科医療機関あたり 0.54 であった。

週別発生状況では、府内合計で最も報告数の多かったのは、第 37 週の定点あたり 1.27 で、第 36 週の 1.17 がこれに続き、以下、第 38 週、第 39 週、第 42 週が 1.10, 第 35 週が 1.02 と、この 6 週が 1.0 を超えた。本疾患は夏型感染症とされており、発生件が多いとその傾向は顕著になる。本年は、第 31 週から第 39 週までの（8 月～ 9 月）9 週に全体の 30%の報告があった。

週別ブロック別では、定点当たり 5.0 を超えたのは全て⑨大阪市西部で、第 37 週の 11.5 を筆頭に、第 36 週 9.5, 第 35 週 9.0、以下 , 第 38 週、第 42 週 8.5、第 31 週、第 39 週 7.5、第 40 週 6.0、第 34 週 5.5 と続いた。

年間平均ブロック別では、⑨大阪市西部 2.16、④中河内 1.14 の順であった。最低は、⑤南河内の 0.22 であった。

年齢別では、例年どおり成人（20 才以上）の発生件数が多く、本年も 881 例と全体の 60.6 %を占めた。

本年も、大阪府内の定点あたりの報告数は、全国集計よりも低かった。

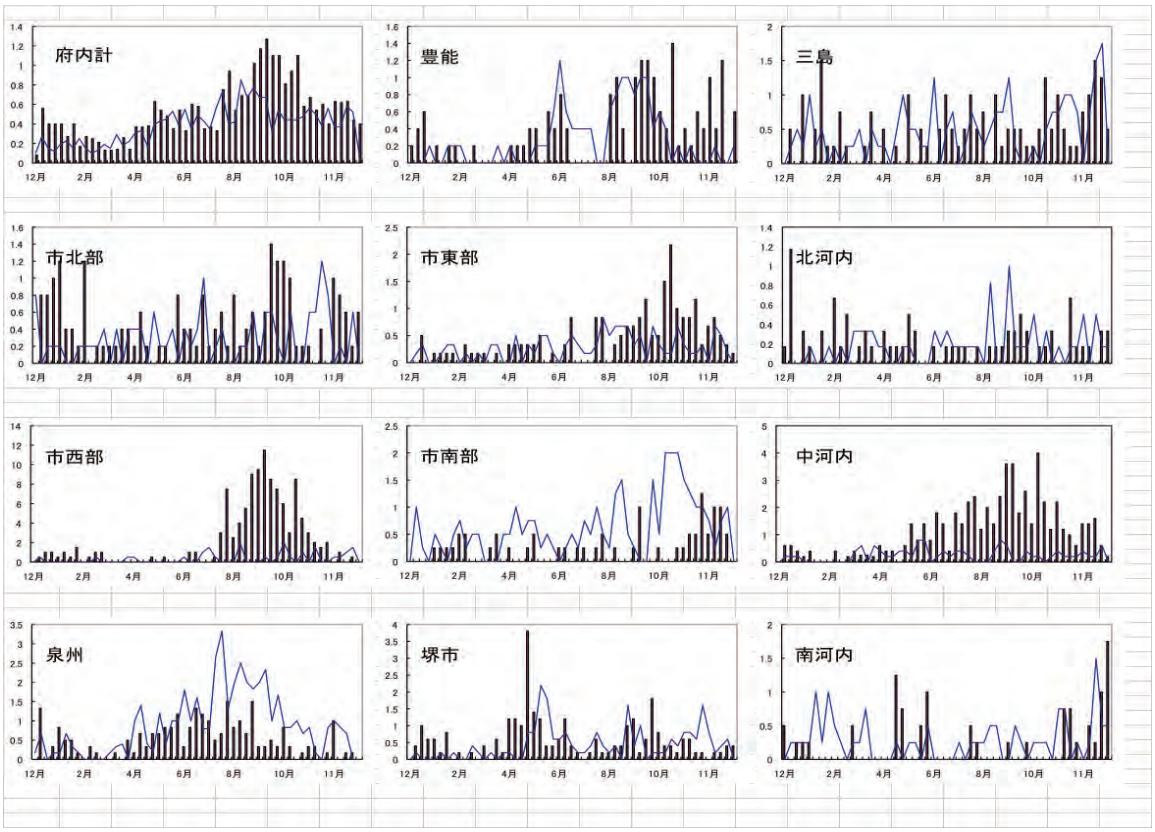
最近 5 年間の一眼科定点あたり流行性角結膜炎発生例数

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
大阪府	0.23	0.36	0.28	0.38	0.54
全国	0.56	0.58	0.57	0.69	0.73

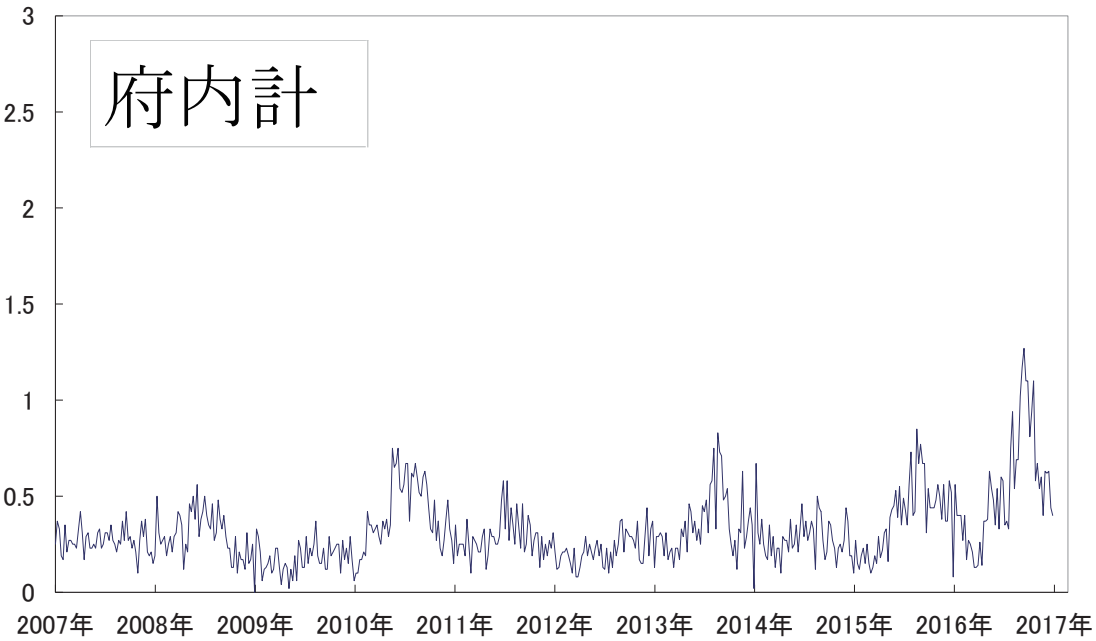
（文責　笹部）

流行性角結膜炎

線（2015 年（平成 27 年）第 1 週～第 52 週）
棒（2016 年（平成 28 年）第 1 週～第 52 週）



線［2007（平成 19 年）第 1 週～ 2016 年（平成 28 年）第 52 週］



4）基幹定点報告（週報）対象疾患

基幹病院定点報告（週報）対象疾患は、5 類感染症の中の細菌性髄膜炎 2013（平成 25 ）年 4 月から髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌による、髄膜炎を含む侵襲性感染症が、平成 26 年 9 月から播種性クリプトコッカス症が全数報告疾患となったので、本項の対象疾患から除く。)、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎 (オウム病を除く)、及び、平成 25 年 10 月から報告対象となった感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）の 5 疾患である。

表には 2015（平成 27）年、2016（平成 28）年の大阪府・市の各基幹定点からの報告数を示した。基幹病院数は 17 ある。報告数は 2016（平成 28）年 1,599 例で、2015（平成 27）年 993 例から 61%の増加であった。マイコプラズマ肺炎、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎が 50%以上増加し、ロタウイルス胃腸炎も増加した。1999（平成 11）年の事業開始時から病院間で報告症例数の差が大きい。今回はブロック別の検討はしなかった。

ブロック	細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎（オウム病を除く）		感染性胃腸炎（ロタウイルス）	
（年）	2015年H27	2016年H28	2015年H27	2016年H28	2015年H27	2016年H28	2015年H27	2016年H28	2015年H27	2016年H28
(1)豊能		1	10	15	25	41	1	1	40	36
(2)三島	2	5	5	6	187	222			19	57
(3)北河内	1	1		1	25	100				20
(4)中河内		2	1		51	73			34	22
(5)南河内	2	3	3	15	15	40			70	74
(6)堺	7	4	12	19	95	225	3	3	28	86
(7)泉州	1	11			57	169			37	34
大阪市	3	2	4	3	185	231	5		49	77
合計	16	29	35	59	640	1101	9	4	293	406
定点あたり大阪	0.94	1.71	2.06	3.47	37.65	64.76	0.53	0.24	17.24	23.88
定点あたり全国	0.95	1.03	2.24	2.89	21.69	41.34	0.87	0.74	9.12	11.04
定点数	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17

以下に、各疾患について述べる。

●細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスを除く）

29 例が報告され、定点あたり 1.7 で、2015（平成 27）年は 16 例、定点あたり 0.9 であり、前年比 81％増であった。年齢は 0 歳 3 例、1 ～ 4 歳 3 例、5 ～ 9 歳児が 4 例、10 歳台 2 例、50 歳台 1 例、50 歳台 1 例、60 歳台 3 例、70 歳台 6 例、80 歳台 4 例で、60 歳以上が 45% であった。原因菌は B 群連鎖球菌 1 例 (新生児)、60 歳以上で肺炎球菌 2 例と黄色ブドウ球菌 1 例、2 歳～ 10 歳の肺炎マイコプラズマ 6 例、他の症例では細菌は検出されていなかった。ウイルスを含めた髄液の核酸検出による原因微生物の同定検査の普及を期待したい。髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスによる髄膜炎は 5 類全数報告を参照されたい。

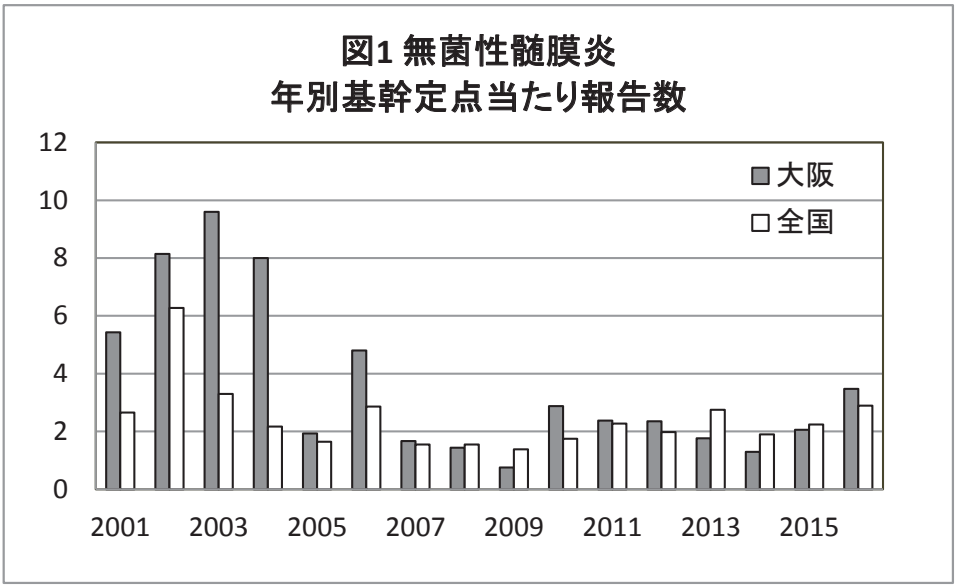
肺炎マイコプラズマを細菌性髄膜炎の原因とすべきか、明確な規定が望まれる。

全国集計では 2016（平成 28）年は 493 例の報告があり、定点あたり 1.03、平成 27 年は定点あたり 0.95 で 2016（平成 28）年は前年比 9%増であった。原因菌には B 群レンサ球菌 6.3%、肺炎球菌 4.9%、黄色ブドウ球菌 3.0%、リステリア菌 2.0%などが多いが、肺炎マイコプラズマ 9.1%も多く、また、ウイルスが記載されていたり、原因菌不明の症例が合計 59%を占めていた。

●無菌性髄膜炎

59 例が報告され、定点当たり 3.5 で 2015（平成 27）年は 35 例、定点あたり 2.1 で、前年比 69%増であった。年齢は 6 ヵ月未満が 4 例、1 ～ 4 歳 7 例、5 ～ 9 歳 17 例、10 ～ 14 歳台 7 例、15 ～ 19 歳 3 例 20 歳台 5 例、30 歳台 9 例、40 歳台 4 例、50 歳以上 2 例であった。10 歳未満の割合が全体の 49%で、2015（平成 27）年は 14%であったので、本年は小児の病気であった。原因微生物としてはムンプス 4 例、肺炎マイコプラズマ 1 例、水痘 1 例、単純ヘルペスウイルス 1 例、陰性と記載なし 52 例であった。一方、本報告書のウイルス検査結果では平成 28 年の無菌性髄膜炎患者からムンプスが genotypeG 10 例を含む 22 例、コクサッキー B(CB)5 が 21 例、エコー (E)6 が 13 例、パレコウイルス 3 型 (HPeV3) が 10 例、などが検出されている。図 1 に大阪府と全国の年間の定点あたりの報告数の推移を示す。大阪府では平成 19 年以後無菌性髄膜炎の大きな流行がない。

全国集計では 2016（平成 28）年は 1379 例、定点あたり 2.9、2015（平成 27）年は定点あたり 2.2 であり、2016（平成 28）年は前年比 29％増であった。国立感染症研究所のデータを参照すると原因ウイルスでは CB5(136 例)、E6(88 例)、ムンプス (84 例) などが多かったが、HPeV3 は 10 位以内にはいっていなかった。



●マイコプラズマ肺炎

1101 例の報告があり、定点あたり 64.8 で、2015（平成 27）年の 72.0%増であった。年齢分布は図 2-1 に示すように 3 歳～ 9 歳に多く、6 歳がピークであった。2015（平成 27）年、2016（平成 28）年の週別報告数を図 2-2 に示した。週当たりの報告数は非流行時には 10 例 未満であるが、2015（平成 27）年 2 9 週以後 10 例以上がつづき、2016（平成 28）年は第 2 週 32 例から減少し、第 19 週 6 例となったが、第 20 週から 10 例以上、第 27 週から 20 例以上となり、第 42 週の 56 例をピークに、第 52 週の 18 例で越年した。

全国集計では 2016（平成 28 ）年は定点あたり 41.3 で、2015（平成 27）年の 21.7 に比し、91%増であった。図 2-3 に大阪府と全国のマイコプラズマ肺炎の年間の定点あたり報告数の推移を示す。大阪では 2006（平成 18 ）年と 2011（平成 23）年をピークとする流行、全国では 2014（平成 24）年をピークとする流行があったことがわかる。1990 年代はじめまで日本では 4 年毎の流行周期がみられたが、諸外国では 4 ～ 5 年の流行周期が持続していると報告されている。大阪府では 2016(平成 28）年は流行の 2 年目と目される。

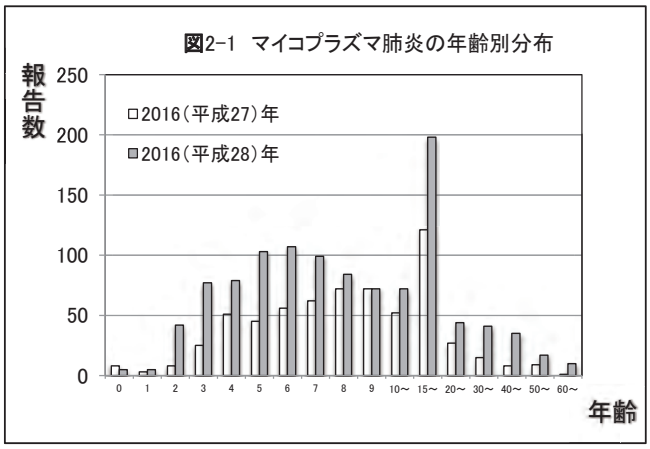


図2-1　マイコプラズマ肺炎の年齢別分布

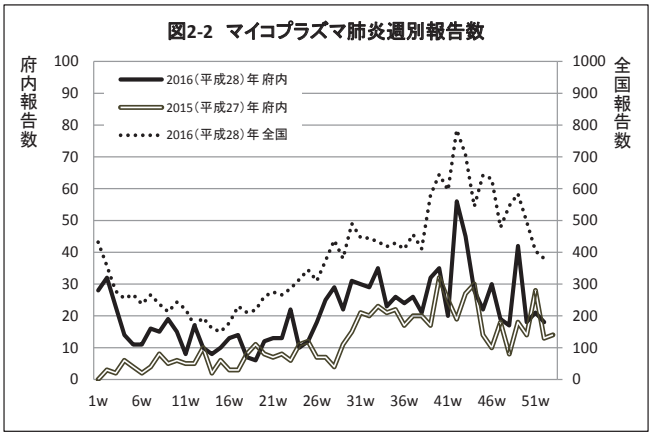


図2-2　マイコプラズマ肺炎週別報告数

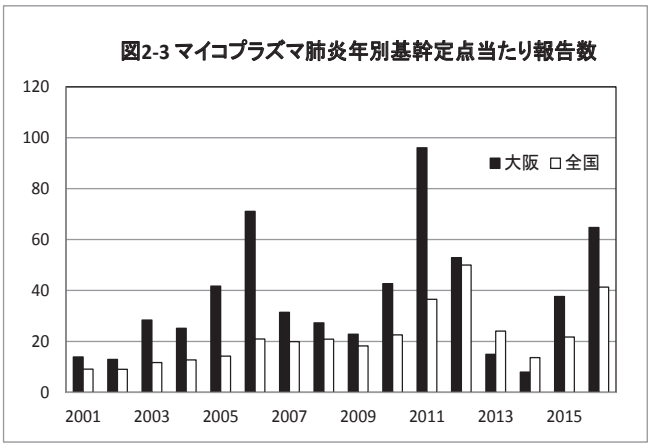


図2-3 マイコプラズマ肺炎年別基幹定点当たり報告数

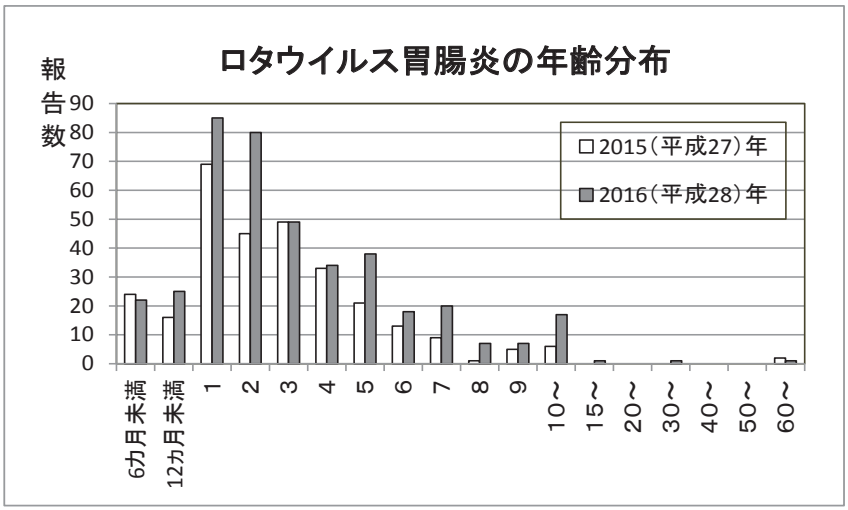
診断方法は核酸検出（PCR・LAMP 等）が 49.3%、血清抗体価が 31.4%、抗原検出が 29.7%で、核酸検出による診断の割合は 2015（平成 27）年の 37.7%より増加していた。抗原検出の低い感度、血清抗体価の上昇までの長い日数と上昇した高抗体価の長期の持続に、診断上の注意が必要である。核酸検出は感度、特異性が最も優れているが、軽症例も容易に診断されるので、報告数増加に寄与している可能性もある。

●クラミジア肺炎（オウム病を除く）

クラミジア・トラコマチスによる新生児期の肺炎と肺炎クラミジアによる肺炎が含まれる。2016（平成 28 ）年は 4 例の報告で、定点あたり 0.2、2015（平成 27）年の 56%減であった。年齢分布では 1 歳、6 歳、8 歳、30 歳台が、各々 1 例であった。週別では第 20 週、22 週、27 週、38 週に各々 1 例が報告された。報告定点は 3 施設であった。診断法は核酸検出が 1 例、血清抗体が 2 例、分離培養が 1 例で、3 例で肺炎クラミジアが原因と報告された。全国集計では 354 例の報告で、定点あたり 0.74 で、2015（平成 27 ）年の 14%減であった。血清疫学からは小児期に感染が多いとされるが、軽症のためか、診断されることがすくないと考えられている。

●感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）

406 例が報告され、定点あたり 23.9 で、2015（平成 27）年に比し 39%増であった。週別報告数では第 5 週から 10 例以上となり、第 8 週から 20 例以上で、第 12 週の 36 例がピークで第 23 週 10 例未満となった。年齢は 1 歳が 21.0%と最も多く、2 歳 19.8%で、0 ～ 4 歳で 72.8％を占めた。図 3 にはロタウイルス胃腸炎報告数の週別推移を示した。二つの弱毒生ロタウイルスワクチンの初回の接種は生後 6 週～ 15 週未満が推奨され、対象児の接種率は 50%前後であろう。



低い接種率でも集団免疫効果に伴う入院数の減少が生じているという報告があるが、本調査はワクチン任意接種の開始後に始まっており、この間の接種率が変わっていない状況では、ワクチンの効果を明らかにすることは難しい。この 3 年間では報告数は毎年増加している。

全国では定点当たり 11.0 で 2015（平成 27 ）年の 9.1 に比し 21.0%増であった。

（文責：塩見）

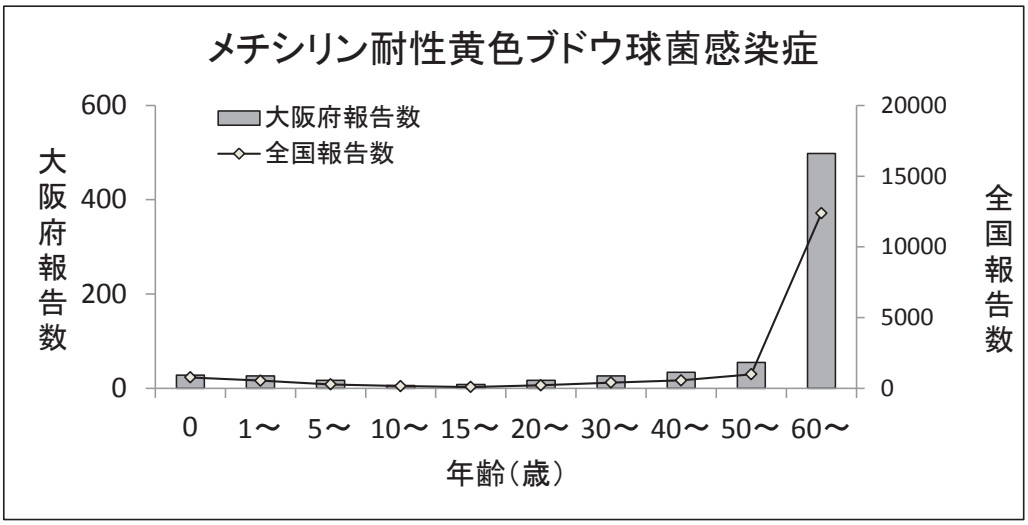
5）基幹定点報告（月報）対象感染症

基幹定点報告（月報）対象感染症は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の 3 疾患である。基幹定点報告（月報）対象感染症を報告する大阪府内の基幹病院定点数は 18 であった。これら薬剤耐性菌はアメリカ合衆国疾病管理予防センター（CDC）や世界保健機関（WHO）からヒトの健康に重大な脅威と指定されている。従って、日本を含め、世界各国は協調して薬剤耐性菌対策を推進することが希求されている。

●メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

⑩大阪市東部を除く 10 ブロックから前年比 9.5%減の 715 例の報告があり、定点あたり報告数は 39.7 であった。年齢別構成は 0 歳児 28 例、1 ～ 4 歳児 26 例、5 ～ 9 歳児 17 例、10 ～ 14 歳 6 例、15 ～ 19 歳 8 例、20 ～ 29 歳 17 例、30 ～ 39 歳 26 例、40 ～ 49 歳 34 例、50 ～ 59 歳 55 例、60 歳以上 498 例であり、60 歳以上が 69.7%を占め、ほぼ前年同様の分布であった。

全国情報「NESID 年報　2017（平成 29）年 3 月 4 日現在」では前年比 4.3％減の 16,332 例の報告があり、定点当たり報告数は 34.1 と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると 60 歳以上が 12,374 例と 75.8%を占めた。大阪府内の報告数は、全国の 4.4%であった。

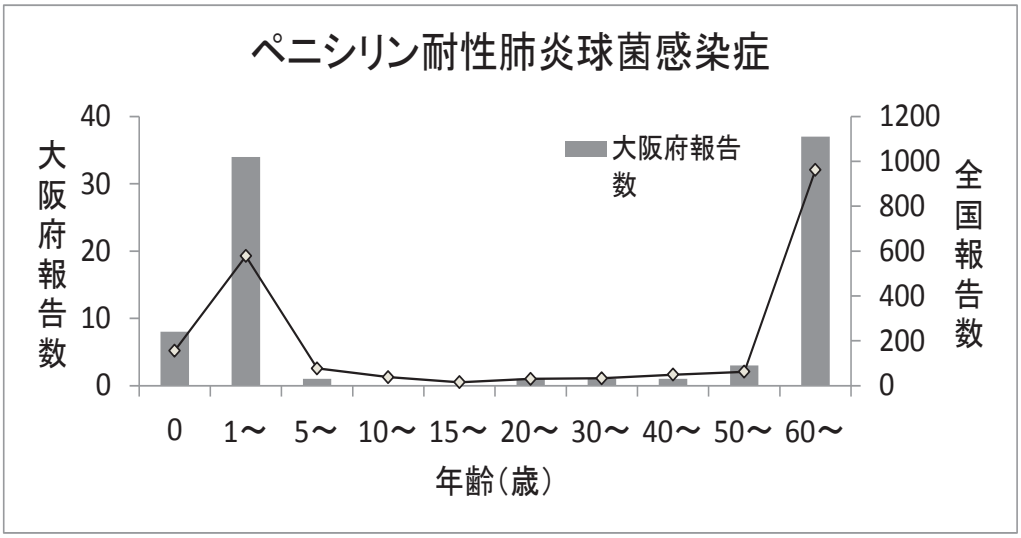


●ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

①豊能 20 例、②三島 5 例、③北河内 1 例、④中河内 4 例、⑤南河内 17 例、⑥堺市 28 例、⑨大阪市西部 11 例の 7 ブロックから、前年比 24.6%増の 86 例の報告があり、定点当たり報告数は 4.78 であった。年齢別構成では 0 歳児 8 例、1 ～ 4 歳児 34 例、5 ～ 9 歳児 1 例、10 ～ 14 歳 0 例、15 ～ 19 歳 0 例、20 ～ 29 歳 1 例、30 ～ 39 歳 1 例、40 ～ 49 歳 1 例、50 ～ 59 歳 3 例、60 歳以上 37 例であり、0~4 歳児と 60 歳以上が多く、それぞれ 48.8%、43.0%であった。

前年に比べこの２つの年齢群での増加が目立った。

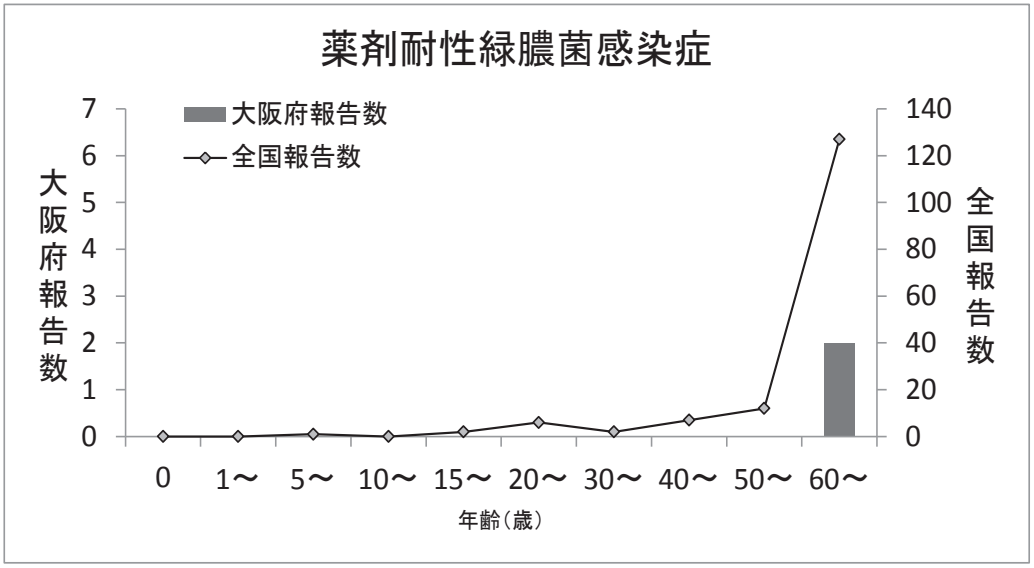
全国情報（NESID 年報）では前年比 2.8%減の 2,000 例の報告があり、定点当たり報告数は 4.2 と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると 0~4 歳児と 60 歳以上が多く、それぞれ 36.7%、48.1%と大阪府と同様であった。大阪府内の報告数は、全国の 4.3%であった。



●薬剤耐性緑膿菌感染症

⑤南河内 1 例、⑪大阪市南部 1 例の 2 ブロックから 2 例報告があった。前年度 12 例から 83.3%減少した。定点当たり報告数は 0.1 であった。年齢別構成は､2 例とも 60 歳以上であった。

全国情報（NESID 年報）では前年比 27.6％減の 157 例の報告があり、定点当たり報告数は 0.3 と大阪府より多かった。全国の年齢別構成をみると 60 歳以上が 127 例と 80.9%を占めた。大阪府内の報告数は、全国の 1.3%であった。



（文責：木下）

大阪府医師会：「2017（平成29）年7月、大阪府医師会より、府医ニュースとして抜粋を掲載した。

〜〜〜

2016-大阪府医師会-堺市衛研-小林　和夫　#1/6

2016年　感染症の動向や話題

2016年に感染症の動向で注目された事態（国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態：国際保健規則-世界保健機関）や感染症（抗微生物薬耐性、One Health、ジカウイルス感染症、結核や非結核性抗酸菌感染症、麻しん、梅毒、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律：感染症法の改正）、加えて、2017年度、大阪健康安全基盤研究所内に設置された大阪府基幹感染症情報センターや感染症発生動向調査週報の改訂について概説する。なお、個別の感染症に関する詳細は各項を参照されたい。

国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）

世界保健機関（World Health Organization: WHO）が国際保健規則（International Health Regulations: IHRs）に基づき、国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（Public health emergency of international concern: PHEIC）を宣言する。現在まで、１）インフルエンザの世界的大流行（2009年）、２）野生型ポリオウイルスの国際的拡大（2014年）、３）西アフリカ諸国（ギニア共和国、シエラレオネ共和国、リベリア共和国）におけるエボラウイルス病の流行（2014年）、４）中南米諸国におけるジカウイルス感染症の流行や合併症（妊婦感染による小頭症、頭蓋内石化、その他の中枢神経異常、流産やGuillain-Barre症候群）（2016年）の4疾患や事態に緊急事態宣言が発出されている。

日本においても、特に、抗ウイルス薬やワクチンがないエボラウイルス病やジカウイルス感染症に注意が必要である。エボラウイルス病（1類感染症）は致死性が高いこと（約40%）、また、ジカウイルス感染症（4類感染症）は蚊媒介性（ネッタイシマカや日本に生息するヒトスジシマカ）、合併症（妊婦感染による小頭症、流死産やGuillain-Barre症候群）の観点から重要である（http://www.who.int/features/qa/zika/en/）。

2016年03月29日、WHOはエボラウイルス病に関するPHEICを、2016年11月18日、ジカウイルス感染症に関するPHEICを、解除した。しかし、その後もエボラウイルス病の再燃症例やジカウイルス感染症の発生が報告されている。WHOは、再燃のリスクは低下しているものの、回復者にエボラウイルスが持続保持されていることから、新たな再燃は予想し得る事態と表明している（http://www.who.int/csr/disease/ebola/en/）。

薬剤耐性病原体感染症対策

薬剤耐性（Antimicrobial resistance: AMR）病原体感染症対策は世界的課題である。「薬剤耐性に関する国際行動計画（WHO、2015年5月）」を踏まえ、日本国は「薬剤耐性タスクフォース（厚生労働省、2015年11月）」や「薬剤耐性に関する検討調整会議（首相官邸、2015年12月）」を設置し、ヒトと動物等の保健衛生の一体的推進（One Health）の強化と新薬の研究開発に取り組むことが確認された。具体的事項として、１．普及啓発・教育、２．動向調査・監視、３．感染予防・管理、４．抗微生物薬の適正使用、５．研究開発・創薬、６．国際協力が設定されている（表1）。

表1．薬剤耐性（AMR）微生物・病原体対策の6分野と目標

分　野	目　標
１．普及啓発・教育	国民のAMRに関する知識や理解を深め、専門職等への教育・研修を推進

2016-大阪府医師会-堺市衛研-小林　和夫　#2/6

2．動向調査・監視	**AMR および抗微生物薬の使用量を継続的に監視し、AMR の変化や拡大の予兆を適確に把握**
3．感染予防・管理	**適切な感染予防・管理の実践により、薬剤耐性微生物の拡大を阻止**
4．抗微生物薬の適正使用	**医療、畜水産等の分野における抗微生物薬の適正使用を推進**
5．研究開発・創薬	**AMR 研究、薬剤耐性微生物に対する予防・診断・治療手段を確保するための研究開発を推進**
6．国際協力	**国際的視野で他分野と協働し、AMR 対策を推進**

また、2020 年までに達成すべき成果目標として、下記（1-8）が示されている（http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kokusai_kansen/pdf/yakuzai_honbun.pdf）。加えて、ヒトのみならず、動物（特に畜産）に抗微生物薬の適正使用（Antimicrobial stewardship：AMS）による薬剤耐性微生物の減少にも言及している。

1) 2020 年の人口千人当たりの 1 日抗菌薬使用量を 2013 年水準の 3 分の 2 に減少させる。
2) 2020 年の経口セファロスポリン系薬、フルオロキノロン系薬、マクロライド系薬の人口千人当たりの 1 日使用量を 2013 年水準から 50%削減する。
3) 2020 年人口千人当たりの 1 日静注抗菌薬使用量を 2013 年水準から 20%削減する。
4) 2020 年の肺炎球菌のペニシリン耐性率を 15%以下に低下させる。
5) 2020 年の黄色ブドウ球菌のメチシリン耐性率を 20%以下に低下させる。
6) 2020 年の大腸菌のフルオロキノロン耐性率を 25%以下に低下させる
7) 2020 年の緑膿菌のカルバペネム（イミペネム）耐性率を 10%以下に低下させる。
8) 2020 年の大腸菌および肺炎桿菌のカルバペネム耐性率 0.2%以下を維持する。

1 つの健康（One Health）や人獣共通感染症対策

One World One Health Approach（1 つの世界、1 つの健康）とは、ヒト、動物、環境の衛生に関する分野横断的な課題に対し､関係者が連携してその解決に向けて取り組むという概念を表す言葉であり、国際的にも認識が高まっている。具体には人獣共通感染症（ヒト感染症の原因病原体の約 60%は動物を起源）の制御・予防、蔓延の防止、生態系の保全のため、国際機関が分野を越えて協力することを意味する。「One Health」はヒト、動物（家畜や野生）の健康は 1 つという考え方で、医学と獣医学領域の密な連携が求められている（https://www.ayyoshi.com/one-world-one-health/、http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000121245_1.pdf）。

ジカウイルス感染症の発生動向

世界保健機関国際保健規則緊急委員会は 2016 年 02 月 01 日にジカウイルス感染症を国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態（PHEIC）と宣言した。特に、ジカウイルス感染が関連する神経障害である妊婦感染による小頭症や Guillain-Barre 症候群の重篤性を考慮し、宣言した。ジカウイルスの胎児感染に伴う流産や先天性小頭症は妊娠第 1 三半期（13 週まで）に好発することがアメリカ合衆国疾病管理予防センター（Centers for Disease Control and Prevention：CDC）から報告されている（https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/65/wr/mm6509e2.htm）。

日本では、2016 年 02 月 15 日、ジカウイルス感染症（病型：ジカウイルス病、先天性ジカウイルス感染症）が 4 類感染症に追加された。ジカウイルス感染症は蚊媒介性（ネッタイシマカやヒトスジシマカ）であるが、ジカウイルス感染症の流行は、現在までヒトスジシマカのみが生息する地域では確認されていない。日本産ヒトスジシマカのジカウイルス感受性を正しく評価するとともに、媒介蚊対策の実施に向けた準備が必要である。2014 年に日本でもデング熱の国内感染が発生し、デング熱媒介蚊（日本国内ではヒトスジシマカ）対策と同様、幼虫対策の徹底が望まれる
（http://www.nih.go.jp/niid/ja/allarticles/surveillance/2346-iasr/related-articles/related-articles-437/6610-437r05.html）。蚊媒介に加え、輸血や性行為を介した感染症例も報告されている。

2016 年の発生動向では、日本で 12 例（うち、大阪府：1 例）が報告された（全て輸入症例）。感染経路は１）主として蚊媒介性、２）性行為感染、３）母子感染（胎内感染）、４）輸血である。特に、性行為感染に関し、WHO は１）流行地から帰国した男女は、感染の有無に関わらず、最低 6 か月間は性行為の際にコンドームを使用するか性行為を控えること、２）行地から帰国した妊娠を計画しているカップル、或いは、女性は、最低 6 か月間は妊娠の計画を延期することを推奨している。

WHO は、2016 年 11 月 18 日、WHO はジカウイルス感染症および神経疾患と新生児奇形の増加に関する国際保健規則（IHRs）緊急委員会に基づき国際的な脅威に対する公衆衛生上の緊急事態の解除を声明した。しかし、この声明は、流行が終息したことによるものではなく、ジカウイルス感染症が、さらに長期的な体制に移行する必要があるために解除されたものである。引き続き、ジカウイルス感染は注意を要する
（http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html）。

結核の減少や非結核性抗酸菌感染症の顕著な増加

本稿に収載されていないが、国際的、かつ、国内的に極めて重要な感染症である結核（2 類感染症）の発生動向について簡潔に記す。結核、ヒト免疫不全ウイルス感染症／後天性免疫不全症候群、マラリアは世界三大感染症である。世界の新登録結核患者数は 1,040 万人（罹患率：142／対人口 10 万人）、死亡者数は 180 万人（死亡率：24／対人口 10 万人）、しかし、G8 など先進国はほとんど低蔓延国（低蔓延：罹患率　10 未満／対人口 10 万人）である。日本の結核罹患率（2015 年）は 14.4 であり、日本は結核の中蔓延国である。世界や日本において結核は甚大な健康被害を提供し続けている（表 2）
（http://www.who.int/tb/publications/global_report/en/、
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000132952.html、
http://www.jata.or.jp/rit/ekigaku/index.php/toukei/adddata/）。

日本国内における結核罹患率（全国罹患率：14.4）については依然として地域差がみられ、首都圏、中京、 近畿地域等の大都市において高い傾向が続いている。都道府県では大阪府（罹患率：23.5）、政令指定都市で大阪市（34.4）が全国で首位であり、また、堺市（22.0）も高く、日本国内において大阪府内は結核の高浸淫地域である。

表 2. 結核の発生動向-2015 年（世界、日本、大阪府、大阪市、堺市）

	世界（推計）	日本	大阪府	大阪市	堺市
新登録患者数	1,040 万人	18,280 人	2,074 人	925 人	185 人
罹患率（対人口 10 万人）	142	14.4	23.5	34.4	22.0

2016-大阪府医師会-堺市衛研-小林　和夫　#4/6

死亡者数	180 万人	1,955 人	237 人	92 人	23 人
死亡率（対人口 10 万人）	24	1.6	2.7	3.4	2.7

感染症法の規定対象外疾患である非結核性抗酸菌（nontuberculous mycobacteria：NTM）感染症は結核菌以外の培養可能な抗酸菌による慢性感染症である。病原性 NTM 感染症の原因菌内訳では、*Mycobacterium avium* complex（MAC）が約 90%を占め、次いで、*M. kansasii*、*M. abscessus* である。厚生労働科学研究委託費（新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業）で 2014 年に調査した日本における肺 NTM 感染症の罹患率（対人口 10 万人）は 14.7（罹患率から推計した年間新規患者数：18,700 人）であり、2007 年の調査（5.7）に比し 2.6 倍、増加している（https://wwwnc.cdc.gov/eid/article/22/6/15-1086_article、http://www.amed.go.jp/news/release_20160607-02.html）（図 1）。肺結核（全結核の約 80%）を含む結核の罹患率は 14.4 であり、肺 NTM 感染症の罹患率は既に結核を凌駕している。また、肺 NTM 感染症の年間死亡数は約 1,500 人であり、増加している。

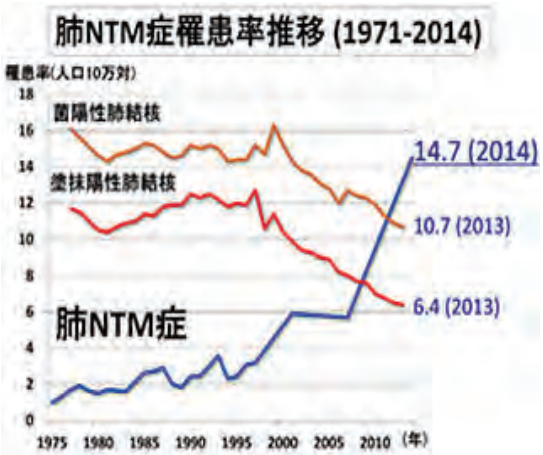


図 1. 肺非結核性抗酸菌（NTM）感染症の罹患率の年次推移

NTM 感染症は結核と異なり、ヒトーヒト感染がないため患者の隔離は不要である。しかし、多くの NTM は薬剤耐性であり、長期間の治療や経過観察が必要となる。今後、NTM 感染症の発生動向や対策が重要である。

麻しん排除状態の認定と関西国際空港事業所勤務者の集団感染

2015 年 03 月 27 日、世界保健機関西太平洋地域事務局から、日本が麻しん（5 類全数把握感染症）の排除状態にあることが認定された（https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20150519_mashin_haijo.pdf）。日本が麻しん排除状態にも拘らず、2016 年 8 月から 9 月、関西国際空港事業所勤務者の集団感染（33 名）が報告され、ワクチン接種を含む麻しん対策の重要性を再認識した（http://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&pageId=25386）。排除後も、麻しんに関する特定感染症予防指針に基づき、ワクチン接種、適切な発生動向調査やウイルス遺伝子解析などの対策が必要である（http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/dl/241214a.pdf）。

同様の集団感染事例は、2014 年 12 月から 2015 年 02 月、麻しん排除国であるアメリカ合衆国（Disney theme park、カリフォルニア州オレンジ郡）でも発生している。海外渡航、空港やアトラクション会場における注意喚起、さらに、世界の全ての国が排除状態でない現状を考慮すると排除状態においても高いワクチン接種率が感染防止に必要である（https://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm6406a5.htm）。

表 3. 麻しんの発生動向・報告数（日本、大阪府）

	日　本	大阪府
2016 年	159　人	51　人 （うち関空関連：33　人）
2015 年	35　人	2　人
2014 年	462　人	45　人

梅毒の増加

梅毒（5 類全数把握感染症）の報告数が顕著に増加している。2016 年に全国報告で 4,518 人が報告され、1974 年（4,165　人）以来、42 年ぶりに年間 4,000 人を超えた。大阪府においても、過去 5 年間で男女計は 5 倍以上、女性は 10 倍以上の増加、そして、若い世代（10-20 歳代）の増加が顕著である。女性、かつ、生殖年齢において増加していることから、先天梅毒の増加も懸念される（http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/）。

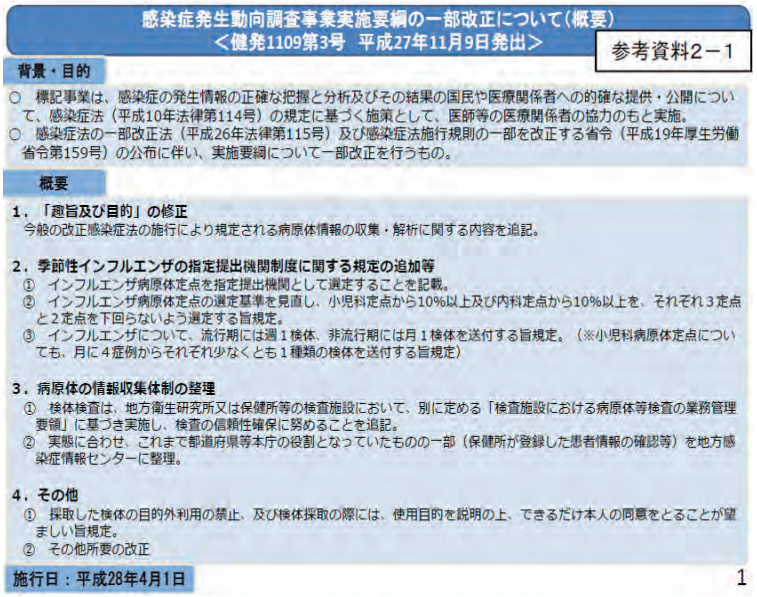
表 4. 梅毒の発生動向・報告数（日本、大阪府）

	日　本	大阪府
2016 年	4,518　人	591　人
2015 年	2,690　人	324　人
2014 年	1,661　人	242　人

感染症法の改正

2016 年 04 月 01 日より、改正感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）が施行されている。改正感染症に伴い感染症発生動向調査事業実施要綱が改正された。改正の主要な事項は、季節性インフルエンザの臨床検体指定提出機関制度、病原体情報収集体制の強化・整理、検査の精度管理、倫理的配慮である（図 2）。医師会をはじめ、関係機関のご理解・ご協力により、改正感染症法の実施は円滑に進捗している。

2016-大阪府医師会-堺市衛研-小林　和夫　　#6/6



感染症発生動向調査事業実施要綱の一部改正について（概要）
＜健発1109第3号　平成27年11月9日発出＞

参考資料2－1

背景・目的

○　標記事業は、感染症の発生情報の正確な把握と分析及びその結果の国民や医療関係者への的確な提供・公開について、感染症法（平成10年法律第114号）の規定に基づく施策として、医師等の医療関係者の協力のもと実施。
○　感染症法の一部改正法（平成26年法律第115号）及び感染症法施行規則の一部を改正する省令（平成19年厚生労働省令第159号）の公布に伴い、実施要綱について一部改正を行うもの。

概要

1．「趣旨及び目的」の修正
今般の改正感染症法の施行により規定される病原体情報の収集・解析に関する内容を追記。

2．季節性インフルエンザの指定提出機関制度に関する規定の追加等
①　インフルエンザ病原体定点を指定提出機関として選定することを記載。
②　インフルエンザ病原体定点の選定基準を見直し、小児科定点から10%以上及び内科定点から10%以上を、それぞれ３定点と２定点を下回らないよう選定する旨規定。
③　インフルエンザについて、流行期には週１検体、非流行期には月１検体を送付する旨規定。（※小児科病原体定点についても、月に４症例からそれぞれ少なくとも１種類の検体を送付する旨規定）

3．病原体の情報収集体制の整理
①　検体検査は、地方衛生研究所又は保健所等の検査施設において、別に定める「検査施設における病原体等検査の業務管理要領」に基づき実施し、検査の信頼性確保に努めることを追記。
②　実態に合わせ、これまで都道府県等本庁の役割となっていたものの一部（保健所が登録した患者情報の確認等）を地方感染症情報センターに整理。

4．その他
①　採取した検体の目的外利用の禁止、及び検体採取の際には、使用目的を説明の上、できるだけ本人の同意をとることが望ましい旨規定。
②　その他所要の改正

施行日：平成28年4月1日

1

図 2.　感染症発生動向調査事業実施要綱の改正

<u>大阪府基幹感染症情報センターの設置や感染症発生動向調査週報の改訂</u>

2017 年 04 月 01 日より、大阪府内の感染症発生情報を大阪府基幹感染症情報センター（大阪府立公衆衛生研究所と大阪市立環境科学研究所の統合後、地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所内に設置）に集約した。かつ、府内各自治体が厚生労働省感染症サーベイランスシステム（National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases：NESID）に登録された情報を相互に閲覧可能となり、感染症発生動向情報を正確・迅速に共有でき、利便性が向上した。また、従来、大阪府感染症発生動向調査週報は主に定点把握感染症を解析・報告していたが、2017 年 05 月 25 日から、大阪府感染症発生動向調査週報は感染症法に規定されている全数および定点把握感染症の全てを網羅し、より広範な感染症発生動向情報を解析・発信している。

（文責：堺市衛生研究所　小林　和夫）